令和6年

決算審査特別委員会会議録

令和6年9月19日

(第 2 日)

忠岡町議会

令和6年 決算審査特別委員会会議録（第2日）

令和6年9月19日午前10時、決算審査特別委員会を忠岡町委員会室に招集した。

1. 出席委員は、次のとおりであります。

委員長	二家本英生	副委員長	今奈良幸子
委員	小島みゆき	委員	松井 匡仁
委員	河野 隆子	委員	尾崎 孝子

1. 欠席委員は、次のとおりであります。

なし

1. 本委員会に、出席を求めた理事者は、次のとおりであります。

町 長	杉原 健士	副町長	井上 智宏
町長公室長	立花 武彦		
町長公室次長兼自治防災課長		町長公室次長兼秘書人事課長	
	南 智樹		中定 昭博
産業住民部長	新城 正俊		
産業住民部次長兼生活環境課長		産業住民部次長兼住民人権課長	
	小倉由紀夫		谷野 彰俊
健康福祉部長	二重 幸生	健康福祉部次長兼保険課長	
			大谷 貴利
教育部長兼教育総務課長		教育部理事兼学校教育課長	
	村田 健次		石本 秀樹
消 防 長	岸田 健二	消防次長兼予防課長	下川 浩幸

(各課課長同席)

1. 本議会の職員は、次のとおりであります。

事務局長	柏原 憲一
係 長	酒井 宇紀

(会議の顛末)

委員長（二家本英生議員）

皆さん、おはようございます。

それでは、一昨日に引き続きまして、決算審査特別委員会を再開いたします。

本日の出席委員は6名全員で、委員会は成立しております。

(「午前10時00分」再開)

委員長（二家本英生議員）

本日は、88ページから99ページの第4款 衛生費につきまして、担当課の説明を求めます。

(衛生費 担当課説明)

88ページ、下段でございます。第4款 衛生費、決算額6億9,011万6,701円、第1項 保健衛生費、決算額2億2,548万1,651円、第1目 保健衛生総務費、決算額3,021万9,491円で、前年度と比べ249万7,114円増額となった主な要因は、職員の異動に伴う増でございます。

第2目 保健センター費、決算額1億4,671万767円で、前年度と比べ1,585万6,980円の減で、主な要因といたしましては、国庫支出金精算返還金の減によるものでございます。

93ページをお願いいたします。第3目 環境衛生費、決算額1,881万9,629円で、前年度と比べ519万721円の減で、主な要因といたしましては、第22節 償還金利子及び割引料で霊園使用料返還金の減によるものでございます。

94ページ下段でございます。第4目 環境整備費、決算額43万6,995円で、前年度と比べ9万9,824円減額となった主な要因は、第10節 需用費において、消耗品費の減によるものでございます。

95ページでございます。第5目 公害対策費、決算額58万695円で、前年度と比べ24万6,908円減額となった主な要因は、第18節 負担金補助及び交付金において、大津川水域保全対策協議会負担金の減によるものでございます。

第6目 新型コロナウイルスワクチン接種事業費、決算額2,871万4,074円で、前年度と比べ3,483万5,924円の減で、主な要因といたしましては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、集団接種を実施しなかったことに係る諸費用の減によるものでございます。

97ページでございます。第2項 清掃費、決算額4億6,463万5,050円、第1目 清掃総務費、決算額1億4,731万2,776円で、前年度と比べ221万5,687円減額となった主な要因は、第12節 委託料において、一般廃棄物処理基本計画

等策定業務委託料の減によるものでございます。

98ページでございます。第2目 クリーンセンター費、決算額3億1,732万2,274円で、前年度と比べ817万6,493円減額となった主な要因は、第10節 需用費において、光熱水費の減によるものでございます。

説明は、以上でございます。どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

委員長（二家本英生議員）

説明は以上のとおりです。ご質疑をお受けいたします。ご質疑ありませんか。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、90ページからになります。90から91ページ。

出産子育て応援事業についてお尋ねしたいんですが、これは、説明書では3ページにわたっておりまして、どこを見たらいいのかわからなかったんですけども、去年が新規で1,327万8,000円からスタートされております。

今年度、令和5年度もこの事業をされているということで、どんな評価というか、皆さんからどんな印象というか、反応があったとか、教えていただけますでしょうか。また、引き続き継続していく事業なのでしょうか。教えていただけますか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

出産子育て交付金につきましては、妊婦さんのときに5万円と、出産なさってから5万円のギフトをプレゼントするというものになるんですけども、本町といたしましては、現金の給付ということで代えさせていただいております。

その現金の、どうして現金かということになりますけれども、例えば、物品を現金に代わって支給するということでのギフトということでも大丈夫とは、国のルールではなっておるんですけども、やはり自由に使っていただくことで、お母様、お父様、家族の皆様が一番必要なものを選んでいただけるかなということで、本町はそのように対応させていただいております。

この分につきましては、国の事業でございますので、お母様、家族の皆様方には喜んでいただけるかなというふうには考えておりますので、こちら、国のルールに基づくものにはなるんですけども、引き続き実施してまいる予定でございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。親御さんにはとてもうれしいギフトになるかと思います。現金で頂くのが一番使い勝手がいいと思うので、ぜひこの事業、国のルールに基づいて続けて

いつていただきたいと思ひます。

次に、続けてよろしいですか。

次、91ページの成人歯科検診のことでお伺ひしたいんですけども、こちら、町内の歯科医院に委託されて実施されているかと思うんですけど、私が行っている歯医者ではやっっていないんですね。それというのは、町内全部ではなくて、歯医者さんのほうからやりますと手を挙げるものなんですか。それとも、願ひするものなんですか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

基本的には、歯科医師会様のご協力を得てという形にはなるんですけども、その検診を受けてくださるかどうかという部分につきましては、その医療機関さんに委ねる部分もございまして、実施しているところとそうでないものというのが存在する形になっております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、やはりこれは好評な事業なのでしょうか。去年より受診率が4.5%、今回3.5%。知る人ぞ知るといふか、受ける人ばかり固まってしまっているような気がするんですけども、どのような感じでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

おっしゃるように、この成人歯科検診につきましては、決まった項目の検査という形にはなるんですけども、伸び悩んでいる部分につきましては、本町の周知不足というのも実際、あるかというふうにご考慮しております。

この分につきましては、また秋に行います健康まつりの、健康啓発ブースなどでもチラシを配架するなど、また、いらっしゃる住民の方々に対しましても、直接、集団検診ですとか住民検診のお声がけをさせていただくと併せて、この歯科検診につきましても広く周知させていただけたらなというふうにご考慮しております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。ぜひ、健康まつりとかで広げていつていただけたらと思ひます。

口からフレイル予防というか、口腔内は大事なことなので、ぜひよろしくお願ひいたします。

もう一つだけよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、引き続きなのですけれども、91、92ページと健康診査事業といいまして、保健センターで集団検診とか、医療機関で個別検診をしているかと思うんですけれども、こちらの集団検診というのはもう日程が決まっていはると思うんですね。それと、個別健診は自由に行けると思うんですけれども、町としてはどちらのほう負担が大きいとか、そういうのはあるんでしょうか。特にないですかね。個別のところ検診を受けて、事後に払うというような形になるんですか。教えていただけますか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

どちらが負担というものはないかというふうに考えるんですけれども、こちらにつきましても、泉大津市医師会のご協力を得ながら実施しているものになります。

集団検診につきましては、年8回、本町保健センターで実施しておりまして、その8回以外の日は3月末まで、個別の町内医療機関を中心に、検診を受けていただく体制は整えております。

ただ、医療機関によって実施できる検査と、実施されていない検査というのがありますので、それは住民の方には、受けられたいがん検診の種別によって行っていただく医療機関は別になるんですけれども、未受診の方につきましても、これからもまだ、先ほど申し上げた健康まつりなどで受診勧奨を、やはり早期発見、早期治療というものを私たちは推進してまいりたいというふうに考えておりますので、受診勧奨というのも、今、9月ですけれども、もう半年ありますので、引き続き行ってまいりたいというふうに考えております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。

年8回と、3月末まで個人でやっていただけるということで、私も3年ほど前までは、自分が仕事をしていて受けることができなかつたんです。そうしたら、委託先なんですかね、お電話がかかってきて、個人的に、ぜひ受けてくださいと。もう2年間ぐらいかけて電話をくださったんです。それで行ってみようと思って集団検診に電話したら、いっぱい

ですと言われて、やっぱり個別で行ってくださいということになりまして、町内でなくて、府中クリニックなら2時間、3時間でもう全部検診していただくことができたんです。ですので、またぜひそれも併せて、同じ金額なら府中クリニック、午前中とか午後、二、三時間で済みますので、ぜひ声かけをしていっていただきたいと思います。

その件について、お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

今年度は集団検診を、ごめんなさい、11回させていただく予定になっております。

おっしゃっていただきました電話勧奨などにつきましては、国民健康保険の特定健診のほうで積極的にさせていただいているものにはなるんですけども、おっしゃってくださいましたように、その時期によっては集団検診の人気の高い時期などは、せっかくお申し込みいただくチャンスという部分を、そのような形でお断りさせていただいてしまっている部分、実際にございますので、その点につきましては申し訳なく思っております。

ただ、本町の1日当たりの集団検診の受入れの、スペースが保健センターのあの場所になりますので、たくさん受け入れるというのが難しい現状もございまして、今回のように回数を分散させるですとか、あとは毎年、同じがん検診の組合せで行っているのではなくて、前年度の住民の皆様方の傾向などを参考にしながら、毎年度、どのようながん検診とがん検診の組合せにすると受診していただきやすいかなというのは検討しながら、日程というのは委託業者さんのほうと調整しているところもございますので、令和7年度の実施につきましても、そのように準備をしていくつもりで考えております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ご丁寧に、どうもありがとうございます。回数も増やしていただき、受けるチャンスを増やしていただく、また、がんの組合せも考えていただけるということで、ぜひよろしくお願いします。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

89ページの、忠岡のエイフボランティアネットワークの補助金なんですけれども、これは昨年も同じくらい出ているんですけども、私もはっきり分からなくて、調べさせて

いただいたらいろいろ事業があるということは載っていたんですけども、具体的に忠岡町としてはどのようなことをされているのか、教えていただきたいんです。

委員長（二家本英生議員）

小倉課長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

エイフボランティアネットワークですけども、女性の組織力を結成し、住民の健康づくり、地域の環境づくり、福祉のまちづくりの実践活動を推進するということで、主な活動といたしましては、ゴキブリのホウ酸団子を作っていたり、あと石けん作り、あと結核予防のボランティアとか、広報活動とか、そういうふうなところで活動のほうをされている団体でございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。次に行きます。

92ページなんですけれども、妊婦健診とか、いろいろ載っているんですけども、不妊治療の補助制度が昨年までは載っていたんですが、国保適用になったからもう今回はなくなったのかなと思うんですけども、町独自でこれから何か、やっぱり保険でできないところもあるので、町独自で何か考えていくということは検討されているのか、教えていただきたいんです。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

おっしゃいますように、不妊治療というものにつきましては、令和4年度に医療の診療報酬化されたものがございます。

令和5年度、本町は当初予算を計上しておったんですけども、この内容につきましては、大阪府で承認を得た、不妊の承認を得た方の忠岡町の補助というものが令和5年度は残っておりましたので、予算計上の段階では予算させていただいたんですけども、実績といたしましてはゼロ件だったというものになっております。

おっしゃっていただきましたような、町単独の助成というものにつきましては、現状のところといたしましては検討はしておりません。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。

なかなか不妊治療って、やっぱりお金のすごくかかる部分もまだ残っているので、また検討していないということではなく、検討していただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

94ページの、浜霊園の使用料の返還金なんですけれども、これはどれぐらいの分が。すみません、昨年よりは370万ぐらい減っているんですが、何件あったのかと、また返還金の金額を全額返すのではなく、検討するということまでは私、自分が分かっているんですが、その後どうなっているのかということも教えていただきたいんですが。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

令和5年度につきましては、返還数は9区画でございます。令和4年度につきましては、21区画あったところで、この差が出ている状況でございます。

使用料につきましては、先日お伝えさせていただいたとおり、第1期の区画につきましては現在、42万4,000円の使用料、第2期の区画につきましては60万、第3期の区画につきましては65万という形の使用料になってございます。

令和6年の第1回の定例会におきまして、その他案件において、令和5年度に開催した墓地管理委員会での会議の内容について説明させていただいたかと思ひます。説明内容につきまして、今後の使用料の返還の取扱いについて、墓地管理委員会のほうでは3つの案をお示しさせていただいて、その1つ、岸和田市の案をベースに進めるという形で、今後の条例改正に向けて議案の提出、所定の手続という内容でございます。

今後、また墓地管理委員会のほうを開催させていただきまして、最終案という形でお示しさせていただき、ご意見をいただいた上で、議会のほうへ条例改正案を上程させていただいて、新しい返還方式で、一部返還という形で進めさせていただきたいなというふうに考えているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。

前にお聞きしたとおり、やっぱり町長のということでもよろしかったんですかね。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

全額返還していた理由というところですか。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

今まではずっと全額だったけども、内容によって、町長の判断で全額返す人もあるし、一部の人もあるしという感じのことを言われていたように思ったんですけれども。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

これまでは、昭和53年に第1期が一番最初にスタートしているんですけれども、その開設当時から使用料につきましては、基本、条例上は返還しないという形にはなっておりますが、ただし書がございます、特に町長が正当な理由と認めたときにつきましては、全額または一部返還することができるという形になっております。

これまでの返還理由を聞いていく中で、正当な理由という形で、これまで全額、一部の返還はなく、全て全額返還してきたというところを、今後、見直しをかけていきたいというところがございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

以前にそれ、聞かせていただいたことと一緒にあったんですが、申込みされたときには何か全額返すよというのを、私も浜霊園にあるんですけど、そういうふうに主人の親からは、全額返すって聞いているでということはずっと聞いているので、そのところがやっぱり何か、もう一つ納得できない部分もあるんですが、また条例とかを出してこられるということで、そのときにまたしっかりとお聞きしたいなと思います。ありがとうございます。

もう1個いいですか。

委員長（二家本英生議員）

どうぞ。

委員（小島みゆき議員）

すみません。95ページの予防接種健康被害の事故調査委員会委員報酬というのが出ているんですけども、これ、予防接種はコロナとかの分になるんですか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

おっしゃるとおり、こちらはコロナウイルスワクチン接種に係るものでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

これはやっぱり、被害が町のほうに届いているということなんですか。件数とかも、もし分かれば教えていただきたいんですが。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

こちらの調査、健康被害かどうかを調査する会という形になるんですけれども、令和5年度は1件の申請がございましたので、1回開催しておるものでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。

その調査をされて、体調はやっぱり大変な状況の方なのか、相談はあったけれどもそんなに大したことなく、仕事にも復帰されてみたい形なんですか。そこまではあんまり言えないんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

個人情報に関わるものもあるので、一部差し控えさせていただきたいんですけれども、現在調査中という形になっております。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

重篤でなければいいなというふうに思いますので、またしっかりと、ほかの方もまたいらっしゃるかもしれないし、声を上げられない方もいらっしゃるかもしれないので、また調査をしっかりとよろしく願いいたします。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、2点お伺いいたします。

霊園使用料の件です。先ほど、今、小島議員もお聞きになられておられたんですけれども、今の答弁の中で、1回も今年、墓地管理委員会を開いていないようです。私は令和4年度か、5年度か、委員をやったんですが、3回ぐらい開きまして、6年度は1回も開いていないんですが、今、答弁されていた内容を今後、墓地管理委員会を開いて、改定、上

程していきたいということやったんですが、予定としては、今後のスケジュール的なもの
というのはどのようになっているのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

この後、秋口ぐらいに一度開催させていただきまして、先ほど、小島議員の質問にあり
ましたように、5年度である程度決めて、ご意見いただいている、岸和田市で使用してい
るB案をベースに行っていきたい。

そのB案の内容につきましては、岸和田市さんは使用許可取得後1年未満の使用につき
ましては8割返還という形を取っております。1年以上使用した方につきましては5割返
還、墓石を建立している場合につきましては、使用年数にかかわらず2.5割返還という
形の対応をしているところでございます。

この案をベースにという形でご意見をいただきましたので、今後につきましても、改め
てご意見をいただいた上で、その案をベースに、条例改正案を議会のほうに上程させてい
ただくように、今、予定をしているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

その予定は来年度、7年度の頭からそれを実行するために、今年度中に上程したいとい
うスケジュール感でよろしいのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

この辺につきましてはこれまでも、先ほどもご説明させていただいたように、使用権を
取られたときにもご説明、全額返還しますとお話しさせていただいているということもご
ざいますので、使用者の方々には、皆さん、今、使用権を取っていただいている方につき
ましては、案ができました段階で皆さんに周知させていただきます。

それにプラス、ある程度周知期間、ご家族でお話ししていただく期間も設けさせていた
だいて、対応させていただきますので、令和7年度ということではなく、施行に向けて、
もう少しスパンを置きまして。また、実際にするまでの間、返還につきましては全額返
還、施行するまでの間はという形を考えておりますので、少なくとも1年ぐらいのスパン
を置いた上で、施行という形に持っていきたいなというふうに考えているところでござい
ます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。ほな、いつとはまだ決まっていないということですね。また最終的に墓地管を開いているということやと思います。

もうそれで理解しました。合っていれば。違います。違うかったらお願いします。

委員長（二家本英生議員）

新城部長。

産業住民部（新城正俊部長）

議会上程、議会の可決というのは、スケジュール的には、今後の議会のやり方としましては12月の議会と、その次には3月議会というふうにございます。今年度につきましては。

ただ、その議会上程できる準備ができたなら、早急に議会上程をしまして、施行に関しましてはまだ、今、先ほど次長がお答えしたように周知の期間もございますから、その辺のところは後ぶれしていくという可能性はありますけれども、準備でき次第、条例改正の上程をさせていただきまして、ご可決いただきましたら、準備期間を経て執行していくというような形になると思います。

以上でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。よく分かりました。では、次の質問に移ります。

次は97ページ、ごみのほうで、令和4年度の決算で、継続して従前の方法でごみ処理を行っていた場合との比較について、いかほど軽減されるのでしょうかという質問に対しまして、試算については協議中という回答がなされました。

また、令和5年の12月議会において、令和6年度予算審議の場で先駆けて説明いたしますという説明があったんですけども、そこから全く、1回もないということなのですが、現状としてはどのような、今までと次の予算の、何て言うんですか、試算の状況を説明すると言って、ないみたいなのですが、その辺はありますでしょうか。公表できるものというものはあるんですかね、この決算でということですが。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

長期での試算というのは持ち合わせてはおらないんですけども、5年度の予算と6年度の予算の比較にはなるんですけども、歳出で約1,860万円の減が見込まれまして、歳入で約1,060万の土地貸付収入を見込んでおりまして、合計で約2,900万円の効果額を見込んでいます。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。ありがとうございます。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

クリーンセンター費が出ていまして、もう5年、今年の3月31日でもう、忠岡町は勝手に火を止めてしまっていますので、これは決算、もう大方の大きい金額というのは、最後の決算になるのかなというふうに思うんですけど、なぜ止めたかというのは、もう産廃のほうにかじを切ったというところなんですけど、そもそも今、一般家庭ごみは20トンしか焼いていなかったと、この年度ね。

今回、今度、9年後に200トンの産廃焼却炉を誘致されるということなんですけど、環境問題についてすごく私は心配しているんですけど、環境を悪化させないと言えるのかというところで、町は排出基準値以下で、町独自の基準を設けるというふうに言うてます。

それで、忠岡町のクリーンセンターで焼却していたときよりも、有害物質が出ないように、環境を悪化しない基準にするのかという点について、お答えをお願いしたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

今後、施設の設計等を進めていくわけでございますけれども、その中で環境基準の遵守はもちろんですけれども、議員もおっしゃっていましたが、環境基準よりもより厳しい目標値を設定して、環境保全に配慮して事業のほうを進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今、この令和5年度、忠岡町のクリーンセンターで焼却していたときは、排ガス中のダイオキシン類は大体0.05ナノグラム以下でありました。今度誘致するこの220トンの産廃焼却炉は、100トン以上でありますので、ダイオキシン類の排出基準値は0.1ナノグラムになると。0.1ナノグラムということは、今より悪化することになると。今は0.05ナノグラムですから、悪化することになると。

悪化させないと、今、環境基準は厳しくしていくというお答えでありました。なので、悪化させないと言うなら、このダイオキシン類、0.05ナノグラム以下という町独自の

基準。それを設けなければならないと思います。

町独自の基準、環境基準を厳しくと言うのであれば、現行より悪化させない基準を設けるのかという点について、いかがですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

新施設でございますけれども、今まで同様に、各種基準が満たされる施設が建設されて、適切な運転がされることにより、環境保全が遵守されるというふうに考えているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今まで同様と言うのであれば、今現在、このクリーンセンターは0.05ナノグラム以下であったので、やはり大気汚染物質を出さない厳しい基準をこの産廃誘致のときに設けなければ、環境は悪化するということになるのではないのでしょうか。数値を見ただけでも。それだけのごみをたくさん焼くんやから。その点についてどうでしょう。環境は悪化するのではないですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

新施設でございますけれども、環境基準を守りながら、それよりも厳しい目標値も設定し、適切な運転管理をしていくことによって、環境保全が保たれると。

先ほどの答弁と同じこととなりますけれども、そういうふうな感じで事業を進めていきたいというふうに考えているところでございますので、ご理解のほう、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

質問はいいんですけれども、できれば令和5年度の決算に関わることに関連づけての質問をお願いします。

委員（河野隆子議員）

でも、これは令和5年度、もう3月31日でもう火は止まっているわけじゃないですか。決算でクリーンセンターの何億というのは、もう、恐らく細かい諸費用なんかは来年もあるかもしれませんよ。でも、もうこれは最後の決算と見ていいのではないかというふうに。なので、関係ないと言うけど、この産廃誘致をしているので、職員さんも令和3年からずっと動いているわけですよ。そうしたら人件費なんかもこの中に含まれている。な

ので、関係ないというのはおかしいというふうに思いますけれど。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

無理くりひっつけらんと、令和5年度に関する委託料とか、この辺について質問されるならいいけど、これ結びつけて今後始まる、この4月からそれに関して三重のほうにも持って行って、いろんなことでこれまでも質問はされていますけど、その分については、この決算から見て無理があるのではないかと思います。

質問されるのであれば、もう簡単にやってもらうほうがいいのではないかと思いますけど、委員長、どうなんですか。

委員長（二家本英生議員）

お待たせしました。令和5年度で人件費も出ています。その人件費でもってこの計画を進めていっているというのもあるので、委員におかれましては、できる限り短めの質問でお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

いろんな指摘はあるけれども、このクリーンセンターというのは、もうこの年度で止めたというところで、やっぱり町の責任は大きいというふうに思いますよ。

そうしたら、令和5年度に限ってということやったら、私、いろいろとこの時系列を昨日調べて書いてきたんですけど、令和5年度、この年度の1月20日に、公民連携の締結を議決したわけですよ。これは令和5年度ですよ。何ですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

4年度です。

委員（河野隆子議員）

4年度でしたか、すみません、失礼。令和4年ね。すみません。

それで、4年度やけど、議決したのは。

委員長（二家本英生議員）

4年度でした。

委員（河野隆子議員）

議決は4年度の1月でしたか。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

令和5年の1月です。

委員（河野隆子議員）

令和5年の1月ということは、令和4年度のほうになるということ、年度やからね。

でも、その議決をしたというところで、これはどんどん進んで、もう止めちゃっているわけですよ。なので、そこで、何でこの議決案件になってしまったのかというと、忠岡町の文書管理について、そしたら聞かせていただきます。

文書管理、それについて質問したいんですけど、この産廃焼却施設の誘致、忠岡町は方向転換をぱっとしたというところで、なぜ公民連携にもう変わっていったのかというところで、住民が情報公開を求めたのに、町は文書不存在ということで情報公開しなかったという流れがあって、7月、これは今年ですけど、7月2日に開催された情報公開不服審査会というところで、文書不存在はおかしい、公開せよという判断をして、産廃の誘致に方針が変わったというところで、経緯が分かる文書を公開しなさいというふうにこの情報公開の不服審査会で言われたけど、いまだにまだその文書が出ていないというところで、それは何でこんなに時間がかかっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

河野委員、それは文書不在の分だけについての質問でよろしいでしょうか。

委員（河野隆子議員）

だって、ほかのことを聞くなというか、もう総括で聞きます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、休憩しよう。君らちょっとまとめえや。くちやくちや言うたけど、僕ら聞いているんやけど、何か嫌な顔したり、どうのこうの言うたり、もう何かちゃんと休憩時間にまとめてやってよ。ちゃんと聞こうと思っている者かて、でもそんな、こっちの耳でちゃうことをごちゃごちゃ言って変な顔したり、もうちょっと休憩しましょう。ちゃんとまとめてから、もう一遍再開しましょう。

委員長（二家本英生議員）

休憩動議でよろしいですか。

今、松井委員のほうから休憩動議の求めがありました。

10時55分再開でよろしく願いいたします。

（「午前10時40分」休憩）

委員長（二家本英生議員）

休憩前に引き続き審議を再開いたします。

（「午前10時55分」再開）

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

住民の方が、忠岡町がごみ処理方式を、広域だったものを公民連携の産廃誘致に方針転換した経緯が分かる資料の情報公開を求めたところ、町は文書不存在として情報を公開しませんでした。それに対して、住民の方は不服審査請求をされて、7月2日に情報公開の審査会が開かれて、文書不存在はおかしい、公開せよという答申が出されたということで、これは当然のことだというふうに思います。

町は産廃誘致に方針転換した経緯が分かる文書を公開しなければならないのに、いまだにまだ公開していないということで、いつになったら公開されるのかということです。それについていかがですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

ご質問いただいていることなんですけども、今、作業させていただいている6年度のことですけれども、お答えさせていただいてよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

どうぞ。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

お答えさせていただきます。現在、作業中でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

なぜそんなに日にちがかかるんですか。7月2日にもうこれをされて、もう今、9月中旬を過ぎているけど。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

文書の特定等の作業がどうしても必要になっておりますので、時間を要しているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

文書が特定されないから時間がかかっているということでもありますけども、それでしたら、経緯が分かる文書を全て公開すればいいのではないかというふうに思います。

大阪市なんかは、関係する全部の資料を、もうこんなたくさん出しますよ。なのに、忠

岡町はまだ作業中ということで、特定されないなら経緯が分かる文書全てを出したらいいんじゃないですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

今、議員がおっしゃった方向で、現在、作業をしているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

終わりますけど、早く出してください。そんなに時間がかかるんですか。何をこう、特定されないからといって公開しないというのは、それはおかしいと思う、日にちがかかり過ぎですわ。なので、もう早く出してくださいということを申し上げておきます。

答弁、もう一度お願いしていいですか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

先ほどの答弁と同じになりますが、現在、作業中でございますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

クリーンセンターの質問、まだたくさんあるんですけど、もう総括でということをおっしゃっていますので、そこは保証していただいて、クリーンセンターについては総括で済ませます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質問ございませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

保健センター費なんですけど、住民検診を今していただいている、たくさん住民の方がいらっしゃって、この住民検診の割合を上げるということで、個人的に電話をされたりで、努力はされているというふうに思います。

ここ令和5年度、割合というのはやっぱり、前年度に比べて受診率は上がりましたでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

おっしゃっていただきましたように、こちらの分ではがん検診を主に、今、お伝えさせていただけたらと思うんですけれども、全体的には昨年度よりも上昇傾向にあったというふうに考えております。

令和5年度、受診率が向上した分析をしたのですけれども、令和5年度は担当者が口コミの周知を強化いたしました。その分ですとか、あと集団検診の受付、もうその日のその場ですけれども、このがん検診は今まだ空きがありますよということで、その場での追加も受付を行いました。あとはLINEのほうでの、あと空き何人ありますよというような周知をさせていただいて、定員と空きを見える化して、住民の皆様にお伝えしたというものと、あと未受診者勧奨といたしましては、今までは45歳、50歳、55歳、60歳、65歳の未受診者の方に、男女の別をしまして、はがきで各がん検診ごとに発送していたので、お一人の方に複数枚はがきが届くという現象が起こっておった、中には対象になる方もいらっしゃるんですけれども、令和5年度は封書に変えまして、男女別、例えば男性に特化して前立腺ですとか、女性に特化して子宮ですね、そのようなものとか、あとは何と言うんでしょう、男女別の仕分をしまして、内容を記載して未受診者の方に発送させていただいたりとか、それは今年度も準備中なんですけれども、秋の集団検診が始まる前、もうすぐですね、9月、10月頭には皆様のお手元に届くように発送するという、そのタイミングについても、どのタイミングでお声かけすると皆さんのお気持ちに届きやすいのかというのを、常に分析しながら発送をさせていただいております。

あと、封筒にすると開けてくださらないかもしれないということも考えられるんですけれども、この封筒には何が入っているのかというのがぱっと見て分かりやすいように、がん検診はお済みですかとか、そのような柔らかいお声かけの仕方をさせていただきながら明記するなど、見た目にも工夫を加えたというのが、令和5年度の受診率アップにつながったものかなというふうに、課内では分析をしております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

いろいろと工夫もされて、封筒もピンク色の、保健センターの封筒はたしかピンク色だったかな、手元にとってすごく分かりやすいというところで、工夫もしていただいているというところですよ。

その受診率というのを、すみません、私、聞き損じていたらごめんなさい。今、大体何%で、目標としてはどれぐらい上げていきたいというふうにお考えでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

がん検診につきましては、各、胃がんですとか、肺がんですとか、いろんながん検診があるんですけれども、私たちとしましては、前年度の結果を踏まえて、次年度どこを変えようかというふうな形で、現状としては対応させていただいておるところになっております。

あわせて特定検診のほうにつきましても、こちらは国保会計のほうになるんですけれども、令和4年度は上昇傾向にあったんですけれども、そちらのほうも、目標の設定というのは計画に基づいてという形になっています。

特定健診のほうはまた国保のほうでお伝えさせていただければと思います。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それでがん検診、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんと、これだけしていただいているんですけれども、肺がんのほうは無料でやっただいていてということで助かるんですけど、胃がんも結構皆さん受けておられるんですが、500円、忠岡町は要るんですよね、たしかね。

結構、他市でももう無料にしているところというのが、豊中、箕面、高槻とか、あと八尾、柏原、富田林、太子町、堺市と、全てのがん検診が無料ではないけれども、胃がん検診を無料にしているところがあるので、受診率を上げるという点でも一つの手法だというふうに思いますので、無料というのでぜひ検討していただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

現状といたしましては、自己負担をいただく形を取らせていただいておりますけれども、今、ご提案いただきましたことを踏まえまして、また近隣の調査もさせていただけたらというふうに考えております。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ検討していただきたいというふうに思います。

日曜検診も、回数も増やしていただいたというところで、結構、日曜検診、ようけ来てはりますわ。平日働いてはる方には助かるということですので、胃がん検診も無料という

ところは、ぜひ検討していただきたいというふうに思います。

続けてよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

はい。

委員（河野隆子議員）

95ページで、新型コロナのウイルスワクチン接種というのがあるんですけども、5類に変わったということで、この年度は集団接種がなかったという説明であったかというふうに思うんです。

それで、コロナは今、収まっているかというのと、テレビでもなかなか報道しませんので、忠岡町の把握は難しいというふうに思うんですけど、結構コロナはまだやっているし、ある施設ではクラスターが発生したということも聞いているので、やはりせめて高齢者の方であったりとか、疾患を持っていらっしゃる方、障がいを持っておられる方、こういった方に、ワクチン接種の助成というのは検討していただきたいというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

コロナウイルスワクチンの分につきましては、10月より定期接種という形で対応させていただく予定としております。

自己負担は3,000円の予定なんですけれども、現在、まだ泉大津市医師会さんのほうと協議中という形になっております。

10月からは、おっしゃっていただきましたように、65歳以上の方と、あと60歳から64歳までの方の一部疾患のある方を対象に、助成を行ってまいりたいというふうに考えております。以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしましたら、3,000円は負担しないといけないということですか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

おっしゃるとおりです。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やっぱり3,000円というご負担で、費用面でなかなか受けづらいと。そういうこともあると思いますので、やっぱりこの3,000円の自己負担、これについてはやっぱり町で負担してあげると、そういったところを検討していただきたいと思いますが。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

今年度につきましては、3,000円の自己負担でさせていただき予定といたします。

近隣の調査の上でも、この3,000円がベースとなっている、泉州エリアでは多数派にはなるんですけれども、この自己負担につきましては、今年度は3,000円ということで、次年度以降についてはまた次年度、検討させていただき予定とさせていただいております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、この3,000円の自己負担、町で補助ということも検討していただきたいというふうに思います。

コロナだけではなくて、今、带状疱疹。あれが病院なんかに行っても、大きなポスターが貼ってありますわ。でもかなり、3万とか4万とか、2回受けて9万円というのも聞いたんですけど、やっぱり带状疱疹は高齢になるとかかりやすい、そういったことがあるので、この带状疱疹についても、忠岡町では助成をしてあげると、そういった検討は要るのではないのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

带状疱疹のワクチンにつきましては、現在は任意接種ということで、本町、助成はいたしておりません。ただ、国の動向といたしまして、令和7年の春に向けて動きがあるような形で、国の資料のほうでは、私たち確認させていただきました。

令和7年春以降、定期接種化される場合には、その分につきましてもまた近隣も調査させていただきながら、実施に向けて検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。国がしたら忠岡町もやりやすいということですけど、国がしなくても、

忠岡町としてもこの帯状疱疹についても、ワクチン接種の助成というのは検討していただきたいというふうに思います。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

北村議長。

議長（北村 孝議員）

河野さん、まだする。

委員（河野隆子議員）

あと、もう簡単なことで一つだけ。

議長（北村 孝議員）

それなら前に。スイッチ入ってるし、せっかくやし。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

同じ95ページで、公衆トイレの上水道とか電気、下水道で出ているんですけど、ここはさっきの説明で、若干減ったというふうにおっしゃっていたかなというふうに思うんですけど、これについては、やっぱり公衆トイレですので、管理が必要であるというふうに思いますし、その下に清掃の委託料というのも出ているんですけど、ここは、どこどこを掃除していただいているのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

現在、委託しているところがございますけども、高月の三角公園の公衆トイレ、あと、忠岡駅の公衆トイレの2か所でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

2か所ですか。町民グラウンドのほうは、清掃業務の委託はしないんですか。

委員長（二家本英生議員）

河野委員、それは町民グラウンドなので、多分、管理が違うんだと思うんですけど。

委員（河野隆子議員）

そうか、公衆トイレやもんね、すみません、ごめんなさい。

それで、高月の三角公園、今、一つおっしゃいましたけど、多目的というか、洋式のトイレが使えないんです、鍵が閉まっています。潰れたままなのかどうか分かりませんが、やはり三角公園で高齢の方、グラウンドゴルフをやったりとか、あと花見をしたりとかし

ていらっしゃいますわ。そんなところで、ぜひこの公衆トイレの、清掃ではなくて、やっぱりちゃんと管理をしていただくといったところが必要だというふうに思うんですが、いかがでしょう。

委員長（二家本英生議員）

新城部長。

産業住民部（新城正俊部長）

高月北の多目的トイレについてなんですけども、実際のところ、今、使用禁止にさせていただいております。

これはですね、あそこは施錠することができません。誰とは言いませんけども、かなりいたずらされておりました。実際のところ、花火を中に入れられたりとか、石を入れられたりとかというところで、その辺の一定の清掃を行いまして、開けておくということになりましたら、またいたずらされるというところで、自治会長さんの許可をいただきまして、一定、今、閉鎖させていただいているという状況でございます。

中については、もうかなり便器も便槽も汚れた状態で、きれいにさせていただいたんですけども、きれいな状態で、一応、今、閉めているというような状況でございます。

もし、使用頻度のところが、まだやっぱり使うよということであれば、また開放させていただくようにさせていただきますけども、また開放させてもまたいたずらされる可能性はございます、実際のところ。そのような状態でございます。

以上でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そんないたずらするというのは許されへんことやけど、ほんならせめて、もう1個の開放していただいているところのトイレは和式なんです。なので、そこだけでも洋式に変えていただいたら、大変、高齢者の方が助かるというふうに思います。

1回、使いたいけど和式やから、座られへんからもう使われへんわと言っていた場面も実際、見ていますので、そこはご検討をお願いできませんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

小倉課長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

ご用件、ご要望として承っておきます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

北村議長。

議長（北村 孝議員）

浜霊園のことで、複数の議員からいろいろ質問ありました。

令和7年度に条例施行して、使用料について条例施行するということですがけれども、それまでに通知を出して、駆け込み、使用料の返還を求める方もいらっしゃるかなと思うんです。

実際、今の浜霊園の使用状況。当初あそこを造りだしたときは、かなりの人気というか、あれがあったんで、年々、その都度その都度、拡充していったんですけど、実際どれくらいの区画が空いていて、今後何か、これまでも1区画やったけど2区画でもいいですよというようなことで、柔軟に対応されてきているんですけど、使用料の、要はあそこを使いたいとか、恐らく返還されている方のほうが多くなっているのかな。というのは、時代、世の中の背景、いろいろね、子どもさんが墓守もできないという、いろいろなそういう事情があるんでしょうけど、今後町として、あそこをどういうふうにされていくんかなというところを、聞かせていただければ。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

浜霊園、第1期、第2期、第3期の区画が造成されておりまして、全体の区画は今現状、1,177区画というところでございます。

使用権を取られている区画につきましては、第1期、第2期、第3期で、現状、全体で984区画となっております。空き区画につきましては193区画という状態でございます。

先ほど委員からもございましたように、平成30年に条例改正を行いまして、町の方ではない方につきましても使用を認めております。また、1区画だけでなく、2区画まで使用を認めている状況でありまして、今年度につきましても、本町以外の方の使用権という形で取られている方がございます。

今後につきましても、また広報もやっていきますし、ホームページも掲載しながら、窓口におきましても、使用につきましてもご説明させていただきまして、啓発に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

この984区画空いている、これはもうばらばら。一定の何かをするにとしては、まとまった形で空いているということではないんですね。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

984は使用権を取られている。193区画が空きです。

そうですね、第1期の部分につきましては言うように、返還が出てきている部分という形の分は、東西南北と4つに分かれているんですけども、それぞれで空き区画が出てきているような状況でございます。

第2期につきましても、ある程度もう埋まっておりますので、空いているところはポツポツという状況になってございます。

第3期の部分につきましては、2つに分かれているような状況でございます、1から順番に使用を取っていただいているんですけど、第2期に造成したときに造っている水道の前のところが、順番に使用権を取っていただいておりますので、空いている区画というのは、固まったところで区画というのは、空いているところはございます。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

もうこれで終わりますけど、冒頭にもちょっと話をさせてもらいましたけど、どうなんですか。使用権を返す人と、使用したいという方と、やっぱり使用権を求める人のほうが多い。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

やはり今現状、墓の考え方というところがございまして、平成30年頃から返還区画のほうが多くなってございます。

令和4年度につきましては24区画返還のところ、使用権は1区画でした。令和5年度におきましては、9区画の返還に対し、使用権を取られた区画は3区画で、マイナス6というところではございますが、4年度はマイナス20という形になってございます。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

今、数字を聞かせてもらったけど、いずれはどこかで、ある程度来たら止まるというか、そういう使用権を返還される方が少なくなるんでしょうけど、実際、今後そういう形ですと置いておくのか、あと方法は何あるん、要は2区画、3区画でもいいですよと増やせばようけ来るんかということもないので、時代の背景をやっぱりそこは十分鑑みて、例えば私も前に質問させてもらったけれど、合同葬みたいな形で、そういったことも考えて、有効利用と言ったら失礼な話やけど、何か利用できるような形で。

ただ、あちこち入っていて、一定の土地が取れないから中途半端な形もなるかと思うんですけど、使用権を求める人については、場所は好きに選ぶわけ。空いたところをこっち

側が指定するわけ。

委員長（二家本英生議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

空き区画のところにご希望があって入っていただく方につきましては、先ほどご説明させていただいたように、第1期の部分については4つに分かれておりまして、希望のところに入っていただきます。第3期の部分につきましては、やはりもう順番に入っていただいていますので、あちこちという形にならないような形にはさせていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

状況としてはよく分かりました。今後、先ほども言いましたけど、できることなら何かいい形で、うまく墓園というものをやればいいのかという。全く、当然私らもそうですけど、親もいてはるといようなことで、当然お墓というのもやっぱり必要にもなってくるし、そこのところの時代の流れと言いますか、先ほど言いましたように、今の若い方、いろんなところでお墓があるのも、一つそういうことを求められる人もおるでしょうけれど、時代の流れとしては、もうそういう合同葬とか、もうお骨だけ、例えば信仰されているお寺に置いておくとか、もう墓を持たない人が結構いてはると思っていますので、それもよく考慮しながら、今後、浜霊園についてはもうちょっと力を入れてほしいなというところがあるんですけど。

委員長（二家本英生議員）

新城部長。

産業住民部（新城正俊部長）

委員ご指摘のとおり、今後の墓の在り方というのは非常に大事なことだと思います。その辺の在り方について、今、担当のほうといろいろな形での方策を練っております。

これはまだ町議にも何も諮っておりますが、例えば今、忠岡町と町外の人というところに関しましての、金額に関しても差があると。そのところの差を埋めるとか、これも町議も、条例ですからここで言うことではないんですけども、そういうことで手法もあると思います。そしてまた、買っていただきたいように値段を下げるとかという方法もございます。先ほど委員ご指摘のように、合同の墓地を造って、一定の区画が空いたら、そこにそういうのを造って、そこに誘導していくというような方法も、いろいろな形的なものがあるんですけども、その辺のところ、今回、使用料の改定もございまして、その辺のところを見据えた形で、またいろいろな方法を練っていきたいと思っております。

以上でございます。

議長（北村 孝議員）

ありがとうございます。委員長、結構です。すみません。

委員長（二家本英生議員）

ほかに質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

私より質疑がありますので、進行を今奈良副委員長に交代いたします。

（進行を今奈良副委員長と交代）

副委員長（今奈良幸子議員）

それでは、進行を交代させていただきます。二家本委員長、質疑をお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

まず、94ページなんですけれども、先ほどから霊園の使用料として、浜霊園の話が出ていましたが、この中には、12節の委託料の中に共有墓地ごみ収集業務委託料とか、忠岡墓地のことも入っていると思うんです。

あそこの忠岡墓地というのは、事前に調べさせていただいたんですけれども、財産区という土地の扱いということでされているみたいなんですけれども、その中の例えば水道代とかというのは、今回のこの決算の費用の中に入っているんでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

水道料金につきましては、現状、水道センターのほうにお支払いしている状況でございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうしましたら、この決算の中にも、その前の93ページですか、光熱水費のところ、上下水道、ガス、電気使用料の中に含まれているということでよろしいですか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

おっしゃるとおりでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうしましたら、忠岡斎場に関しましてはここに予算が出ているとおり、修繕費とかが

出ていると思うんですけども、例えば周りの、例えば舗装している石とか、そういった分の管理というのも忠岡町が出していて、その費用も忠岡町がやっているということによろしいですか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

舗装しているところというのは。

委員長（二家本英生議員）

石を敷き詰めて、浮いたりしたら直したりするところがあるじゃないですか。入り口から斎場までの道とか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

入り口から斎場に向けての石畳の部分につきましては、今現状、修繕等ございませんので、支出はございません。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうしましたら西側のフェンス、多分コンクリートのブロックが立てていて、そこが今、向かいの西側の家が今なくなって、丸見え状態になっているんですけども、あの辺のブロック塀とかの立てているところというのも、忠岡町が管理されているというんですか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

墓地の囲いの部分につきましては、現状、忠岡町のものでないというふうな形では認識しているところでございますが。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうしましたら、あの辺のあたりというのは、もう財産区が管理しているという認識でよろしいのでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

財産区が管理しているのか、もともとの地主、あの部分につきましては、うちも駐車場部分につきましては民間さんにお借りしているというところがございますので、どちら側のものなのかという部分につきましては、どういう状況なのかというのを、ぐらついているとか、その辺につきましては確認はしてあるんですけど、今現状は特に問題ないような状況でありますけれども、今どちらの所有のものなのかというところは、すみません、答えとして持っておりませんので。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

やっぱりブロック塀、今、安全という話はあったんですけども、一時、ちょうど西側の家がなくなったとき、どうしても高い壁みたいな感じになっていて、空き地になってしまったので子どもたちが入って遊びかねないところもあったので、その辺の管理とかについて確認させていただいたんですけども、その辺りは多分これから、まず所有者が誰かというのと、あと誰が管理していかなければいけないということがあるとは思っているので、そういった協議とか調査をこれからしていくということによろしいでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

谷野次長。

産業住民部（谷野彰俊次長兼住民人権課長）

確認してまいります。

委員長（二家本英生議員）

分かりました。もう1点。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

続きまして、清掃費のところなんですけれども、清掃費の委託料のところ、ごみの収集、そしてごみの最終処分とかの委託料がそれぞれ各項目、出ています。

これ毎年、年々上がってきているところはあるんですけども、金額にしたら、例えば収集だけでいくと、令和5年で合計で1億1,400万近くあります。最終処分、搬出の委託とか、処分の先とかの委託料とかは、大体年間で6,122万ぐらい上がっています。

こういった費用について、やっぱり最近では人件費の高騰とか、あと忠岡町は戸別収集しているので、あとそういった分別もきちっとされているということで、確かにその分の費用はかかっているんですけども、この辺の費用について、これからどういうふうに変らしていくとか、委託業務を一括にするとか、そういった形の検討というのはされないのでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

委託の一括というところは、考えてはございません。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

例えば、じんかいごみの収集と粗大ごみの収集というのは、地区を決められてやられているんですけども、契約書自体が2つに分かれていて、それぞれが多分、費用が発生していると思うんです。それが、人件費とかが二重になっている可能性がなきにしもあらずなので、そういった委託の業務の契約の仕方、何とかその経費の削減とか、そういったことはできないのでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

委託料の算出なんですけども、基本的にはもう世帯数を元に委託料を算出しておりますので、その辺でご理解いただけたらというふうに思っております。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

世帯数ということなんですけど、忠岡町はやっぱりごみの減量化というのも、これから多分進めていかなければいけなくて、令和3年度で減量化についての新しい計画も作成しています。

そういった中で、住民の皆さんに、ごみの減量化について啓発していくというのも大事かもしれませんし、これからごみ処理の、ごみの減量ということをやっぱり推進していくのであれば、費用的なものも、やっぱり少しずつでも、できるだけ絞れるところは絞っていったきたいなと思うんですけども。

今後、ずっと私、統計をつけているんですけども、過去、収集については過去5年、6年ぐらい前から1,000万ぐらい収集費用が上がっていたりとか、あと、搬出費用についても大体、年度に差はあるんですけども、それも費用が増加傾向なので、そういった費用の増加を抑えるための手だてというのを、何か検討しているところはあるのかなとあるんですけど、その点はいかがでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

委託料につきましては、主立ったものがもう人件費でございますので、この分を今のご

時世絞るというのは、なかなか正直難しいのかなというふうな思いを持っているところでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

人件費はなかなか絞りにくいところではあるんですけども、例えば、忠岡町が一旦提出していただいた、2年前、3年前ですかね、各市町村のごみ経費がどれだけかかるかという表があったと思うんです。その中で、近隣で言ったら高石とか、泉大津市さんですかね。結構もう6,000円、7,000円ぐらいの一人頭のごみ経費になっているんですけども、忠岡町でそれを比べたら、収集と搬出だけで、それを合わせて大体約1万円かかってしまっているところがあるんです。人件費についてはどこの市町村でも同じことだと言えますので、なぜ忠岡だけ収集、あと最終処分についてそれだけ高くなっているのかというのは、一度検討しないといけないと思うんです。

他市の状況とか、どういうふうになっているかというのを調査していただいて、忠岡町でどういったごみの収集がいいのかとか、ごみの搬出がいいのかというのを、一度調査していただきたいんですけど、その点についていかがでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

小倉次長。

産業住民部（小倉由紀夫次長兼生活環境課長）

今、ご意見いただきましたので、他市の状況等をまずは調査研究してまいりたいというふうに思っております。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

その点、よろしく願いいたします。

質問は以上で終わります。

副委員長（今奈良幸子議員）

進行を委員長に交代いたします。

（進行を二家本委員長に戻す）

委員長（二家本英生議員）

進行を交代いたしました。

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

委員長（二家本英生議員）

続いて、99ページから104ページの、第5款 労働費、第6款 農林水産業費、第7款 商工費につきまして、担当課の説明を求めます。

（労働費・農林水産業費・商工費 担当課説明）

99ページをお願いいたします。第5款 労働費、第1項、第1目 労働諸費、決算額140万5,671円で、前年度より22万5,909円の増で、第18節 負担金補助及び交付金の補助金が増えたことによるものです。

100ページをお願いいたします。第6款 農林水産業費、決算額2,067万8,373円、第1項 農業費、決算額1,998万8,373円、第1目 農業委員会費、決算額1,696万3,738円で、前年度より47万8,533円の増で、主な要因は人件費等の増によるものです。

101ページをお願いいたします。第2目 農業振興費、決算額267万1,244円で、前年度より15万258円の増で、前年度と相違ございません。

102ページをお願いいたします。第3目 貸菜園費、決算額35万3,391円で、前年度より1万1,730円の減で、前年度と相違ございません。

第2項 農業土木費、第1目 土地改良費、決算額8万円で、前年度と相違ございません。

第3項 水産業費、第1目 水産業振興費、決算額61万円で、前年度と相違ございません。

第7款、第1項 商工費、2,177万9,235円。第1目 商工総務費、決算額1,012万9,509円で、前年度より960万4,510円の増で、主な要因は人件費等の増によるものでございます。

103ページ下段から104ページをお願いいたします。第2目 商工業振興費、決算額1,164万9,726円で、前年度より221万5,705円の増で、第18節 負担金補助及び交付金の商工会補助金が増えたことによるものです。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

100ページの、農業委員会の委員の報酬というのが出ていますが、もう農業委員会、議員も入っていませんし、いろんな若い女性の方も入ったりで、今、委員という方の構成というんですか、それはどんなふうになっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

委員は10名で、そのうち女性が1名でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

以前、私も農業委員会に入っていたことがありますので、開かれるといたらいつも、田畑が今度住宅に変わるといった、そういった議案が多かったと思いますけど、この年度ではどのようなことが審議というか、委員会の中で話があったんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

その月によって案件は違うんですけど、ない月もございますし、ある月は引き続き農業経営をやっている旨の証明もありますし、農家を辞めはる方もございますので、傾向としては、農家が減ってきているかなというような傾向ではございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

年に何回ぐらい開かれているんですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、令和5年の開催回数は控えておりませんので、すみません。

委員（河野隆子議員）

後で分かります。

産業建築課（坂本健三課長）

はい。

委員（河野隆子議員）

では、後でまた報告をお願いします。

それで、かなり專業農家、数年前にもうゼロ軒ということをお聞きしたんですけど、やっぱり農家がなくなったということで、忠岡町もかなりの田んぼとか畑、建て売りに変わっていつているんですけど、やはり地場の農業を振興するということで、販売農家というのが報告があったんですけど、今、このように何か販売しているという農家さんというのは、忠岡町で今、何軒ぐらいあるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

今、2軒ございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

2軒ですか。随分減りましたね。

やっぱり物価高騰とか燃料費の高騰もあるし、もちろん肥料代の高騰というところで、なかなか続けていくのが大変やというふうに思います。

それで、2軒になってしまったということにびっくりしたんですけど、そういったところで、やっぱり赤字になってしまうということで、やっぱり辞めてしまうといったところも多いかというふうに思うんですけど、やはりそこら辺の実態把握というのはされているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

私らのところに赤字になる、なったから辞めるというようなお声は届いていないんですけど、やはり全国各地で高齢化になっていますので、担い手不足ということはちよくちよくと、そういうお声はお聞きしております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

担い手不足というのも理由の一つではあるというふうに思うんですけど、やはり専業農家はもうゼロ軒ということですけど、この販売農家の方にも、やはり何らかの支援が要るのではないかなというふうに思うんです。それについては、まずは把握をして、声も聞いていただくと、そういったことが必要ではないかというふうに思うんですが。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

令和5年度の終わりぐらいに、農家さんにアンケート等を取らせていただきましたので、ある意味、意見を聞かせていただいて、何か対策ができないかというのを、現在検討しているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

アンケートも取っていただいたというところなんですけど、そんなところで特化して、ここはやっぱり忠岡町としても支援が要るなというところなんかは、お聞かせ願えませんか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

支援になるかどうか分からないですけど、私らも全城市街化の中で、少しでも農家を残したいなと思って、いろいろ農業委員会さんとも話をしながら、少しでも残していただきたいということで、今年度も大阪エコ農作物というような、そういう協議会をつくらせていただいて、少しでも何か支援できるものがあれば、大阪府さん、JAさんと共に農家さんに支援できないかなというような検討はさせていただいていますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、やっぱり支援というところも検討していただきたいと思うんですけど、この101ページの農業振興費補助金というのが出ていますけれども、これはどういったところに使うんですか。101ページのところなんですけど、下段のほうで。23万5,000円というところ。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

これは毎年、商工カーニバルのときに今もやっていただいていたりするんですけど、農業まつりとかその辺に出ていただけるために、させていただいている補助金でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

それと、103ページのところの消費者問題専門相談員というところの負担金が出ていますが、やはりいろんな詐欺とかそういったところで、高齢者の方はだまされやすいと。幾ら注意喚起してもだまされやすいというところもありますし、高齢者だけでなく、やはり若い人でもいろんなトラブルに巻き込まれるということもあると思うんですが、この年は何件くらい専門相談があったんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

令和5年度につきましては、相談件数52件でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

これも予約というところで、なかなか予約が取れないと、そういったお声はないですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

事前予約もさせていただいていますけども、予約が取れないということはほぼないので、当日も来ていただいて、空きがあれば受けていただけるといような、今、状況でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ほぼほぼ、そういった相談は乗れるということになっていると。そういった現状だということですよ。

泉大津市さんなんかは、もう常時1階のロビーでそういったコーナーがあって、ずっと開いていますので、いつでも行けるというところですけど、人口も違いますし、忠岡町としてはそういった消費者の問題で、相談も行きたいというところがあっても、いっぱい取れないといったところは今ないというところですね。分かりました。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

お願いします。104ページのところの、商工会の補助金が出ているんですけども、いろいろと寄附金とか、中小企業とか、個人事業主さんのいろんな相談もあるというふうに思うんですけども、そういったことで商工会に会員でない方も相談に行って、いろいろと相談もできると、そういった体制になっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

会員さんのみならず、商工会に入られていない方も相談には乗っていただけると、私ら

は聞いておりますので。

委員（河野隆子議員）

そうですか。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やはり商工会の会員になるとしたら、もちろん会費も要るんですけども、そう言ってなかなか入れないという方に対しても、相談はいろいろと受けていただけるということですね。分かりました。

一旦、終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑はございませんか。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

よろしく申し上げます。農林水産1件、商工費1件で質問させていただきます。

まず、坂本課長が今おっしゃっていたんですが、本町は全域が市街化区域で、これは転用許可申請が出たとしても、もむような内容というのではないわけで、逆に今、未耕作地やらそういうのが増えてきて、その原状復旧であったり、そういったことを協議するというのも、今まではあるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

当然、農作放棄地というのも現状、見受けられるところもございます。

ただ、私らも毎日見て回っているわけではないので、周辺の住民さんからそういう問合せがあったら、当然、農業委員さんと現地確認して、どうされるんですかというようなことを、農家さんというのか、使われている方に聞き取りをさせていただいています。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

先ほど答弁の中で、農地を守っていきたいというふうにおっしゃられていたんですけども、現状、どんどん減っていく一方であります。将来的な展望、守っていくというのも一つなんやろうけれども、どういうふう守っていくとか、未来の、将来的な展望というのは今お持ちですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、将来的な展望はないですけども、現在、1軒でも減らないように、私らは市街化区域の中で、開発の申請も受けておりますけども、複雑な気分で、1軒でも減らないように、農家さんとかに周知させていただいている次第でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

その手法として補助金を選んでいると、仕方ないからもうそこで手当しているという現状が続いているわけですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

そのとおりでございます。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

商工費についてお伺いいたします。昨年、私、見学に行かせていただいたんですが、合同就職説明会、泉大津でありました。今年、忠岡町の当番で、忠岡町で行われますよね、課長。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、去年松井議員に来ていただいたのが忠岡町の当番で、忠岡町のふれあいホールが狭いので、泉大津でさせていただいてます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

それは知らなかったけど、それは忠岡町でしましょうよ。

ごっついよかったと思うんです、私、去年行かせてもろて、相談に来ている人も真剣な顔をして、そのときに坂本課長に聞きましたけど、想定人数に足らんやおっしゃってました。そやけど来ている人の顔を見たら真剣やし、これがもう各課の事業やと思えるぐらいによかったと思う。ぜひ、次の当番のときは忠岡町でしましょう。

ほな、今年はどういうことを予定されて、どこの市で、忠岡町としては何社ぐらい皆さ

んにお声をかけていただいて、出展される予定ですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

まだ具体的なお話はしていないんですけど、今年の当番は泉大津になりますので、去年と同じテクスピアになると思います。泉大津さんが当番なので、私らは去年の結果を踏まえたような申し送りはさせていただいて、泉大津さんが主になって業務改善されていくと思います。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

最後です。去年、泉大津でやったときに、忠岡のブースだけ各企業さん、ヤハタであったり、そこのあい眼科であったり、アラヒラもおったかな、いろんな企業さん、もう偉いさんばかり。会長さんであったり、事務長の奥さんであったり。誰が担当したのか、石井君がやったのかあれなんですけれどもね、しっかりした営業をして偉いさんに来てもらって、これ何でやと聞いたら、もう即決していただくためですわと胸を張って言うと思ったんですけれども、今年はそういうお話を企業さんとはされていますか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、まだ、今の段階ではしておりません。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

担当者はどなたですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

名前を言っていいですか。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

どうなんですか、あかんの。ええことやで、褒めていることやから。そんな、糾弾したりせえへんよ。

産業建築課（坂本健三課長）

久保田でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

またその辺でずば抜けて、ほかの市よりも忠岡町が優れていたと思いますんで、そういう点は。また、ぜひいいところは引き継いでいただいて、来ている人というのも忠岡町のブースへいっぱい座ってくれていましたんで、ぜひ続けていっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今の、泉北の就職情報フェアかな、その名前がいいのかどうかなんですけど、そういうのがあると助かるということでもありますけど、そこで就職が決まったというのかな、結びついたというのは何件ぐらい、何人ぐらいいらっしたんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、今すぐに出ないので、また後ほどご回答させていただきます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしたら、さっきの農業委員会の分も合わせてお答え願いたいと思うんですけど、泉大津のテクスピアが、昔で言う、仕事を探すハローワークがもうそっちに入っているというふうに思うんですけど、忠岡町の庁舎の中でも、4階でハローワークの情報というのが、こんなパソコンで見れると聞いたのを前、見に行ったことがあるんですけど、それは今もそうですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

変わりございません。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それで、4階に置いていただいているんですけど、なかなかあそこだと、個人で行って見にくいと、気を遣うところですね、職員さんがいっぱいいらっしゃる場所に置いていますので。なので、できれば、もし場所の確保というのもあるけれども、やっぱり仕事を、ハローワークの情報を見たいという方が気兼ねなしに見やすいようにというところで、場所のほうも検討していただきたいというふうに思うんです。いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

実は今年度、機構改革をやったときに、その機械、端末はもう移していますので、職員が誰もいないとこで見れるようにはなっているんですけど、見たいというような住民さんがほぼいてないので、また周知はさせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

場所を移していただいたということで、どこに移ったのかの答え、どこですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

4階のエレベーターを降りていただいて、今、産業建築課と土木課がある反対側、生活環境課のほうの、今、部長が座られている席の前。打合せスペースがあるんですけど、その手前というんですか、もう4階の左に入ったすぐのところに、職員が誰も行き来ぐらいしかせえへんようなところに置いてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

場所をそちらに移していただいて、少しでも改善していただいたというふうには思いますが、見に来る、検索する方がいないと、なかなか情報として住民の方が知らないというところもあるかというふうに思いますので、そこは広報にも載せて、年には載せていらっしゃると思いますが、住民が皆さん大きく、年に何回か載せていっていただいて、少しでも多くの住民が見れるように、そういうのがあるということが分かるようにしていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか、最後をお願いします。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

またホームページ等で周知させていただきますので、よろしくをお願いします。

委員（河野隆子議員）

お願いします。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

時間がお昼に近づいていますので、質問が多ければ昼休憩を取った後にまた続きますけれど、なければもうここを最後まで行きたいと思います。

ほかにご質疑はないですか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

私から1点だけ質疑いたします。

（進行を今奈良副委員長と交代）

副委員長（今奈良幸子議員）

それでは、進行を交代させていただきます。二家本委員長、質疑をお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

104ページの、中小企業の振興資金の利子補給金の助成制度なんですけれども、忠岡町がもともとある分に加えて、新型コロナウイルス感染症対策の利子補給基金積立金が残っています。

令和6年度から実際の利子補給が開始されると思うんですけれども、忠岡町の町内の方で、この新型コロナの利子補給制度を使われている企業はどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

今、議員がおっしゃられている中小企業と新型コロナウイルスはまた違うんですけど。

委員長（二家本英生議員）

新型のほうだけ。

産業建築課（坂本健三課長）

新型コロナでよろしいですか。

九十数件だったと思うんですけど、詳しい数は把握していないので、九十数件、百件弱でございますはい。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

この新型コロナの感染症の利子補給の制度ですけど、令和2年、3年ですか、やっぱり新型コロナで営業がしんどいという方に、お金を借りた際に利子補給をするという形

で、多分そういった制度だと思うんです。

その中で、当初は申請をしたんですけども、この3年間、物価高騰もあって、それで辞退というか、もう返済ができなくなって会社がなくなってしまったとあって、それで減った件数とかの把握というのは、今はないということですか。どんな感じですか。

副委員長（今奈良幸子議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

現在、利子補給の令和6年度の分は受付させていただいているんですけど、減ったとかという情報は、私らには今把握できませんので、よろしく願いいたします。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうしましたら、把握できる状況、多分、一番最初に申し込んでいる件数は、多分、認定されている件数がイコールだと思うんで、それは分かると思うんで、そこから実際に令和6年からこういう利子補給の制度を使っている件数がどれぐらいあるかというのを、また後日教えていただきたいと思います。

質問は以上で終わります。

副委員長（今奈良幸子議員）

それでは、進行を交代させていただきます。

（進行を二家本委員長に戻す）

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

委員長（二家本英生議員）

ここで、時間がお昼になりましたので、ここで一旦休憩し、13時から再開いたします。13時まで暫時休憩いたします。

（「午後0時00分」休憩）

委員長（二家本英生議員）

休憩前に引き続き審議を再開いたします。

（「午後1時00分」再開）

委員長（二家本英生議員）

次に、105ページから112ページの第8款 土木費につきまして、担当課の説明を求めます。

（土木費 担当課説明）

105ページから112ページ上段についてご説明をさせていただきます。

第8款 土木費、第1項 土木管理費、第1目 土木総務費、決算額5,514万1,643円、前年度比較、76万97円増額。主な要因は、人件費の増によるものです。

106ページをお願いします。第2目 忠岡新浜緑地費、決算額1,631万8,264円、前年度比較、85万7,326円の増額。主な要因は委託料の増によるものです。

107ページ、第2項 道路橋梁費、第1目 道路橋梁総務費、決算額132万2,505円、前年度比較、71万6,145円の増額。主な要因は委託料の増によるものです。

第2目 道路橋梁維持費、決算額4,214万560円、前年度比較、1,148万3,949円の増額。主な要因は工事請負費が増したことによるものとなっております。

108ページ、第4目 交通安全対策費、決算額1,202万3,967円。前年度比較、373万6,141円の増額。主な要因は需用費、電気使用料が増したことによるものとなっております。

109ページ、第3項 河川費、第1目 河川水路改良及び維持費、決算額444万7,889円、前年度比較、287万1,589円の増額。主な要因は、委託料及び工事請負費が増したことによるものとなっております。

110ページ、第4項 都市計画費、第1目 都市計画総務費、決算額158万7,082円、前年度比較、347万7,198円減額となりました。主な理由は、委託料が減したことによるものとなっております。

第2目 街路事業費、決算額242万円、前年度比較、23万7,000円の減額。主な要因は、委託料及び工事請負費の増減差によるものとなっております。

第3目 公園費、決算額2,498万7,728円、前年度比較、863万8,041円の増額。主な要因は、需用費及び委託料が増したことによるものとなります。

111ページ、第5項 下水道費、第1目 下水道事業費、決算額4億9,000万円、前年度比較、2,100万円の増額。主な要因は、負担金及び出資金の増によるものとなっております。

第6項 住宅費、第1目 住宅管理費 決算額403万2,950円、前年度比較、124万9,969円の減額。主な要因は、委託料が減したことによるものです。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願いをいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

109ページの自転車用ヘルメットの購入費の補助金なんですけれども、どれぐらいの方が申し込まれているのか、教えていただきたいんですけども。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

令和5年度につきましては、高齢者が107名、子どもが30名、合計137名でございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。このときはまだ、中学生までなっていない分ですよ。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

令和5年度は中学生にはなってございません。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。今のところはこれだけ。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、お願いいたします。たくさんあります。さっといきます。

まず、108ページ、道路清掃及び除草費用でお伺いいたします。大津川の河川沿いののり面や東3丁目住宅側ののり面に、さつき道路の中央分離帯と同じく、道路側1枚分だけでもいいので防草シートを敷設していただけないかという問いに、去年の決算委員会では、原則的に活用をできる限り考えていると回答されましたが、現状はどのように予算面を含めて計画をされていけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

防草シートの活用につきましては、範囲を広げていこうというふうには考えてございません。

実績といたしまして、5年度といたしましてはさつき通りの分離帯とか、セントラル裏の水路、松井建設さんの資材置場の裏になるんですけれども、そういうところとかをやらせていただきまして、そのほか活用させてもらいまして、合計4か所で400平米ほど、実績としてやらせていただいております。

また、令和6年度につきましても同じように、さつき通りと、あと西区ふれあい公園の横の里道とか、等々やらせていただきまして、ここにつきましても同じ程度、400平米ほど、令和6年度も実施していこうと思っております。活用につきましてはこれからもできるだけ、できるところは広げていきたいというふうには思っております。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。同じく、この道路清掃の費用の件でお伺いします。

前年度に比べて、経費が250万円アップしております。人件費などの増によるものか、工事発注機会の増加によるものなのか、その理由や使用の内訳をお答えください。お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

実際増えておりまして、その内訳といたしましては、機構改革によりまして作業の範囲が増えたということになってございます。

改革によりまして、うちのほうに通学路の維持及び点検業務というのが入ってきまして、それがおおむね約130万円ぐらい増えているというのが1点。あと、今年度は非常に暑かったというのがありまして、除草というか、草の生えるスピードが非常に速かったので、例年よりは回数が増えておりますので、その分で上がっておるということになってございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

なるほど、分かりました。続きまして、同じ費用でございます。

忠岡町内における除草作業の順番はどのように判断されておられますか。道路、河川、公園を含めた年間スケジュールを作成できないでしょうか。そうしていただければ、いつしていただけるのかという住民さんからの問合せにも、随時適切に回答できると考えますが、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

除草作業につきましては、今まで過去からずっとやっておりますので、一定程度に入る場所とか、この時分に入るというふうなとか、きっちりしたスケジュールはないんですけども、今までの経験上とか過去の実績で、大体、おおよその箇所が分かっていますので、それに基づいて対応させていただいてございます。

だから、細かいスケジュールまでびっちりとは決まっていますが、おおよそはできておりますので、住民さんからいつ入りますんという電話が間々あるんですけども、そこは分かっておりますと、いついつ入る予定ですよというふうなお答えはさせていただいてございますので、よろしく願いをいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、道路橋梁費でお伺いいたします。工事請負費が、900万円の不用額が出ておりましたが、予算消化できなかった理由はどのようなもののでしょうか。この工事に関する優先順位など、箇所づけはあるのでしょうか。ご答弁お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

取りあえず不用額が出ているのは、入札による差金となっております。

あとの道路橋梁の、こちらにつきましては、原則的には今のところ現地を確認いたしまして、非常に傷んでるところを優先ということで対応させていただいておまして、明確に、例えば何年にこれをやる、何年にこれをやる、ここの箇所をやるというのは、今の現状では決まっておりませんが、町内調査とか、住民さんからの声等々を勘案しながら、一番傷んでいるであろうところから、順次、手をつけさせていただいてございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。

では、項目変わります109ページ、工事請負費の駅前周辺自転車整理についてお伺いいたします。

今年の予算委員会でうちの三宅議員のほうから、駅駐輪場やその周辺にある看板の状態

について、撤去を含めて検討すると回答されておられました。ただ、現状は変わっておりませんが、半年たった中でどのような対応をされる予定でございますでしょうか。答弁お願いします。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

さきの予算委員会で、看板を撤去する方向性の回答をさせていただきました。

その後、現地を確認させていただいて、みすぼらしいことが分かっておりますので、撤去しようと思っておりますので、いましばらくお待ちください。よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、110ページ、貯木場利活用に係る調査業務負担金についてお伺ひいたします。現状でどのような報告をできる状況なのでしょうか。どのような調査報告、もしあるんでしたらお聞かせいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

貯木場につきましては、令和3年3月に大阪府をはじめ、岸和田市、忠岡町と木材コンビナート協会で構成される検討会を設置され、協議を始めました。また、令和4年度、令和5年度に岸和田市と共同で、利活用に係る調査や産業用地の必要性、優位性の分析及び先端産業集積地等の拠点プロセス、条件の整理を内容とした調査を実施いたしました。

大阪府におきましても、令和4年度から予算措置され、事業化検討を実施し、今年度には環境アセスメント調査に着手することとしており、事業化に向け、着実に前進している状況でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございました。また詳しい、何と言うんですかね、状況を報告できるようになりましたら、またどうぞよろしくお願ひいたします。

あと2つ、もう続けていっちゃいます。

112ページの町営住宅の在り方検討補助業務委託料についてお伺ひをいたします。令和4年度決算において、令和6年度にはめどを立てていくとあり、提案もされておられま

したが、今後はどのような形で、長期的スパンも含めてお考えでいらっしゃいますでしょうか。ご答弁よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

6月議会、その他案件でご報告させていただきましたが、現在は事業スキームの絞り込みをし、事業実現性の調査を実施しておりますが、できるだけ早急に進めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。またこれも具体的にお話が決まりましたら、どうぞよろしくお願ひいたします。

同じページになります。清掃等維持管理業務について質問させていただきます。

柱をはりで補強するなど、最低限の耐震補強は、これは町営住宅ですね、行うべきであると思います。対策をせずに放置して、地震などのときに家屋倒壊における死亡やけがなどの損害賠償訴訟を遺族より起こされるリスクを考えた場合、応急でもいいので処置すべきではないでしょうか。また、放置した中で、地震時の家屋倒壊などで死亡やけがは重過失にならない確認はできているのでしょうか。ご答弁よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

清掃等維持管理業務、こちらの内容はシルバーさんに委託している内容でございますが、町営住宅は先ほどの在り方検討業務の中で、耐震補強も含めた検討をさせていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。またこれも詳しく報告できるようになりましたら、またよろしくお願ひいたします。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

私は108から109ページにかけての、交通安全対策費のところをお聞きしたいと思っております。

先ほど、小島議員からもヘルメットの購入のこともおっしゃっていましたが、今回、光熱費が649万円ほど上がっていると先ほどもおっしゃっていたと思うんですが、これはどうして上がったのでしょうか。街路灯のことでしょうか。教えていただけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

本来であれば、令和4年度までは街路灯費というのがもう1個あったんですけど、それが交通安全対策費に入ったので、街路灯費のところは交通安全対策費の費目変更で入っていますので、そちらのほうで計上させていただいております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。街路灯のほうに移動したということで、項目が変わったということだけですかね。ありがとうございます。

それから、カーブミラー等修繕料もお安くなっているんですが、件数が減ったということでしょうか。どれくらい修繕されたのかお教えてください。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、件数までは把握していないんですけども、修理の内容が減っていますので、金額が減ってございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。去年からきれいに直していただけているということでもよろしいんですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

去年からと言わずに、もうずっと歴代やっておりますので、また潰れているところがありましたら言っていただいたら、また直させていただきます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございました。一旦、これで終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありますか。

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

すみません、111ページの公園遊具点検業務委託料なんですけれども、これは全ての公園の点検をされたということか、それは何件なのかということと、その点検で安全が進んだということと、また、遊具の現状と、ほかにまた危険なものはないのか。修繕費用もその上に出ているんですけれども、修繕されたのかなというのもあるんですが、ほかにまだ危険なものは残っていないのかということと、それを教えていただきたいのですけど。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

この点検につきましては、箇所数といたしましては20か所の公園を調査させていただいております。前にも報告させていただきましたように、4つですか、すぐに撤去させていただきました。悪いところというんですか、使用不可というのが一応19基、判断しているんですけれども、その中から緊急性があるという分で4つ、まず撤去いたしてございます。

残り15基をどうするのかということになりますけれども、これはおいおい修繕していきたいなというふうに思っております、この中でもどうしてもあかんやつは多分、撤去せないけないんでしょうけれども、この悪い箇所につきましても、ハード面がアウトという判定を受けているのがほぼほぼです。ハード面というのは一体何が悪いのかといいますと、例えばもう安全基準が変わったことによってアウトになった分でありますとか、今まで土の中に埋まっていた、例えば支柱等とかが、使用している間にだんだん土が削れてきて、表に出てきている面とかがありますので、それは十分、修繕等々で対応できる分がありますので、それはその分で対応していこうというふうに考えてございます。

今言ったように、これからそういうふうに、令和7年度で予算を取って対応していこうと考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

そうしたら、すぐに危険なものというのはもう全部撤去されて、子どもさんが遊んでいても大丈夫という状態にはしていただいているということですよ。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

プロが見たときに、使用を止めたほうがいいというふうな判断が出ているんで、一定、危険はまだ残っているんですけども、この作業をやる前までは何も知らずに遊んでおりましたので、その分、今言ったようにちょっとだけ時間をいただきまして、どうしてもあかんやつはまず撤去したと。今、7年度に取ってからすぐ対応していこうと思っておりますので、できたら本当は全部止めたほうがいいんでしょうけれども、あの全部止めるとほぼほぼなくなってしまいますので、その辺は今、勘案しながら、行けるんであろうなとか、今までよりかは、うちの手が空いたときには埋められるところは埋めたりとか、対応させていただいておりますので、ぎりぎり行けるかなという判断でございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ちゃんと、手が空いたときにとか言っていたいているんですけど、ぎりぎり行けるかなという状況で子どもが遊んでいるということになるんですか。

それは大丈夫なんですか。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

今まで多分、これを要するに、たまたまうちがやったからという言い方は大変失礼ですけども、やらなかったら、当然知らずにやっておりますんで、今まで事故がなかったと。今言ったように、これがやったからといって急に事故が突然発生するとも思っておりませんし、多分、行けるだろうという判断をしております。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

何て言うのかな、何かそういう危ない状態でということは、何かお知らせとかはあるんですか。何もなく、もう子どもらも自由に遊んでいるという状況になっているんですか。何もお知らせせずに、それでいいんですか。すみません、分からない。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

先ほども答弁させていただきましたけれども、総合的にハザード面というところが引っかかっておりますので、ハザード面は今言ったように、先ほどのように基準が変わったと

か、今言ったように、下の露出が出てきたとかいうふうに対応になっておりますので、それは何とかクリアできるとか、もうちょっと時間が空いてからやってもいいのかなという判断をしておりますので、今までとそうそう変わっていないとか、現状的に、何か危険にとがっているところが出ているとか、欠けているとかいうのがないので、そこは申し訳ないですが、お時間いただいて、新年度予算からの対応というふうに考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

そうしたら、なかなか厳しいという状況みたいなので、また点検とかを、なるべくお忙しいと思いますけれども、そういう箇所のところは気をつけていっていただけるように、よろしく願いしたいなということしか、言えないのかなと思うんです。

委員長（二家本英生議員）

新城部長。

産業住民部（新城正俊部長）

補足の説明になるんですけども、課長から説明していただいたとおりなんですけども、今課長のほうから、ハザード的なものというところで不備があるところがあるよというようなどころに関しては、使用していただいているというところなんですけども、議員お示ししているように、明らかに何と言うんですか、例えば滑り台が、滑っていくときに金具がめくれて、外的なけがをするよとかというのが最近でもありました、1か所。そういうところに関しましては、今、現場に職員、行っていただきまして、使用を不可する、いわゆる進入禁止、危険なテープを巻かせていただきまして、対応させていただいております。

そういったように、外的にもうこれは明らかに、けががするよというようなどころに関しましては、早急な対応をさせていただいておりますのでご安心ください。よろしく願いします。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。そういう箇所もなるべく本当に早く修繕していただいて、子どもさんが自由に遊べるようにしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今の公園の遊具のことなんですけど、安全基準は昔と随分変わったと思います。かなり危険な遊具やなと思うのも、実際にありましたしね。

撤去していただいたのはよかったと思うんですけど、撤去した後に新しい遊具、そこら辺は、リースとかもあるというのもお聞きしましたけれども、ご検討というのは今後されるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

当然、今言ったように、撤去等々した分は、何か入れていかなあかんのかな、もしくは全体的に見ましても、相対的にリスクのある遊具が多いですので、その辺を全部見直していかなあかんというふうな考えはありますので、計画的といいますか、予算取りをしながら、お時間をいただきますけれども、いらっはいこうとは考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

まずは新しい遊具を入れるというよりも、先に残っている遊具の安全面、そこは確認していただいて、計画をしていくということの答弁がありましたので、ぜひその後は、新しい遊具の購入とか、そういうところはぜひ検討していただきたいというふうに思います。

続いて、よろしいでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

先ほどの全体的な説明で、委託料の増とか減とかいうご説明があったんですけど、機構改革もあったというふうにさっきおっしゃっていましたが、委託料の増とか減というのは、全体的に見てどういったところで減と増というところが発生するんでしょう。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

すみません、どの部分の委託料を。何個かはあるんですけど。

委員（河野隆子議員）

私もメモし切れなかったのですが、例えば、一つで言ったら都市計画税347万幾ら減で、これは委託料が主に減でしたとかいう説明がありましたでしょう。この一つ取って、この委託料の減というのはどういったことですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

都市計画総務費の中の委託料、例えば貯木場に係る調査業務委託金とか、そういう部類の全てが減になっているというところもありまして、うちは今、各費目で減になったり増になったりしているんですけども、その調査目的と言うんですか、それによって減になっているというような状態でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

それで、109ページの、駅周辺の自転車の整理の委託料というのが載っているんですが、公衆トイレのところの自転車置場のところは、シルバーさんが土日も貼り付けでしていただいているということで、マナーの悪さというのが目につきます。そこら辺は、啓発も要るのかなというふうに思うんですけど。

あと、道路交通法の関係だったか、放置自転車。指定のところの放置自転車はもう撤去するというので、撤去されていて、たまにトラックとかを見かけるんですけど、大体、年間どれぐらい徹底されているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

年間にしたらそんなにはないんですけど、苦情のあったときは、うちの職員が撤去しに行っていますので、年間大体どのぐらいというのは、あまり把握してはございません。そんなにはないです。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

把握していないということですか。把握もしていただきたいというふうに思うんですけどね。

その撤去したやつは、もちろん町の土地のところに置きはるんだけれども、その後、何か月も取りに来ないという方に関しての、その自転車は、その後はどういうふうになるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

まず、撤去した自転車に関しては、警察さんに盗難届が出ていないかというような届けを出します。盗難届が出ていない自転車に対して、持ち主さん、防犯登録というやつで警察さんに照会をかけて、住所等を照会していただいて、通知を出して、取りに来られた自転車に対してはお金を頂いて返還するという流れになっております。

ただ、大半が取りに来られないので、町の負担で処分させていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

大半が取りに来ないということで、処分というのはもう、捨てるということでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

大体6か月ぐらい放置させていただいて、その後は処分させていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

なかなか役場、行政がやりにくいとは思いますが、中古の自転車、今、自転車屋さんに行ってもなかなかないらしくて、数か月待ちとか、やっぱり新品をよう買わんというような声もあって、そういった、処分といたらごみになる、鉄くずになるわけですね。そういったところも、他市さんなんか、どこか安く売るところの、いろんな手法もあると思うんですけど、そういったところは、検討というのは難しいですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

近隣市町の調査も私ら実施させていただいて、近隣市町が貿易に出しているところとかということも実際ございます。そんなので売っているところもございますので、私らも近隣市町、調査研究しながら、今後どうしていくのかというようなところも、またこの先考えていこうかなと思っております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

貿易ということやったら、海外に出すという意味合いだというふうに思うんですけど、やはりあの町内でも、中古の自転車がないと困っている方もいらっしゃる、そういったことも私、実際聞いてますので、ぜひ他市のほうも研究していただいて、検討していただ

きたいというふうに思います。

委員長（二家本英生議員）

答弁求めますか。

委員（河野隆子議員）

はい。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

調査研究をさせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

お願いします。

それと、あとは108ページのところとか、あと109ページのところで、交通安全のところの項目があるんですけど、1つは109ページの14節の交通安全施設整備工事。これは、中身はどういった工事なんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

区画線とかガードレールとか、そういうものが傷んだときに直すものでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

それで、さつき通りの横断歩道、何か所かあるんだけど、例えば緑水園からもう山側のところの、花屋さんのところの横断歩道、あそこも子どもが学校へ行くのに通ると、お昼なんかも若干歩行者は少ないですけど、朝夕は多いというふうに思うんです。やっぱり、信号機をという話も、何かほかの議員さんが聞かれたこともあったと思うんですけど、やはり信号機ではなくて啓発ね、もうちょっとちゃんとした看板を立てるとか、啓発、車にちゃんと止まってもらおうと、そういったことが必要だというふうに思うんですけど。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

私ら、学校関係といろいろ協議しているんですけど、基本的に、やっぱり信号機のある

横断歩道を渡っていただくというのが私らの使命でございますので、もし本当に危ないのであれば、もうその横断歩道は撤去したらいいん違うかなと思っているんです。

そんな協議を今、警察さんとさせていただいていますので、さきの一般質問でもございましたけれども、そういう回答をさせていただいていますので、いましばらくお待ちください。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

撤去といって、今、私びっくりしているんですけど、横断歩道を増やすというのは聞いたことあるけど、撤去。ではなくて、やっぱりあそこ、渡ってはりますんで、さつき通りは歩行者、横断歩道がなくても渡っていい道路の幅やというの聞いたことがあるんですけど、やっぱり子どもの交通安全、通学路の安全という意味で、やっぱり横断歩道は残していただいて、信号機をつけてくれというのは言っていないんですよ。ただ、啓発ね。そういった、止まってくださいよという運転手さんに向けての啓発。そういったところが必要ではないかというふうに言うています。いかがですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

いろいろご意見をいただいていますので、お人形さんの形をした看板をつけたり、この前も黄色い旗を、持って渡っていただくために設置させていただいたりはしているんですけど、本当にそこが安全なのか、危険なのかというような話になってきますので、横断歩道を設置する、撤去するというのは警察さんの判断でございますので、私らはそこに協議しに行くだけですので、本当に危ない、危ないと言われているところを、本来、渡らせていいのかというような、そんな話になるん違うかなと思っていますので、私らは警察さんに、本来これだけ危ないという声が上がっているんですわと言うたら、じゃあほんなら信号が無理やったら撤去しましょうかというような話にしかなれへんので、本当に必要であれば、地域の方も見守っていただいていますし、私らも看板をつけたり、旗を立てたりしていますので、地域の方も見守っていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

2年か3年に1回、今日、担当者はいらっしゃいませんけど、教育委員会のほうで見回

り、警察と、それから学校の先生が入っているのかどうか分からないですけど、保護者、そういった方が入って、子どもの通学路の点検とか、ここは危ないよとか、そういったところのことで、2年か3年に1回あったというふうに思うんです。そういったお声も聞いていただいて、いろんなことで検討していただきたいというふうに思います。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

令和5年度末に通学路の調査をさせていただきましたけども、特段、新しいような要望もございませんでしたので、現地に確認に行くようなこともございませんでしたし、今、議員が言うてはるところも危険箇所として挙がっていませんので、意見として、私らは耳に入ってくる分に対しては適正に対処させていただいていますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

よろしく願いしたいというふうに思います。

それと、あとは町営住宅の112ページのところの、検討していただいているということで委託料が出ているんですけど、先ほどの答弁で、令和6年度をめどでいろいろ事業スキームをやっているということなんですが、アンケートも取っていただいて、令和6年度というたら今やね、今年度をめどということ、あんまりもう日にちもないんですけども、大体、ざくつとした青写真というものはもう描かれているんですか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

6月議会でも令和5年度の報告をさせていただいて、令和6年度も今現在させていただいているんですけど、事業スキームが13項目あって、そこから忠岡町として何ができるのかというような、今、絞り込みをやっておりますので、今年度中には何らかの方向性は出さんとあかんやろうなというような感じでやっておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

随分ともう空き家も目立っているんですけど、お住みになっている方もいらっしゃるの、そういった方が住宅に困らないといったところはしていただきたいというのと、あと、町営住宅は、どこでも市営住宅とかを持っているんだけど、忠岡町は町営住宅、

町内で今、3か所あるのかなと思うんですけど、やはり若い新婚の方を呼び込むとか、あと、高齢者の方々が古いアパートとかでかなり住みにくいと、お風呂もないと、そういった方もいらっしゃるって、引っ越ししたいと言うても、忠岡の府営住宅は人気があるのでなかなか当たらない、それから、高齢者になるとやっぱり保証人もいるということで、なかなか引っ越しができないといった方、そういった声もありますので、若い世代の呼び込みであったり、長いこと忠岡に住んでいただくという目的と、あと、高齢者の住まいが、なかなか新しいところに引っ越せないといったところのこともありますので、やはり町営住宅として、建て替えが必要になるということですけど、町営住宅として、やっぱりそれはそれで残していただきたいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

議員ご指摘のように、いろいろ私ら、今、検討はさせていただいてはいますが、若い世代を入れるのか、入れへんのかは、方針が決まった後になってくると思いますので、まず、町営住宅をどうするかというような検討を、今、させていただいてますので、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それも計画にぜひ入れていただきたいというふうに思います。

あともう最後、1点ですけど、109ページのカーブミラーの修繕料が出ています。もちろん、今、設置されているところのカーブミラーというのは、ゆがんでいるとか、鏡がもう曇って見えないというところは、もうすぐ対処していただいているところなんですけど、新設のカーブミラーです。前にそこに立てたいというところで、自治会でもやってくださいといったこともあったというふうに思うんですけど、やっぱりここは必要だというところで、住民要求があった場合のときは、カーブミラーの新設というのはしていただけるのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

基本的にカーブミラー新設というのは、本当に必要かというのを調査させていただきますけども、町道と町道の交差点及び丁字路の見通しの悪いところをメインにさせていただきますので、隅切りをやっているとか、そういうところは、極力私らも増やしたら当然リスクも背負いますので、その辺は調査しながら、慎重に検討してまいりたいと思っております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

必要なところは調査を、現地も見に行っていていただいていますので、必要であれば、そこはぜひつけるということで、検討していただきたいというふうに思います。

すみません、あと1点だけ忘れていました。もう本当に最後です。

道路の、例えば袋小路。袋小路で町道でないところの穴が空いていて、非常に危険な場所。それは私も今まで質問させてもらったんですけど、なかなかその袋小路のところ、それはもう町道でないから、もうその住民の、袋小路の四、五軒あったら、そこでもうやっってくださいといったことになっているみたいなんですけど、和泉市の例を私、前に言わせていただきました。和泉市はちゃんとそこは補助を出して、ちゃんと道路を直してくれるということで、和泉市に住んでおられた方から聞いたんです。

なので、やはり袋小路、四、五軒あったら、皆さんのお金も出し合っただけというの、なかなか個人的にそれを回してするというのは難しいと思うので、そこら辺の補助というのは検討していただきたいというふうに思うんですが。

委員長（二家本英生議員）

橋本課長。

土木課（橋本珍彦課長）

今、委員おっしゃるように、前回でも私、それを伺いまして、そのとき初めて知りましたので、確かに見たらやっているところもございます。だから、やっているところもあるんだらうなどは認識しておりますけれども、うちの中でも、議員おっしゃるように、うちの中ではどこまでいっても私道ですよというのが、まず第一義的に頭がありまして、そこに公費を突っ込むのはどうかなというのが、今、議論しているところですので、課の中で今、もんでいるところですので、答えは控えさせていただきますけれども、ちゃんと認識はしております、今、言ったように、どこまで私道にお金を突っ込んでいいかというのを考えているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ検討をお願いしたいというふうに思います。前向きに、よろしく申し上げます。

終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

すみません、1点だけ。

決算書の109ページの、委託料のところなんですけど、駅周辺の自転車置場の件なんですけど、個別でも何度かお話しさせていただいておりますが、やっぱりマナーの悪さとか、自転車の幅がとかいう問題があるんですけど、今後の方向性とか、何か新しく考えていることがあれば教えていただきたいです。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

この委託料はシルバーさんに対しての委託料で、シルバーさんに自転車整理を今、やっていただいております。現状、1台でも多く自転車を止められるように、シルバーさんが整理していただいているんですけども、逆効果で、自転車が出せれへんというような苦情もたくさんいただきますので、今後は何らか、他市がやっている有料化やとか、そういうのもできへんかなというような検討は、今、しているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

ありがとうございます。よりよい形で進めていただけたらと思います。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

北村議長。

議長（北村 孝議員）

街路灯か、さつき通りにありますよね。以前、いわゆる一般的に言われる水銀灯を今、LEDに変えていますよね。2種類、たしかあると思うんです。

私も夜中よく通るんですけど、何か以前より暗くなったようなイメージがあるんです。よく見ますと、一つは傘があってピンポイント的にその下を照らす、もう一つは広域的な、広角的な感じでやっている。なぜ、暗くなっているということは、広角的に光が、電気がいっていないのかなというか。夜のことですから、住民さんの往来というのは少ない、ほとんど車やから電気というか、ライトがついているようなもんやけど、何か防犯的にも、何か暗いようなイメージが。あれは、何を基準に違うの。2種類というか、明るいのと、ピンポイント的なのをつけてはるのは。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

以前、防犯灯やって、令和5年度からESCOでLEDにさせていただきました。私も

正直、暗くなったなと思っているんですけど、これは国交省の基準があつて、当然、1級道路、2級道路、あるんですけど、もともと忠岡町は明る過ぎたらしいです。それが今、元の基準に戻っているんで、暗く感じますけど、それが標準らしいので。私も確かに暗くなったなとは思ったんですけど、もうそれが基準らしいので。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

2種類ついていますよね。傘のあるやつと確か傘のないやつか。何で明るいほうにしないのか。それもやっぱり基準やから、そういうふうな形にしてはるのか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

E S C Oをする以前に、私らが単費を使わせていただいて修繕をやったやつが、傘のないやつになっているんです。今回、E S C Oをやったやつは、オーバーハングで、頭部はそのままで、球だけ変えてやっていますので、その違いでございます。

委員長（二家本英生議員）

北村議長。

議長（北村 孝議員）

なら、明るさは今まで明るすぎたということで、今ついているのが標準やということですか。分かりました、ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

では私より質疑がありますので、進行を今奈良副委員長に交代いたします。

（進行を今奈良副委員長と交代）

副委員長（今奈良幸子議員）

進行を交代させていただきます。二家本委員長、質疑をお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

以前から言っていたところなんですけども、大津川の左岸道路の速度規制についてなんですけども、あそこ、もともと河川の通用道路ということで、速度制限とかというのが基本されていなくて、以前も申し上げたんですけど、制限速度が一般道路と同じ60キロという形に今、なっています。

これは、ほかの議員の方も指摘があったところなんですけれども、来年か再来年ぐらいに道交法が改正されて、あそこの基本的な生活道路が、制限速度が30キロ以内というこ

とになるということ、話を伺っています。それに向けて、あそこの河川の上の道路、一般道路でなくて、生活道路として認定していくのか、それはもう警察との協議が必要かと思うんですけども、その辺の今後の見通しを教えてください。

副委員長（今奈良幸子議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

現在のところ、まだ何も動いていないんですけども、道交法が改正されてどういう状況になるかというのが、まだ先の話なので見えてはいないんですけど、確かに60キロで走るのは危険かなとは思いますが、その辺は警察さんと協議して、生活道路にするにしても、近隣住民さんの同意も必要になってきますので、かなり時間はかかるかなとは思いますが、協議はしていこうかなとは思っております。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

何せあそこは抜け道としてすごい、特に朝とか夕方とかは交通量も増えるところですので、逆に何も朝夕ではないときというのは、やっぱり車がいてないから、ビュンビュン飛ばす車がいて、やっぱり特に土日とか、河川を利用される方も多いので、その辺りの速度制限、一応法改正が先にあるというのはあるんですけども、やっぱりその以前に忠岡町として警察と協議して、対策をできるだけ早い段階でしていただきたいと思うんですけども、その点いかがでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

適正に協議してまいります。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

できたら早めをお願いいたします。

以上で質疑を終わります。

副委員長（今奈良幸子議員）

進行を委員長に交代いたします。

（進行を二家本委員長に戻す）

委員長（二家本英生議員）

それでは、北村議長。

議長（北村 孝議員）

今、委員長の質問でふと思ったんやけど、あそこ、何か月前かな、トラックと電車と、えらい大きな事故がありました。あそこ、トン数規制か何かあるんですか。ありますよね、たしか。

委員長（二家本英生議員）

坂本課長。

産業建築課（坂本健三課長）

規制はかかっておりますけれども、あれは4トン車でございまして、4トン車は通れるようになっております。

議長（北村 孝議員）

そうですか、分かりました。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

委員長（二家本英生議員）

続きまして、112ページから118ページの第9款 消防費につきまして、担当課の説明を求めます。少しだけお待ちください。

（消防費 担当課説明）

決算書の112ページをお願いいたします。第9款、第1項 消防費の決算額は3億6,946万8,573円で、前年度と比べて2,491万7,846円、7.2%の増で、主な要因は、消防署所管の消防ポンプ自動車整備事業によるものでございます。

それでは、各目ごとに主要な内容についてご説明いたします。

第1目 常備消防費です。これは消防本部の運営に必要な経費となっており、本年度決算額3億6,045万811円でございます。

112ページから113ページをご覧ください。第2節 給料から第4節 共済費までの人件費が2億9,179万2,973円を支出し、常備消防費決算額の81%を占めております。

第10節 需用費におきまして、更新計画に基づき、火災現場活動用被服5名分、161万2,380円を支出しております。

続きまして、115ページをお願いいたします。第12節 委託料につきまして、消防本部庁舎個室化改良工事に伴う設計業務委託料、417万4,500円を支出しております。

続きまして、116ページをお願いいたします。第17節 備品購入費におきまして、

消防ポンプ自動車の更新整備に4,356万円、また、火災現場用器具の新規整備に39万500円を支出しております。

第18節 負担金補助及び交付金におきまして、救急救命士養成に係る学校派遣等の消防技術研究負担金として146万4,535円、消防指令システム共同運用負担金として287万9,378円を支出しております。

続きまして、第2目 非常備消防費です。これは消防団の運営に係る経費となっており、本年度決算額901万7,762円でございます。

第1節 報酬におきまして、消防団員の報酬及び訓練等に伴う出動手当、228万4,497円を支出しております。

第7節 報償費として、消防団員6名の退団に伴う退職報償金、355万9,000円を支出しております。

続きまして、117ページをお願いいたします。第17節 備品購入費におきまして、水防用資機材の整備に38万5,000円を支出しております。

以上が消防費の主要な内容でございます。それ以外の箇所につきましては昨年度と大きく変動はございません。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

お聞きしたい。説明でもありましたんですが、113ページ、10番需用費ということで、火災現場活動用被服費5名分を今回、新規で出されていると思うんですが、これは続けて、継続していくものでしょうか。5名だけで済むものでしょうか。教えてください。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

この火災現場活動用被服なんですけども、国の消防隊員個人防火装備に係るガイドラインというのが改定されまして、それに伴って更新計画を立てました。

令和5年度から更新計画に基づいて、毎年度5名の規格対応外、適用外の消防隊員を対象に更新整備を行っていくものです。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。毎年、できたら順繰りに皆さん新しいのに変えていくという

形。安全面がいいんですね、こちらのほうが。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

おっしゃるとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。次に、申し訳ないです、続けていいですか。

116ページの、救急救命士養成課程負担金についてお聞きしたいんですけれども、こちら、去年から初めて新規でされて、1名が合格した、去年からされているということなんですけれども、また今年も続けてということで、これは成果のほうはあったのでしょうか。それと、これからも人数を増やしていく形になっているのでしょうか、お教えてください。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

この救急救命士養成課程の負担金であります。消防本部では随時この救急救命士というのを養成しております。消防学校のほうに、大阪市の高度専門技術センターというところに6か月間消防士を派遣いたしまして、随時、毎年1名程度、派遣しない年もあるんですけれども、人事等のこともございますので、毎年、大体約1名かゼロ名を派遣して、救急救命士を養成しているところでございます。

それと、3月に国家試験のほうを受験しまして、その結果、資格を取るということになっております。以上です。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。6か月学校に通って勉強されるということでよろしいんですかね。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

そのとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

では今、実際何名今いてはるという形ですか。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

忠岡町消防本部の救急救命士、運用救急救命士の人数は現在12名おります。以上です。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

そうしたらすみません、割合的には半分ぐらいということですか。すみません、何人いてはるのか理解していないので申し訳ないです。お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

現在、消防職員は38名います。そのうちの12名が救急救命士というところになっております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。大体3割近いということによろしいですかね。

救急救命士の資格があった方が対応してくれるというのはすごく心強いと思います、住民の方にも。ぜひ進めていっていただきたいと思います。ありがとうございます。

それと、すみません。続けていいですか。

委員長（二家本英生議員）

どうぞ。

委員（尾崎孝子議員）

116ページなんですけれども、4,356万円の新規であると思うんですけれども、これは消防ポンプ自動車購入費のことですよね。すみません、これは令和4年度にも2,552万円でされていまして、これは今、ポンプ2号車というのか、普通に走ってありますよね。カッコいいポンプ車が走っていらっしゃるんですけど、これのお金、令和4年度と令和5年度を合わせたお金でよろしいんでしょうか、教えてください。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

議員おっしゃるように、令和4年度と令和5年度で1台ずつ、令和4年度は消防団のポンプ自動車、これは2台のうちの1台の更新で、令和5年度は常備消防、我々の使用する消防車の2台のうちの1台の更新整備というようになってございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。勘違いしておりました。ではこちらの4, 356万のほうは、赤い2と書いているポンプ車のほうでよろしいんですね。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

そのとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

それから116ページの、岸和田市・忠岡町と消防指令システム共同運用負担金をされていますが、どれぐらい通報というんですか、どれぐらい出動とかされたんでしょうか、お教えてください。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

令和5年度におきまして忠岡町が出動した件数ですが、火災が12件、救助が11件、救急が1,808件になっております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。そんなにたくさん出動されていたということですね。ありがとうございます。

岸和田、一度、私、太平のゆのところの一方通行の道ってご存じですかね。中の道で一度、救急で連絡をして、家の中に閉じ込められた方が2階か何かにいて、それを助けるのに多分、岸和田市の消防が走ってきたみたいで、大きな車で来てしまって、道を塞いでしまっていたような状態なんです。結局、私、そのときに行って通れなかった。後で動かしてもらったんですけど、忠岡の方だったら狭いとか広いとか分かると思うんですけど、岸和田から来たら多分、その広い狭いが分からなくてそういう状態になったと思うんですけど、そういう何か差異みたいなことは何かあったのでしょうか。すみません。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

今回の件に関しましては、閉じ込め事案ということで、初動の状態から忠岡町の救急隊、ポンプ隊、岸和田の指揮隊と救助隊が同時出動します。その中で、救助工作車という車両が、通常のポンプ車よりもかなり大きい車両になりますので、一番直近で進入できるところまでは岸和田市さんも把握していますので、そこで停車させてもらったということになっております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

分かっててやってはったんですね、申し訳ないです。一番、すごい大きな車で来はったということで、分かりました、ありがとうございます。

では、一旦これで終わらせていただきます。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今の消防システムの共同運用、岸和田市とやっってはるわけなんですけど、今、出動数は聞きました。私は高月なので、高月やったら岸和田のほうから来てくれるというふうに聞いているんですけど、この共同運用したことによって、忠岡町の出動件数が、岸和田も行かなあかんのでね、増えたというところはどうなんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

岸和田市と共同運用することによって、忠岡町の出動件数は増えてはおるのですが、その分、忠岡町で起こった災害に対して、先ほど言われたとおり、救助工作車とか、そちらのほうも出動してもらっているというメリットはございます。

あと、職員におきましては、やはり今までよりも出動件数が増えたことによって、より活動に対する意欲が出て、向上心を持って訓練・出動等に励んでいるところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしたら、出動回数は増えたけれども、職員さんの意識の向上というところでメリッ

トはあるということでありまして、大変、忠岡町で救急車を見ない日はほとんどないぐらいよく走ってはりますので、コロナもありましたので、大変だったというふうに思うんですが、そこら辺が過重労働になっていないかなというところは心配でしたけど、それは大丈夫だということと理解しておいたらいいんですか。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

その辺のケアのほうは、休暇の取得等を割り当てさせていただいて行っておるところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

それで、115ページのところの改良工事の設計業務委託料。設計だけでもう工事、説明はあったかと思うんですけど、新年度で、もう工事は終わりましたでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

すみません。令和6年度におきまして、令和5年度の3月に設計変更を行いまして、令和6年度補正予算によりまして、工事の入札のほうを行いました。その結果、工事請負業者と契約いたしまして、現状、10月初め着工に向けて、現在、準備を進めているというところになります。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしたら工事が終わるのは、10月着工で、いつになるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

現状の予定では、12月、1月ぐらいに工事のほうは完了しまして、最終的には1月の末には完了というところになるというところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やっと思えるということで、女性の消防士さんが雇われたということで、よかったとい

うふうに思うんですけど、これで泊まり込みというのですか、そういうのが、この12月か1月の終了後、できるというところでありますね。確認ですけど。

委員長（二家本英生議員）

岸田消防長。

消防長（岸田健二消防長）

女性施設が完成しましたら、すぐに泊まりの勤務に入っていただくかなという方向で、我々考えております。以上でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

その消防士さんも望んでおられたところなので、泊まりの勤務ができるということであって、引き続き、今、女性の方1人なんですけど、やっぱり人数も増やしていただきたいというふうに思うんですが、そこら辺の計画はどうなっていますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

消防本部なんですけども、男性、女性ともに募集のほうはやっておりまして、今後は積極的に女性のほうも取って、募集のほうを積極的にやっていきたいというところを考えております。以上です。

委員（河野隆子議員）

分かりました。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、女性の方も増やしていただきたいというのは要望しておきたいんですが、今、男女募集中ということでありましたけど、今、そうしたら定数割れしているんですか。それか、もうじき退職者の方がいらっしゃるということで募集ということなんですか。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

現状、定数が39名でして、現状、消防本部の職員数は38名というところになって、定数割れというところになっているところでございます。

現状ですが、この10月から新規採用者、これは男性職員なんですけれども、1名採用がありまして、消防学校のほうに初任教育生として半年間学ぶというところに、予定になっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。そうしたら、1名補充ということで、定数にはなるということで、分かりました。

それで、あと2点だけお伺いします。

1点が、117ページの災害備蓄品代というのが出ているんですが、もちろん災害が起きたときに、イの一に一番出動されると思うんですけど、職員さんの水とか食料とか、そういったことが気になるところなんですけど、その点はこれ、また新しく買うたということで、備蓄計画というのもうまくいっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

以前、購入させていただいた備蓄食料品のほうが、この令和6年度で期限切れの部分がありましたので、昨年度、新たにその分を補充するような形で購入させていただいています。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうですね、期限が来ますので、また新しいのを買い換えるといったことは必要だったかというふうに思うんですけど、これで3日分、3食分ということで、職員さんの分は、消防士さんの分はそれでちゃんと用意できているということですか。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

こちらの災害備蓄品で、職員3日分の食料を担保するために、毎年少量、期限が切れる部分を補っていくような形で運用させていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。そうしたら、備蓄のほうは大丈夫だということと、あと最後の質問なんですけど、消火器のことでお伺いしたいんですけど。

これ、私、どこでもらったのかな。役場の中に置いてあったというふうに思うんですけど、古い消火器をたくさん持っておられる方、いらっしゃるんです。特に私のところの地域なんかは、もう十数年前やったと思うんですけど、自治会でまとめ買いして、お安く分

けたということで、古い消火器が置いてあるおうちがたくさんあるんですけど、そのときには、消火器をどういうふうに処分したらええんかというのを私も聞かれまして、コーナンとかに行ったら、新しいのを買うたら、もう古いのをただで引き取ってもらえるよということで対処もしていただいているんですが、やはり古い消火器というのは危険だというふうに書かれていますので、それを放置している方も、高齢になると製造年月日も見ていないと思うので、そこら辺はいろいろと啓発もしていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょう。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

議員おっしゃるように、消火器は約10年が耐用年数というようなところで、古くなってくると、熱で膨張して爆発するというような事例もございますので、その辺りはしっかりと啓発していくというようなところですよ。

あと、その廃棄というようなところになるんですが、自分で廃棄というのは難しいところがありますので、業者のほうに廃棄で引き取ってもらおうというようなところを指導しているところでございます。

ただ、エアゾール式の小さい消火器というのものもあるんですけども、そういうレベルですと、ゴミ袋に噴射して中身を空にして、缶でほかすというようなところも可能にはなってくるんですが、一定、赤色の消火器になりますと、やはり自分での廃棄というのは難しいところなので、業者に依頼するというようなところになってきます。

議員おっしゃっていた、その辺の経年、長いこと使っている消火器、その辺の処分というようなところは、十分にホームページとかで今後、広報していくようにしていきます。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。なかなかお年寄りにはホームページを見ないので、できたらこういったビラとかもあるんで、活用していただきたいというふうに思うんです。

ここに悪質な消火器の訪問販売とかというふうに書かれているんですけど、実際、もうお宅の消火器は古いから新しいの、幾ら幾らでもう取り替えなあきませんと言うて、悪質な電話がかかってきているところがあるんです。ですので、そこら辺も注意喚起とか、お知らせしていただいたらありがたいなというふうに思います。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

分かりました。その辺も含めて指導させていただきます。

定期的に、年に1回なんですけど、高齢者を対象に防火訪問というようなところもやっています。それに加えて、普通の一般家庭の防火訪問。うちの消防職員が各家庭に立ち入って、その家庭の防災に対する知識というようなところを周知していますので、そのときに消火器の件も指導していますので、それを継続していきながら、全町民さんに伝わるような形で指導をしていきたいと思っております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ありがとうございます、よろしく申し上げます。

あわせて、天井についているやつ、スプリンクラーじゃなくて火災報知機やね。あれ、各家庭の踊り場にと言うて、義務化されたんやったかな。そのときにたくさんつけたところもあるので、あれもやっぱり期限があるので、そこら辺も併せてよろしくお願ひしたいというふうに思っています。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

今おっしゃっている、住宅用火災警報器も含めて指導していきたいと思っております。

委員（河野隆子議員）

お願いします。終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、1点確認です。指令統合して、今年で何年ですかね。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

令和3年の2月に指令センターのほうを開始させていただいていますので、今3年と約半年になります。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。ここ三、四年、コロナで、お金が国から下りてきて、いろんな設備の更新であったり、備品の購入であったり、いろいろな物を買そろえたり、そういうことが

できたと思うんですけども、ここから5年間の消防の設備、これからの更新もしくは修繕、機器だけではなくて、その他、防火水槽であったり、いろいろなものの計画、お金の要る計画というのはどういうものがありますか。5年間。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

まだ車両のほうも、消防車のほうも、まだ更新していただきたい車両も控えていますし、あと救急車も更新の予定が入っています。あとそれ以外にも、広報車的な車も更新を控えているという、これはまだ予算はどうなるか分からないんですけど。それに加えて、あと消防庁舎の、そろそろ外壁の塗装であるとか、あと屋上に訓練塔があるんですが、この訓練塔のほうもかなり劣化している状態で、その辺の庁舎の改修工事というようなところも、今、計画で挙げていて、その時期はもう迎えているんですが、予算がなかなか通らないというような状況です。

それに加えて、議員おっしゃる防火水槽、これもかなり古い防火水槽が多く存在しますので、この辺の更新というようなところも、一応、計画に挙げているところでございます。以上ですかね。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

具体的に、車両のほうは分かったんですけども、物すごい額になるね。これ5年以内の話でお聞きしたんやけど、5年以内で今言うた全部。防火水槽なんかは昨日か一昨日か、東3丁目を見に行っていたね、見積りしているんやね。そんなんも聞いているけど、必要かどうかも含めて、今後、検討というのはせなあかんのやろうけど、ざっくり今、下川君はそうやってぱっと口から出てくるんやから、ざっくり金額的にどれぐらい見積もっているんや。もしそれを、やる、やれへんは別にして、この5年間で更新の日にちが来るものを全部予算化したとしたら、ざっくりで構わへん、どれぐらい考えているの。

委員長（二家本英生議員）

下川消防次長。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

それは今、僕が答弁した合計というところですか。

委員（松井匡仁議員）

そう。

予防課（下川浩幸次長兼予防課長）

合計というようなところは難しいんですが、車両でいきますと、やはり3,000万から4,500万というようなところ、1台。あと庁舎の改修でいきますと、以前見積りを

出してもらった分があって、1, 500万ぐらい。あと水槽のほうは、これはまだ実際、具体的な見積りはいただいているんですけども、恐らく七、八百万ぐらいはいくのかなというようなところで思っているところです。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。決算なので、聞きたかったのでお伺いしただけで、すみません、ありがとうございました。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

北村議長。

議長（北村 孝議員）

あんまり質問したらあかんねんけど、被服に関してですけども、このところ、去年にも増して今年もまだ暑いという中で、大変ご苦勞を、消防職員の皆さん、団員の皆さん、ご苦勞されています。

8月ですか、消防団の何か大会か、汐見でありまして、私は行けなかったんですけど、副議長に行っていて、お聞きするに当たり、1人何か熱中症で、来賓の方なのか団員の方なのか、私そこまでは詳しくないけど、そういうこともあったように聞いています。

愛知県で、勤務状態は外に出る仕事ですから、愛知県のほうでベスト、ここから風の入るベストを利用して、かなり職員の皆さんに好評やということも聞いていますので、住民の生命と財産を守らなあかん立場の人が、自分がまず倒れたら誰が行くねんと、しゃれにもならん話なので、外の、私もよく見かけていますけど、いろんなトレーニングもされているようですし、全員が全員じゃなしに、出勤される方なり、いろんなそういうときに、要るときに着用できるような、そういう、自分の自ら体を守らんと助けにも行かれないし、そういう健康面というか、健康管理というか、そういう部分でベストの風を。結構あれ、見た目より涼しいらしいですよ。体温を下げるというか、そういったこともありますので、たしか愛知県のほうでそれを活用されている消防署があるみたいなんで、また一遍、調査研究して、できればそういう形で自らの体を自ら守って、住民の生命と財産を守っていくというところに行ってほしいなと、こういうふうに思うんですけども。別に、一遍、調査研究してみてください。

委員長（二家本英生議員）

和田課長。

総務課（和田衛太課長）

熱中症対策等なんですけど、消防本部内の執務ではTシャツで執務を可能にしたりですと

か、例えば冷凍庫を買って、氷を貯蔵して使用するとか、そういうことはやっているんですが、現状、その空調服と言うんですかね、その辺は、導入は今のところ考えていないところなんです、また近隣市町等のところを調査研究いたしまして、またその辺のほうも検討していければなというところでございます。以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

すみません、2点お聞きします。

行政評価の中で、できなかったことのところに、岸和田市と連携した総合訓練ができなかったことと、あと、積極的な救命率の向上のところで、積極的な住民への広報ができなかったとありますが、今後、これについてどのようなことをやっていきたい、今後の取組について、岸和田市と連携した大規模災害総合訓練と書かれていますが、これは今後していくつもりがあるのかと、救命率向上を目標とした積極的な広報活動と書かれていますが、これは実際どんなことをやっていくか、考えていらっしゃいますか。

すみません、これができなかった理由と、今後、どうしていくかを教えてください。

委員長（二家本英生議員）

森田消防署長。

警防課（森田憲久消防署長兼警防課長）

岸和田市と合同の、大規模な災害の訓練なんですけども、こちら側の大規模災害訓練のマニュアル等と、岸和田市さんのマニュアル等が一致しなかった部分もありまして、一度やらせていただきたいということで要請はさせていただいたんですけども、岸和田市さんのほうの受皿といいますか、やり方を今、まだ検討しているので、もうちょっと待つてほしいということで、延期というか、なっています。

大規模ではないんですけども、隊員同士の合同の訓練は日常やっておりますので、それに加えて、大規模災害時の訓練も導入していこうかというところで進めております。

あともう1点、救命の講習の件なんですけども、今後といいますか、常になんですけども、こちらのほうからは各小学校や中学校さん、企業さんのほうには救命講習の依頼というところはお受けさせていただいております、昨年、コロナが明けるまでの間は救命講習自体の人数を、制限がかかっておりましたので、今年に関しましては特に制限というのは行っておりませんので、拡大させていかせていただいているというところで考えております。

委員長（二家本英生議員）

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

ありがとうございます。町民のみんなが安心・安全に暮らせるように、対策を取っていただきたいと思います。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

委員長（二家本英生議員）

次に、118ページから145ページの第10款 教育費、第11款 公債費、第12款 予備費につきまして、担当課の説明を求めます。

（教育費・公債費・予備費 担当課説明）

それでは、教育費についてご説明させていただきます。

118ページをお願いいたします。第10款 教育費、第1項 教育総務費、決算額1億8,379万9,520円。第1目 教育委員会費、96万3,000円で、対前年度比、約128万円の減は、負担金補助及び交付金を教育総務費へ予算の組替えを行ったことによるものでございます。

第2目 教育総務費、決算額1億8,283万6,520円で、対前年度比、約5,431万円の増は、幼稚園費を廃止したことにより、教育総務費へ予算の組替えを行ったことによるものでございます。

122ページをお願いします。第2項 小学校費、決算額1億1,865万9,176円。第1目 学校管理費、決算額7,847万3,053円で、対前年度比、約366万円の減は、備品購入費の減によるものでございます。

125ページをお願いします。第2目 教育振興費、決算額949万1,456円で、前年度と大きな相違はございません。

127ページをお願いします。第3目 学校給食費、決算額3,069万4,667円で、前年度と大きな相違はございません。

127ページ下段をお願いします。第3項 中学校費、決算額6,574万7,252円。

128ページをお願いします。第1目 学校管理費、決算額3,933万4,910円で、対前年度比約337万円の減は、第14節 工事請負費の減によるものでございます。

130ページをお願いします。第2目 教育振興費、決算額882万8,812円で、前年度と大きな相違はございません。

132ページをお願いします。第3目 学校給食費、決算額1,758万3,530円で、前年度事業との大きな相違はございません。

続きまして、第4項 社会教育費、第1目 社会教育総務費、決算額は5,321万1,776円で、前年度と比べ、603万3,658円増額した主な要因は、会計年度任用職員の増員に伴う報酬等の増によるものでございます。

資料135ページをお願いいたします。第2目 留守家庭学級費、決算額316万5,174円で、前年度と比べ212万877円増額した主な要因は、忠岡小学校留守家庭児童学級の空調点検業務委託及び東忠岡小学校留守家庭児童学級のトイレ改修工事等によるものでございます。

資料136ページをお願いいたします。第3目 町民運動場費、決算額2億2,743万2,482円で、前年度と比べ2億817万3,732円増額した主な要因は、町民運動場改修工事に関わる設計委託料、管理業務委託料及び改修工事費によるものでございます。

資料137ページをお願いいたします。第4目 公民館費、決算額3,320万8,589円で、前年度と比べ大きな相違はございません。

資料139ページをお願いいたします。第5目 図書館費、決算額1,009万2,803円で、前年度と比べ大きな相違はございません。

資料140ページをお願いいたします。第6目 スポーツセンター費、決算額70万9,500円で、前年度と大きな相違はございません。

第7目 児童館費、決算額281万6,559円で、前年度と比べ127万6,400円減額した主な要因は、ふれあいホール電動式移動観覧席の部品交換修繕料及びその保守委託料の減によるものでございます。

資料141ページをお願いいたします。第8目 文化会館費、決算額129万8,000円は、文化会館の正面玄関前のタイル補修と、スロープの設置工事費によるものでございます。

続きまして、第5項 保健体育費、第1目 学校保健費、決算額1,450万2,674円で、前年度と比べ251万円の増は、報償費の増によるものでございます。

資料142ページをお願いいたします。第2目 社会体育費、決算額284万4,097円で、前年度と大きな相違はございません。

第3目 スポーツによる地域活性化推進事業費、決算額428万4,292円は、運動・スポーツ関連資源マップ作成業務委託料と、それらに伴う費用でございます。

144、145ページをお願いいたします。第11款、第1項 公債費、支出済額7億6,932万93円で、第1目 元金支出済額、7億2,772万116円は、長期債償還元金で、前年度と比べまして2,241万5,968円の増で、これは令和元年度発行の臨時財政対策債などの元金償還発生などによるものでございます。

第2目 利子支出済額、4,159万9,927円は、長期債償還利子で、前年度と比べまして86万6,914円の減でございます。

第12款、第1項、第1目 予備費につきましては、土木費へ327万9,000円、こちらは大津川河川公園緊急清掃業務委託料として、次に、教育費へ545万7,000円、こちらは新浜テニスコート給水管改修工事へ82万5,000円、そして認定こども園施設型給付費1号認定へ、463万2,000円、それぞれの充用でございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は以上のおりです。

ご質疑をお受けいたします。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、よろしくお願いいたします。教育費119ページ、時間外勤務手当についてお伺いいたします。

昨年度、105万3,000円から19万3,000円と、前年比、時間外勤務80%減となっておりますが、このように大幅削減されることになった理由についてお聞かせください。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

令和4年度と令和5年度を比較した場合に、メンバーが入れ替わっておりまして、時間外勤務手当のつかなかった管理職が増えたということによる減によるものでございます。

よろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。管理職がいっぱいやったからつかなかったと。分かりました。切ない理由ですね。

続きまして121ページ、校務支援システムリース料についてお伺いいたします。昨年の84万円から340万円に増加した、これまた理由と、増加したということで充実された内容は何かございましたらご答弁いただけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

昨年の84万8,100円につきましては、統合型校務支援システムの導入に当たりま

して、令和5年1月から3月までを仮運用とした、3か月分のリース料金となっております。令和5年4月から本格導入いたしましたので、令和5年度の決算額、約340万円につきましては、1年分のリース料金となっております。

なお、統合型校務支援システムにつきましては、日々情報を蓄積し、通知表、指導要録等の作成時に一から作成するのではなく、必要となる情報を付加するだけで作成することができ、教職員の負担軽減のほうにつながっております。以上でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございました、よく分かりました。ほんなら去年は3か月分だけやったと、試しの分で。今年はその4倍で、ちょうど同じ金額やということですね。了解いたしました。

続きまして、124ページ、129ページの、小・中学校コンピューターリース料、約5,000万円について、2点お伺いいたします。

1台当たりのコスト及び定期的な選定の見直しが進められると考えますが、どのように検討は進められておりますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

教職員のタブレット等につきましては、契約期間が令和6年8月末となっております。教職員のタブレット、教室のモニター等につきましては、1年延長の場合、リースよりも購入のほうが安価になることから購入をし、サーバー等につきましては、1年リース延長としております。

令和7年9月以降につきましては、リース更新等、検討中でございます。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。また詳しく決まりましたら教えてください。

続きまして、同じコンピューターリース料です。忠岡町では小・中学校に1人1台ずつ備え付けられたタブレットについて、ふだんは自宅へ持ち帰ることはできないんですね。しかし、周辺市を見てみれば、持ち帰ることができております。SIM形式ではないので、家庭内Wi-Fi環境があれば、実質的に忠岡町の負担は生じることはありませんので、持ち帰ることができるようにしていただきたいと思いますが、いかがお考えでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

1人1台端末につきましては、夏休み等の長期休業期間に持ち帰りのほうを行っております。ふだんにつきましては、学校において、様々な学習活動において効果的に活用をさせていただいております。

議員お示しのふだんの持ち帰りにつきましても、今後、家庭学習での効果的な活用について研究のほうをしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

分かりました。どうぞ研究をよろしく願いいたします。

最後です。127ページ、給食調理委託費についてお伺いをいたします。こども園での給食食材費が、1,250万円から約1,900万円と、150%増しとなっております。このように物価が高騰する中におきまして、小・中学校における給食食材に関する材料費上昇はどれくらいになっているのでしょうか。また、給食内容の質の確保というのはできているのでしょうか。ご答弁をお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

給食費につきましては、令和4年度までが低学年で230円、中学年で236円、高学年で242円、中学校で280円ということでしたけれども、令和5年度になりましたら、それぞれの学年のほうで50円、値上げさせていただいているという状況でございます。低学年で280円、中学年で286円、高学年で292円、中学校では330円ということにさせていただいております。なお、令和6年度につきましては、令和5年度と同額ということでございます。

また質の基準、確保ということもございますけれども、それにつきましては摂取基準というものがございますので、それにのっとった形でさせていただいているということで、ご理解のほうよろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございました。以上でございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

118と119ページのところなんですけど、小学校のスクールカウンセラーの報酬と、またスクールソーシャルワーカーの報酬というのが昨年とほとんど同じなんですけども、件数のほうはスクールカウンセラーも892件というふうに、ここに資料を頂いている中に載っているんですけど、相談件数を前にお聞きしたときには、子どもさんよりも先生の相談も多いということをお聞きしていたんですけど、今回もそういう形なんですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

昨年度、教職員の相談件数が小学校の場合、令和4年度につきましては536件でございました。やはり昨年度、令和5年度につきましても524件となっておりますので、ただ、ここにつきましては、やはり先生方が、例えば担任しているお子さんの少し心配な部分があれば、すぐにスクールカウンセラーのほうに相談をして、早期対応ということできせていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。25回ずつですか、入っていただいているというふうにも書いているんですが、それで足りているということなんですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

小学校のほうに、町のほうで25回ということで、今年度は府費のほうを使いまして、また小学校のほうにまた少し多めにという形でもさせていただいておりますので、現在はそれで対応させていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。しっかりと対応していただいているようなのでありがたいんですが、あとスクールソーシャルワーカーのほうも、昨年お聞きしたときに、1回に3時間を60回というふうに言われていたんですが、その回数とか時間的なものは、報酬の金額が同じということなので、同じなんですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

回数につきましては、同じというふうになっております。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

1回3時間ということでよろしいでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

特に変わりはありません。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

スクールソーシャルワーカーさんは、やっぱり大変な仕事やということもお聞きしていて、本当はもっとやっぱり学校のほうにしっかりとということもよく、今、いろんなニュースとかでも流れているんですが、どういうふうに、これでじっくりとというか、しっかりと足りているということでもよろしいんですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

ありがとうございます。昨年、令和4年度の場合は、派遣回数の方が小学校のほうに32件で、昨年度、令和5年につきましては47件ということで、ただ、中学校を拠点としまして、小学校でもやはり福祉的な観点で気になる場合があれば派遣をして、教職員と場合によってはケース会議等ということでもしておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

やっぱり先生に言えないこととかも、スクールソーシャルワーカーさんに話をして、しっかりとまた寄り添っていただけるような体制をとということもよくお聞きしているので、またそのほうもよろしく願いいたします。

次に行きます。121ページのあすなろ塾事業の委託料なんですけど、昨年よりも少なくなっていると思うんですけども、これは、委託料というのは子どもさんの数とかに関係して、この委託料は変わってくるんですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

子どもの受講数につきましてはあくまでも希望制になっておりますので、ただ、いわゆる講師の数等によって、小学校3年生から中学校3年生で実施しておりますので、希望されるお子さんの数によって、例えば分割する学年とかということによって変わってくる場合もございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

これはそうしたら、受ける子どもさんの数が減ってきたから、これだけ委託料が少なくなったということよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

前年度のうちに予算というのを計画させていただいております、例えば、今年度の受講数を見まして、来年度、例えば3年生については2分割するとかというのを、計画を立てまして、それに応じて講師の数というのが変わってきますので、それで若干減っているという部分がございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

そうしたら別に、やっぱり今、子どもさんの数も減っていると思うので、やっぱりそういうことでも関係してくるのかなと思ったので、聞かせていただきました。ありがとうございます。

124ページの防犯カメラのことなんですけれども、ここの資料にも載せてはいただいているんですが、防犯カメラの、小学校とまた129ページには中学校の分が載っているんですけども、現在も何台かついているんでしょうか。

入り口のところに、新しく令和6年に何か予算を立てて設置するというふうには載っているんですが、今現在はないということになるんですか。あるけども、新たにまたこれも入り口のところに設置するということですか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

実際には、防犯カメラの工事のほうは夏休みにほぼほぼ終わっている状態で、本格運用が10月1日からということとさせていただきますということで、今、要項とか規則、規

定のほうを整えさせていただいているという状況でございますので、よろしくお願いしておきます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

これはそうしたら、新たな分でつけるということによろしい。夏休みについてということですか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

ご指摘のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

前にもお聞きしたときに、何か防犯カメラはあるけども、機能していないということとかもお聞きしたことがあったんですけども、そうしたら、この防犯カメラが新たについてということで、ほかのカメラはまだ、さっき5台と言わはった分は、前の分も合わせてということなんですか。すみません、分からなくて、申し訳ありません。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

すみません、5台ではないんですけれども、基本的に入札のときに3台という形でやらせてもらっていますので、そちらのほうはついていてということでご理解いただければなと思います。

去年、そういうやり取りがあったということも、私、記憶はしておるんですけども、そちらのカメラについては、基本的には使用できていないという状況だということも聞いておりますので、そちらの分が、恐らく中学校の正門前を映すカメラだったのかなというふうには認識しているんですけど、そちらのほうも当然、防犯カメラを新しくつけさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。そうしたら、もう故障している分はもうなしとして、新たにつけたということによろしいんですね。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

おっしゃるとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。次、行ってください。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑は。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、119ページをお願いします。

2目 教育総務費で、看護師報酬219万4,290円が載っておりますが、これは令和5年度新規だったと思うんですが、どのような内容であったのか。それから、これからずっと継続していくものなのかお教えてください。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

こちらにつきましては、令和5年度より東忠岡小学校の児童1名が、いわゆる医療行為等が必要になったため、学校に学校看護師のほうを配置させていただきまして、登校児童の健康・安全に資するため、医療的ケアを実施するためのものがございます。

一応、あくまでも年度ごと、毎年、保護者から申請していただいている形になるんですが、今後、継続をしていく予定でございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

では、小1から入って、保護者の希望により毎年更新という形で、できたら最後まで、小6まで行きたいとおっしゃったら、そういう形になるということよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

あくまでも保護者の申請にはなるんですが、先ほども申し上げましたとおり、医療的ケアが必要ということになりますので、そこは主治医の方の判断というのが必要になりますので、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。きっと、痰を吸ったりとかいう、看護師さんしかできないようなことだと思うんですけども、そういう子が地域でみんなと一緒に登校できるということは、本当に喜ばしいことだと思いますので、ぜひ続けていっていただけるように、また、保護者の希望を通していただけますよう、よろしく願いいたします。

次、よろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

はい。

委員（尾崎孝子議員）

120ページをお願いします。下から6番目になるんですけども、適応指導教室消防設備修繕料、適応指導教室施設等修繕料とか、22万、18万と計上されておりますが、どのような工事を行ったのかお教えてください。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

まず、適応指導教室の消防設備でございますので、当然消防設備なんですけれども、LED誘導灯というのを取り替えておるというところでございます。

2番目の適応指導教室施設等修繕料、こちらについては、建物が古うございまして、2階の教室の天井部分で、水道の漏水があったということで聞いていまして、そちらの部分の工事をしたということで聞いておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。やはり、忠岡幼稚園で、古い施設ということで、その都度その都度、修理されているということでよろしいでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

おっしゃるとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。協議、審議が2時間になっていきますので、一旦休憩を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

よろしいですか。そうしましたら、再開が15時15分からでお願いいたします。

(「午後3時00分」休憩)

委員長（二家本英生議員）

休憩前に引き続き、審議を再開いたします。

(「午後3時15分」再開)

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

先ほどのまた続きでよろしくをお願いいたします。

139ページになります。公民館費ということで、文化会館の屋根の改修工事が行われております。93万7,750円。それと、施設備品購入代ということで12万8,700円使われております。これは、どのようなことというか、屋根は雨漏りがすごくひどかったと思うんですが、それに対する工事だったのでしょうか。教えていただけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

雨漏りがあったからということで、工事させてはいただいております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

では、今はもう雨漏りもなく、バケツを置いているような状態ではないということでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

正直、かなり雨が強くて長引いたときとか、台風のときの後になりますと、若干、染み込んできて、その中身は難しいんですけども、水滴が少し落ちる感じはあります。ただ、それが施設の利用に何か影響があるというふうには思えない程度ですので、少し床を拭く程度ぐらいですので、それも階段の上の、床には落ちていませんので。

委員（尾崎孝子議員）

床には落ちていない。まだセーフ。

生涯学習課（春日正人課長）

そうですね。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。それと、備品というのはカーテンのことでしょうか。住民さんのほうから、バドミントンをするとき破けていて、光が入って、バドミントンのシャトルを見ることができないとかおっしゃっていたんで、それをお願いしていたんですが、どのような備品に使われたのかお教えてください。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

こちらは、1階の文化会館の事務所のほうなんですけども、事務所のほうのブラインドカーテンが故障していたので、更新させていただいたというものになります。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

では1階のほうということで、カーテンのほうはまだということですね。

できれば次回、決算に要望するのはおかしいかもしれないんですけども、ぜひカーテンのほうをよろしくお願ひしたいということと、先ほどのソレイユのこともあります、文化会館もかなり古いんだと思います。その場しのぎの改修であるというのははっきりしていると思いますので、ぜひ将来的に移転とか、造り直す、新しくするとか、前向きに考えていただきたいと思います。お願ひします。

委員長（二家本英生議員）

答弁求めますか。

委員（尾崎孝子議員）

はい。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

財政状況等も、当局とも相談しまして、優先順位をつけていかなければいけないので、前向きに考えていきたいというふうに思っております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

どうもありがとうございます。前向きに考えていただくこと、よろしくお願ひいたしま

す。以上で終わらせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

先ほどの、春日課長のほうの前向きという言葉なんですけど、あくまでも施設全体を、町全体を見据えた形での、という形でお取扱いいただけたらなというふうに考えておりますので、個々の部分ではなくて、トータル的な部分として考えていくべき話だというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員、いいですか。

委員（尾崎孝子議員）

分かりました。そういうふうに考えてまいります。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

では、すみません、河野委員。

委員（河野隆子議員）

119ページのところの、適応指導教室です。

この令和5年度で通われていた児童、生徒数を教えていただきたいんですけど。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

令和5年度につきましては、小学生1名、中学生4名となっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この教室に通われている子どもさんではなくて、また別で、不登校児童、その生徒数というのは何人いらっしゃいますか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

令和5年度につきましては、小学校が24名、中学校が35名となっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この不登校児童というカウントは、何日以上とかというのがあったと思うんですけど、病気で休んでいる子どもというのは、不登校のほうにカウントされなかったですかね。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

病欠のほうは除きますので、年間30日以上という設定になっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この人数というのが、例年に比べて増加傾向にあるのかということ、不登校の理由については一人一人把握されていると思うんですけど、どういった理由で不登校になっているということでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

まず、小・中学校ともに少し増加傾向にはございます。

要因としましては、やはりコロナ禍もございましたので、例えばコロナ回避等で休まれている場合についても、不登校とはそのときには別で計上しておりましたが、コロナ禍も終息しまして、5類になりまして、さらにやはり予防的観点、早めにやっぱりそういう部分も見ていこうということで、不登校者数のほうに計上する部分もございまして、少しその分も含めて増加傾向にはなっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それぞれ子どもさんによって理由は違うと思うんですけども、不登校児童と生徒の居場所ですね、そういったところで、家と適応指導教室ができて、選択できるようになっていきますけれども、不登校の理由に応じたほかの居場所として、例えばフリースクールというのがありますが、フリースクールに行っている児童生徒は本町にいらっしゃるのか。また、希望している児童生徒はいるのかという点については、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

フリースクール等については、もちろん選択の一つですが、以前にはいらっしゃったと思いますが、今年度は特に。ただ、実際フリースクールですので、やはりそこは保護者の判断というのがございますので、ただ、保護者の方から学校のほうにご相談等があれば、実際に管理職のほうでそこと連携をして、例えばそこでしっかりと学習内容等というのをされているようであれば、例えば出席扱いとかいう場合もございまして、その辺りは連

携しておるところでございます。

ただもう一つ、選択の一つとしましては、学校とソレイユだけではなくて、学校校内にも校内適応指導教室というのがございまして、例えば東忠岡小学校の場合では、校内支援ルームというのを作りまして、府費で支援員というのを配置して、例えばお子さんが学級のほうに入りにくい場合については、その別室でという部分の選択もございまして、そこは先ほど議員おっしゃってくださったように、要因等は様々ですので、そこは一人一人のお子さんに応じてということで、支援させていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしましたら、すみません、私、フリースクールに行っていられる子どもは、人数をおっしゃってくれましたかね、そこは把握できていなかったのかな。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

今年度については、把握はなしというふうに聞いております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

把握はなしということで、行っている児童がいないということによろしいですか。把握できていないだけ。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

不登校のお子さんでフリースクールに行かれていまする場合については、例えば保護者から学校のほうに連絡等がございましたら、すぐにこちらにももちろん状況報告はございますが、今年度については特にそういった報告のほうは受けておりませんのでということで、よろしいでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今、聞いたら東忠小の支援ルームというのもあるということで、適応指導教室も学校の外にできたということで、非常によかったというふうに思っているんです。

ですけど、この不登校児童生徒が、今聞いたらこれ、多いですね。なのでそういった方が、子どもがフリースクールにも行っていないということであれば、この子どもたちは

居場所、それはもう家にいるということですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

あくまでも30日以上という計上になりますので、そのお子さんのほうが学校に行かれていないというわけではないですので、例えば、もちろんまずは学校のほうに行かれて、欠席のほうがやはり多いということで、そこは家庭訪問するなりしてまずは対応するという形になります。その次の段階として、例えば教室のほうに入りにくいということであれば、別室での、例えば先ほど申し上げました、校内での適応指導教室という選択もございますので。ただ、学校のほうにもなかなか行きづらいという場合には、校外のほうにソレイユというのがございますので、そこは学校と保護者が連携をして、選択ということでしていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、家庭訪問もしていただいているということで、保護者と連携も取っていただいて、やはり何らかの形で学校に行けないといった子どもたちは、ぜひ支援を差し伸べて、していただきたいというふうに思います。

あと、121ページのあすなろ塾についてなんですけど、ここの塾に参加している児童・生徒数を教えていただけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

令和5年度につきましては、小学校が43名、中学生が15名となっております。

ちなみに今年度につきましては、小学生が57名、中学生が12名ということになっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

塾の内容についてなんですけども、習熟度別になっていないというような声も聞いたことがあるんですけど、どうなっているかという点について、いかがですか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

小学校につきましては、発達段階に、学年に応じて習熟的、分割等できめ細やかにさせ

ていただいております。ただ、中学生につきましては、集団個別型ということでさせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

その集団個別型というのは、どういったことなんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

中学生のお子さんが、1年生から3年生のお子さんが1つの教室で学習していただいて、そこに複数の講師が入って、例えば1人の方が授業を進めていく中で、つまづきがあった場合に、もう1人の講師の方が個別に支援するとかというような形でさせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

このあすなろを利用している児童生徒、保護者の声のアンケートというのは取っていらっしゃるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

年度末に、保護者アンケートと児童生徒アンケートというのを取らせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

生徒と保護者、それぞれアンケートを取っていただいているということでもあります。

その中で、アンケートを取っていただいて、改善点や要望に応じていくという体制についてはどうなっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

保護者の方から、あるいは児童生徒からあった意見については、もちろん事務局のほうで検討した上で、委託業者のほうにお伝えさせていただいております。

ちなみに保護者アンケートでは、学校の授業がよく分かるようになったと言っている項

目というのがございまして、そちらについては78.8%の方から肯定的な回答をいただいております。また、児童生徒のアンケートでは、基本的には予習的なもので行っておりますので、この塾に通うようになって学校の勉強がよく分かるようになったという項目に対して、92.7%の肯定的な回答もいただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。ぜひ要望に応じていただくという体制を取っていただきたいというふうに思います。

次に、135ページの留守家庭児童学級のことについてであります。

東忠岡小学校と忠小と、指導員の人数を教えてくださいたいのと、その中で有資格者数ですね、教員、幼稚園、保育教諭などという有資格者数と、それから、無資格者のうち研修を修了している人数または未修了の人数を教えてください。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

人数におきましては、忠小のほうで5名、東小学校のほうで7名となっております。

ただ、すみません、資格の件につきましては、今把握していないところがありますので、後ほどご回答させていただくような形でもよろしいでしょうか。

委員（河野隆子議員）

分かりました。後ほどで結構です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

資格、有資格、無資格というのが後ということで、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

それで現在、指定管理になって、先ほどの指導員の状況は分かりませんが、児童は希望者全員が入所できているのかということについてはいかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

今のところ希望される方、皆さん入っていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。それで、夏休みなんかは集中するのかなというふうには思うんですけども、長期休暇中に、もちろん給食はありませんので、お弁当とかを持参せなあかんということで、やっぱりそこは保護者の負担になるのかなというふうに思います。なので、夏休みに特化した、冬休みもありますけども、お昼の給食を実施するというお考えはないでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

今のところ、そういう計画はございません。特にそういった希望も聞いてはいないというふうには聞いております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

希望はないということで、もちろんそれは、保護者のほうからやってくださいという声は上げにくいというふうには思うんですけども、ぜひ、お昼の給食の実施をするということで、検討していただきたいというふうに思います。

よろしいですか、続けて。ほかあれば、一旦休憩しますけど。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ある方いらっしゃいますか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

では、そのままどうぞ。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

教育費の、126と131ページのところの、小学校費と中学校費の、それぞれ要保護及び準要保護児童就学援助費について、お聞きしたいというふうに思います。

この5年度で、就学援助を受けている児童数・生徒数と、それから受給率。それを教えてください。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

人数でよろしかったですかね。

委員（河野隆子議員）

人数と受給率ですね。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

受給率はごめんなさい、分かりません。

まず小学校費なんですけれども、準要保護者、小学校の就学予定者が準要保護者で10人、あと小学校の要保護者が19人、準要保護者が101人という形になっております。

中学校費で、要保護者数が9人、準要保護者が57人ということになっています。

すみません、受給率は今、手元に数字を持っていませんので、また後ほどご報告させていただきます。

委員長（二家本英生議員）

受給率は後ほどお願いしたいというふうに思いますが、一番初めに言っていた小学校のところで、101人というのは。これ、10人、19人、101人と控えたんですけど、もう一度、小学校のほうを教えてください。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

まず10人のほうが、小学校就学予定者に対しての支給ということがまずございまして、それが10人でございます。小学校に入られてからがですね、要保護者については19人、準要保護者が101人ということで、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そこですら、忠岡町の受給率というのを伺ったんですけど、分からないということで、府下でその受給率を出していただいて、忠岡町はどれぐらいの位置にあるのかということもお聞きしたかったんですが、それは後の返事ということになりますね。受給率が分からないので。分かりました。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

クラブ活動費やPTA会費も就学援助の対象になっているんですけども、忠岡町は出していないということでありまして、これはやっぱり対象にする考えはありませんか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

基準にのっとった形で、生活保護の1.2倍というような形でさせていただいておりますので、今の現段階では拡充ということは考えておらないという状況でございますので、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今、申したみたいに就学援助の対象になっているので、まずこれはぜひ忠岡町、出していただきたいというふうに思うんです。中学校なんかに入ったら、特にクラブ活動費というのは、お金のかかるものもあると思いますので、ぜひ考えていただきたいというふうに思います。

今おっしゃったように、生活保護基準の1.2倍程度の所得の方が対象になっているわけなんですけれども、学校を通じて申請書が配られておりますけど、何人家族は所得幾らくらいという目安の資料はつけられているということですけど、しかしホームページの申請書の説明を見ますと、対象となる世帯は総所得が基準額、生活保護基準を適用以下の世帯と書いてありますので、生活保護適用世帯以下と思って勘違いしてしまうということがあるのではないかとこのように思います。ですので、ちゃんとやっぱり1.2倍以下ということが伝わるようにしていただきたいというふうに思います。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

すみません、そちらのほうなんですけれども、ご指摘いただきましたので、今日中には変えさせていただこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひお願いします。

泉佐野市は生活保護基準の1.4倍以下に対象を拡大されています。生活保護基準が年々引き上げられている中で、本町もやっぱり対象を1.2倍ではなくて、まずは1.3倍とか、対象を拡大という考えはありませんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

生活保護基準が上がっているということで、それに対しての1.2倍というふうに考えておりますので、今のところは現状でお願いしたいなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

一昨日も言いましたけれど、やはり今、物価高騰なんかで食費とか生活費が大変になっ

ているというふうに思います。ですので、この要保護と準要保護児童の就学援助費、これはぜひ引上げをしていただきたいということは要望しておきます。ぜひ、検討はしていただけますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

物価スライドということもございますので、そちらのほうが物価が上がっていくのであれば、生活保護基準も恐らく変わってくるのかなというところもございますので、現状としてはもう、今のところ早急に動くということではないということでご理解いただきたいなというふうに考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ引上げの検討をお願いしたいというふうに思います。

それから、小・中学校の学校給食費についてですけど、これは127ページと132ページ、さっき、すみません、私、席を外したんで、ダブるかもしれません。すみません。

というところで、令和5年度のコロナや物価高騰の給付金。これを活用して給食費の無償化は半年間、10月から3月までしはったのかな、半年間しはったということなんですけど、この学校給食の無償化については、必要な予算額というのは幾らでしょうか。これは出していらっしゃると思うんですけど、小・中学校の学校給食の無償化、したらどれぐらいの予算が要りますか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

一般質問でも同様のご質問が出たかと思います。そのときにお答えさせていただいたのが、約6,500万程度ということでお答えさせていただいたかと思いますので、よろしくお願いたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

6,500万円、この金額ということで、無償化する考えはないですか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

1日目の答弁にもさせていただいたかと思うんですけども、いろいろな忠岡町の施策

がございます。その中で、そういったものが一番、中で選ばれるのであれば、それはそれでいいのかなとは思うんですけども、あくまで全体を見据えた上での判断なのかなと思いますので、給食費のみということで、今のところは考えていないというところでご理解いただきたいというふうに考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

歳入のところも、説明もいろいろありまして、基金がかなり積んできたというところで、数億円以上積み立てているということなんで、この6,500万円の金額、これを捻出するのがしんどいというわけではないというふうに思うんです。ですので、やはり無償化はできるのではないかというふうに思います。

これについては、町長より答弁いただきます。

委員長（二家本英生議員）

杉原町長。

町長（杉原健士町長）

いろいろ優先順位もありますし、それ以外のサービスの方法とか、出したら出したで、通年のようにずっとずっと、それは出していかなあきませんので、簡単に今、部長が言っていますように、年6,500万円やったら10年たったら6億5,000万ということになってきますので、その辺は慎重に考えながら、またそれ以外のできるサービスがあればまた、当然若者世代というんですか、定住促進を図るためにはいろんな施策を考えなあかんのですけれども、優先順位の中では今、今この現時点ではというところでは、控えさせていただきたいということでございます。以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

優先順位と言えば、高いというふうに思います。

10年だったら6億5,000万という金額をおっしゃいましたけど、やっぱり毎年、3億、4億と基金を積み立ててきているので、何も忠岡町が逼迫するというような金額ではないと思いますので、ぜひ検討をお願いしたいというふうに思います。

あとはもう3点ほど、町民運動場と公民館と図書館費があるんですけど、もしあれでしたら、一旦。いいですか、ほかございませんか。

委員長（二家本英生議員）

もう続けてどうぞ。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

なら言います。町民運動場これについて、136ページ、ここで質問します。

この総事業費、これは一体幾らになったのかというところをお答え願いたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

2億1,933万4,500円となっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

改修もしていただいたところではありますが、やはり長雨が続きと水たまりができるというふうに、住民の声もあります。

これ、この事業費は使っていただいて、仕様どおりの想定になっているのかというところをお聞きします。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

実際、水はけがどれくらいよくなったとか、数値的には難しいところはあるんですが、我々、今までの肌感覚で見ていると、かなり水はけはよくなっているというふうになっていまして、各種団体さんも、生涯学習課でいろいろお話しさせてもらったりするんですけども、運動場の水はけはもうかなりよくなったという声は、たくさんいただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

前に比べると随分よくなったというところは、私も感じているところなんですけど、やはり長雨が続きとやっぱり水たまりができるというところで、改修したのに何でやという住民の声も。なので、そういった住民の声も、あるいは聞き取りぐらいはしていただきたいというふうに思います。

それから、町民グラウンドのトイレ。これは、夜間・早朝は閉まっているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

夜間とかは閉まっております。運動場を使用されているときには開いていますけれども。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

夜間、閉めていらっしゃるということで、早朝というところも閉まっているのかな、早朝は何時から開けはるんですか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

グラウンドのご使用をされていない場合は閉めております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしたら、グラウンドが使っていないときは、もうこのトイレはずっと閉めているといった状態なんですね。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

そのとおりでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。夜間開けていて、いたずらされるというところもあるんでしょうけど、早朝なんかは結構、高齢者の人、よく散歩していらっしゃるの、朝ぐらいならそんなにいたずらということの心配はないと思いますので、朝は、早朝、開けていただいたらなというふうに思いますので、これは希望しておきます。

委員長（二家本英生議員）

杉原町長。

町長（杉原健士町長）

グラウンドのことですけれど、それは河野委員、長雨が降ったらいかに100年たっている甲子園球場でも、それは使用できません。雨の量、そんな長雨降って、水たまりができへんようなグラウンドというのは、それはいかがなものかなと思いますけどね。私らが上から見てる間は、かなりの水はけよく、前なんかやったら雨が降った次の日は、中学生、グラウンドを使っていませんでしたけど、雨降った次の日は、今、クラブをやってま

すよ、事実。やっている最中に水たまりも消えています。

それは長雨降って、水たまりありますと言われても、それはいかがなものかなと思うんですけど。それはお願いします。もうそれ以上や言うたらもう、屋根つけなしゃあないですよね。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

お金もかけていただいたんで、それはそんな、台風が来て大雨降ったときはというふうには言っていないんです。ですので、せっかくグラウンド改修をしていただきましたので、これは住民の要求もあったということで、そこはやっぱり喜ばれているところなので、引き続きそういったことがあれば、検証ぐらいはしていただきたいというふうに要望しておきます。

次、委員長いいですか、もう続けて。

委員長（二家本英生議員）

どうぞ。

委員（河野隆子議員）

137ページの社会教育課のところの、公民館費のところでお伺いします。

働く婦人の家が廃止されて、なくなりました。大阪府の一覧表では、男女共同参画関連施設として、本町は文化会館というふうに回答を報告しています。他市町では単独の施設となっていて、男女共同参画施策として、女性のエンパワーメントのための利用ができるようになっています。

本町は、文化会館としての利用施設の中の、どこが男女共同参画施設としての利用がされているのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

今現在は、そういういろんな垣根と言うんですか、そういうものはございませんので、誰もがいろんな部屋を使っていただくという形で運営をさせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

では教育委員会のほうに聞きます。

かつて働く婦人の家を廃止するとき、教育委員会が廃止の音頭を取ったというふうに思っています。それで廃止してしまったと、そういった経緯があるわけなんですけど、男女がともに参加利用すると言って、今、垣根がないようにというお答えもありましたけれ

ども、女性への配慮を全く無視して、あるいは女性施策を敵視する行為であったと、そう言えると思います。人権感覚のない廃止の仕方であったというふうに思いますよ。

でね、男女の格差はもう社会からなくなった、ということで廃止をしてしまったのかということは、教育委員会のほうで答弁をお願いしたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

今の状態で、ほかの市町村が働く婦人の家というものが存在しているかどうかという問題もあろうかと思っています。そういったものが、担当課長のほうも、垣根のないというお話をされてますので、全体として文化会館そのものが、そういったご利用をさせていただいたらいいのかなというふうに思っておりますし、何よりも働く婦人の家という名称がなくなったから、そのスペースがなくなったというふうには考えておりませんので、今、議員おっしゃられたような、そういうようなニュアンスの受け止め方というのは現状していないというところがございますので、そこは我々、お答えしづらいところなのかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

先ほども言いましたけども、府下では男女共同参画関連の施設というのがあって、お答えの中では文化会館でいろいろ使ってもらおうということでありましたけど、やはりこの働く婦人の家がなくなったということで、いろんな障害が出てきているというふうに思います。

やっぱり認識、なぜ働く婦人の家があったのかというところで、いろいろと認識の足りない人たちが勝手に廃止を決めたとしたら、この損害に対して手当てを取るといふ、忠岡町の責任があるというふうに思うんです。

女性が利用しやすい男女共同参画施設にする責任が、教育委員会にはあるというふうに思いますけど、いかがですか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

今ご指摘の、女性がご利用しやすいというお話があったんですけども、我々、別に男性やから、女性やからということは何らかの区別をして、貸出しを行っているとか、行っていないとか、そういったことをもう考えておりませんので、ご指摘されている事実がどういうことをおっしゃられているのかが、把握できていないというような状況でございます。議員さんそのものが、何をどういうふうな状態で、我々がそういうような人権侵害

的なものをされているのかというのが、申し訳ないんですけども、ここら辺の認識が我々のほうが少ないのか、そこは分からないんですけども、そこはそういうつもりで業務を行っているわけではないというところでは、少なくともご理解いただきたいかなというところがございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

何も女性に特化したものでも、働く婦人の家で、男性も借りたらいいというふうに思うんですよ。ですので、男性も女性も借りれる施設として、例えばこの働く婦人の家があった場合、いろんなグループで女性施策を話し合うとか、そういったところで無料で借りれたところが有料になったという弊害もあります。

一つ、文化会館が他市に比べて利用料が高いということはご指摘させていただきました。これはこの前の議会で一般質問しましたから、教育部長も記憶にまだ新しいところにあるというふうに思うんです。だから、文化会館のところをやっぱり利用料が高いというところで、もう使い勝手が悪いと。1時間500円で、クーラーをつけたら700円でしたっけ、取られるんで、2時間借りたらもう1,400円ですわ。というところで、やはり文化会館の利用料というのもぜひ、婦人の家を廃止してしまったんですから、文化会館の利用料、こういうのも検討していただきたい。料金を下げるといったところはいかがですか。

委員長（二家本英生議員）

村田部長。

教育部（村田健次部長兼教育総務課長）

一般質問のほうでも、高い安いの議論もあったのかとは思いますが、我々、全額減免しているというような状態のクラブさんも多々ございます。それをトータルバランス的に見て、高い、安いというような議論を精査していかないといけないのかなというところは感じておるところです。

よそさんと比べて、全額減免しているというものではないような部分もございますので、議員さんご指摘いただいておりますので、もしそういうことであれば、やはりそういったものを全てある程度は勘案していかないと、一部分だけを見て高い安い、もう本当に有料化している部分というのは、今の文化会館としては少ない部分もございまして、そこら辺のことをトータルバランス的に物事を考えて、そういった運営委員会等でご議論いただいたらいいのかなというふうには、私、現状思っておりますので、もうしばらく時間をいただけたらなというふうに考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ文化会館の利用料については、検討していただきたいと要望しておきます。

あと、139ページの図書館費。ここで、図書館に図書司書はいてますけど、非正規の職員ですね。正職員化すべきであるというふうに我が党は求めてきたわけなんですけど、正職員を配置するというお考えはないのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

今現状のところ、予定はないということですのでよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やはり、図書司書という役割というのは非常に大事だというふうに思いますので、正職員化ということは、ぜひ検討していただきたいと思います。

あと、140ページの図書の購入費のところなんですけど、355万7,000円出ています。これは財政健全化策で、半額に削減されたままになっています。なので、やっぱり借りたい本がこの忠岡町の図書館にないということで、他市からも借りれるということは分かっていますけれども、やはり取り寄せて、後日、日にちがかかるということで、やっぱり財政健全化策はもう終わりましたので、この図書の購入費、昔は800万ぐらいあったというふうに聞いていますので、ぜひこの図書の購入費は増やしていただいて、新しい本も購入していただくと、そういったことが要るというふうに思いますが、いかがですか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

例年、大体同じような額で推移しているんですが、そこは800万となるとかなりの差異がございますので、その辺はまたどういう図書を購入するのか、実際に絶対数がどれぐらい要るのかということも勘案しながら、考えてはいきたいというふうには考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、図書館費を増やしていただいて、多くの住民が、やっぱり読みたいという本があったらすぐ購入していただいて、そういったところでぜひ検討していただきたいということは申し伝えておきます。

もう最後です。公債費、お伺いしたいというふうに思います。

さっきの説明があったわけなんですけど、この頂いている資料の4のところ、これを見たらいいのかな、公債費が載っているんですけども、この中で借金の返済、これでやっぱり一番大変な、大きなものというのほどこなんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

資料の4ページのほうを見ていただきましたら、臨時財政対策債のほう、年間支払っている額が一番大きいというところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この臨時財政対策債というのは、後で交付税算入をされますよね。違いましたか。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

100%算入されます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

というところで、実質これを見ると、しんどいのは第三セクターの三セク債、ここの部分が大きいのではないかなというふうに思うんです。これは東洋紡の跡地の分であって、いこいの広場とか含まれていると思うんですけど、これの対象の土地というのは、コベルコとかいろいろありますけど、あそこ全部なんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

今の町民いこいの広場とコベルコの部分でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。それで、いろいろと条件があったんでしょうね。開発公社ではなくて、これ開発協会で塩漬けの土地であったというところで、ここの財政措置というのは元金の分は入らなくて、もう利息の部分だけが入るのか、それはどれぐらいの割合で入ってくるのかというところを聞きたいです。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

利息部分について、特別交付税において年間利子支払い額の30%程度、措置されています。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

半分かなというふうに思っていたんだけど、30%程度しか財政措置がないということが分かりました。

それで、いこいの広場というところは広場ですから、収入というのはないわけなんですけど、コベルコさんのほうに貸しているところ、あそこの土地もそうだとということで、私の昔の記憶だと、コベルコに貸している土地の賃貸というのは、たしか月100万円やったと思うんですけど、今はお幾らになっているんですか。たしか10年ごとの更新やったと思うんで。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

すみません、そちらのほうは、総務課のほうでないとお答えできないので。今はお答えできません。

委員（河野隆子議員）

分かりました。総務やったらもう、総括のところでお伺いするしかないのかな。総務やからそうなんやね。

委員長（二家本英生議員）

岩佐課長。

経営戦略課（岩佐式人課長）

すみません、公室長のほうが資料を持ってございましたので、コベルコのほうが月額170万円ということでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ありがとうございます。そうしたら、170万円ということは、計算機を持っていないけど、年間にすると2,000万ぐらいになるのかな、ざっとね。

ということは、この利息の分は土地の貸しているお金で、それは賄えるというところではありますが、コベルコさんのところは10年ごとの契約ということで、次はいつの更新な

んですか。

これもあれか。すみません、公室長、分かります。

委員長（二家本英生議員）

公室長。

町長公室（立花武彦公室長）

令和8年5月31日でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

令和8年というたらもうじきですね。ですので、この月170万円、あの広さの土地で、高いのかと言うたら高いこともないというふうに思いますので、ぜひこの令和8年、更新時には金額の交渉というのもしていただきたいというふうに思います。これは公室長、お答え願えますか。

委員長（二家本英生議員）

立花公室長。

町長公室（立花武彦公室長）

今後の活用については、また町長とも相談しながら考えていきたいというふうに思っております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

お願いします。

終わります。

委員長（二家本英生議員）

よろしいですか。ほかにご質疑はありませんか。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、教育部の認識を一つお伺いしたいんです。ここの町民グラウンドの件で、今、春日課長からご答弁あったところなんですけれども、グラウンド貸出時以外はトイレを閉めていますというご答弁があったと思うんですが、ここはそもそも都市公園ですよ。教育は表面管理しているだけなんです。トイレの改修についても緊防災、土壌の改修についても、文科省からお金が出たわけでもない。グラウンドの貸出時以外は閉めていますと。

これね、落書きとかいたずらが原因で、夜中閉めていますというならいいんですけれども、どういった認識で、その認識で閉めていられるんですか。私、村田部長には水道の蛇口

の件でも、春日さんのところでもう水道の蛇口を全部取っていったと。水を出しっ放しにされるからと。あほなこと言うな、都市公園やぞと言うて、1個改善していただいたんですけども、認識だけは。どういう認識でそういうことをやってはるのかということ、もう一遍確認をしたいんです。

今の答弁でしたら、もうほんまに忠中のグラウンドで、中学校で使っていないとき、それ以外は閉めてますねん、普通ですねんみたいな感じなんですけど、その認識で今もやっ
ていらっしゃるんですか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

今、議員言われた落書きとか、あと何か障害のものを詰めるとか、そういういたずらというのが過去のトイレもよくあったと聞いておりまして、今の段階でもそういったものをできるだけ防ぎたいというふうな形で、そういうような形を取らせていただいているんです。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

了解。ほなすみません、都市公園やという認識はあるんですよね。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

それはあります。

委員（松井匡仁議員）

分かりました、ありがとう。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

すみません、1点だけ。140ページの、図書館費の図書購入費のところなんですけど、住民の方々からの図書のこの300万ぐらいなんですけど、いろんな新しい本があっ
ていいとおっしゃってもらっているんですか、この図書の購入は、どのような間隔で購入
されて、どのように選ばれて、置ける場所は限られている中で、もう要らなくなった本を
どのようにされているのかを教えてください。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

先ほどもお話あったんですけれども、図書館におられる司書の方が本を選別して、減らす本、また増やす本というのは選別はさせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

増えた分はどこに持っていかれるんですか。よく図書館の前に置いていらっしゃるように、誰かに頂いてもらう形を取っているのか、その加減はどんな感じでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

春日課長。

生涯学習課（春日正人課長）

現在のところ、入れ替えた分については、倉庫のほうに今は保管しております。

委員長（二家本英生議員）

今奈良副委員長。

副委員長（今奈良幸子議員）

ちゃんと倉庫に置いていらっしゃるので、また随時借りたいとなったら、捨てることなく置いていただけているということですね。

分かりました。住民の方に聞かれたので。

以上です、ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

私のほうから質疑がありますので、進行を今奈良副委員長に交代いたします。

（進行を今奈良副委員長と交代）

副委員長（今奈良幸子議員）

それでは、進行を交代させていただきます。二家本委員長、質疑をお願いします。

委員長（二家本英生議員）

119ページですけれども、昨今、教員の働き方改革ということで様々な施策が取られているんですけど、やっぱり教員がなかなか、今、負担が大きくなっていて、やっぱり先ほども小島委員から質問があったとおり、スクールカウンセラーとかソーシャルワーカーとかを利用して、相談件数も多くなっているという話も伺っています。

その中で、やっぱり小学校は小学校のなりの悩みがあって、中学校は中学校のなりの悩みがあります。特に中学校の場合は、クラブ活動も見られている顧問の方も多いというのを

伺っています。その中で、やっぱりそういった働き方、やっぱり先生が負担にならないような形で、スクールカウンセラーとかソーシャルワーカーさんの相談があるとは思いますが、すけども、その中で、以前議会でも話があったと思うんですけども、クラブ活動の外部講師、こちらについての導入についてというのはいかがでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

部活動につきましては、やはり中学校の先生の負担等もございますので、決算でも上がっていますが、いわゆる社会人活用というのがございまして、今年度も部によっては地域の方、保護者の方とか、あるいは大学生とか、そういう方に来ていただいて、いわゆる外部講師という形では活用させていただいているところでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そうやって、できるだけ教員の負担を減らしていただきたいというのと、あと、やっぱりそういった状態になったときにいち早く相談できる体制、発見できる体制というのが、教員の長期欠勤につながらない予防策になると思うんです。

その中で、予算書の中で教職員のストレスチェックが入っているところがあったと思うんです、さっき見たんですけども、142ページですね。学校保健費の中で、教職員のストレスチェックのシステム委託料とあるんですけども、これの活用というのはいかかされているのでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

石本理事。

教育部（石本秀樹理事兼学校教育課長）

こちらにつきましては、業者のほうに委託しまして、年2回、実施のほうをさせていただいているところです。もちろん情報等によっては、やはり負担のある教職員等については、その後、こちらのほうでも対応というのはもちろん必要ですので、そこはもちろん情報のほうは共有しているところでございます。

もちろん、議員おっしゃってくださったように、相談体制というのは、管理職がまず定期的に面談等も行いながら、何か気がつくことがあれば事務局とも、もちろん情報共有をして対応させていただいているところでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

できるだけやっぱり早期発見して、やはり先生が休むとなったら子どもたちが不安がる

ということもありますので、できるだけ早いチェック体制を取っていただいて、教員とかの長期欠勤につながらないような形で対応していただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

質疑は以上です。

副委員長（今奈良幸子議員）

では、交代させていただきます。

（進行を二家本委員長に戻る）

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

以上をもちまして、一般会計の決算の審査を終結いたします。

委員長（二家本英生議員）

続いて、各特別会計決算の審査に入りますが、質疑につきましては、担当課より提出の資料説明後にお受けいたします。

まず、149ページから166ページの国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算について、担当課より提出資料の説明を求めます。少々お待ちください。

（国民健康保険事業勘定特別会計 担当課説明）

それでは、令和5年度国民健康保険事業勘定特別会計決算についてご説明をさせていただきます。

こちらの資料のほうで説明をさせていただきます。まず、資料の1ページをご覧ください。

（1）決算規模につきましては、歳入18億854万8,000円、歳出18億111万7,000円となり、前年度と比べまして、歳入は1,044万8,000円、0.6%の増、歳出は933万9,000円、0.5%の増となりました。

（2）決算収支につきましては、歳入歳出の差引き額は743万1,000円の黒字となりました。

4ページをご覧ください。国保の会計の決算状況でございます。令和5年度の決算額の欄をご覧ください。

単年度収支を見ますと、歳入では国庫支出金、繰入金が増となり、国民健康保険料、使用料及び手数料、府支出金、繰越金、諸収入が減となりました。歳出では、総務費、国民健康保険事業費納付金、保健事業費が増となり、保険給付費、基金積立金、諸支出金が減となりました。

それでは、歳入から説明をさせていただきます。

1 ページに戻っていただきまして、(3) の歳入の概要をお願いいたします。

①の国民健康保険料の令和5年度の決算額は3億2,259万2,000円で、昨年度と比べて198万3,000円、0.6%の減となりました。これは被保険者数や被保険者の所得の減に伴うものでございます。歳入に占める割合は17.8%となっております。

2 ページをお願いいたします。②の使用料及び手数料の決算額は18万8,000円で、前年度と比べ、6,000円の減となりました。これは督促手数料でございます。

③の国庫支出金の決算額は6万8,000円で、前年度と比べて4万9,000円の増となりました。これは出産育児一時金が引き上げられたことによる補助金の増でございます。

④の府支出金の決算額は12億3,509万3,000円で、前年度と比べ、3,875万円の減となりました。これは主に歳出の保険給付費の減によるものでございます。

⑤の財産収入の決算額は1,000円で、これは国民健康保険事業財政調整基金の利子でございます。

⑥繰入金の決算額は2億4,309万5,000円で、前年度と比べ、6,044万4,000円の増となりました。これは、一般会計繰入金、国保の正規職員の人件費を持つようになったための増によるものや、収支不足を補うために国民健康保険事業財政調整基金を取り崩したことによるものでございます。

⑦の繰越金の決算額は632万2,000円で、前年度と比べ、344万6,000円の減となりました。これは、令和4年度が黒字決算になったことによる令和5年度への繰越金でございます。

⑧諸収入の決算額は118万9,000円で、前年度と比べ、586万円の減となりました。これは主に第三者納付金の減によるものです。

以上、歳入総額は18億854万8,000円となります。

次に、歳出の概要をご説明申し上げます。

①総務費の令和5年度決算額は3,840万円で、2,430万1,000円の増となりました。これは、国保担当の正規職員の人件費を特別会計で持つことになったことによるものでございます。

3 ページをお願いいたします。②保険給付費の決算額は12億497万円で、前年度と比べて2,806万7,000円、2.3%の減となりました。これは主に療養給付費の減によるものです。歳出に占める割合は66.9%でございます。

③国民健康保険事業費納付金の決算額は5億2,526万9,000円で、前年度に比べ、991万8,000円、1.9%の増となりました。これは歳入の国民健康保険料や繰入金の一部を大阪府に納付したものでございます。

④共同事業拠出金の決算額は1,000円で、これは、年金受給者一覧表作成に係る事務拠出金でございます。

⑤保健事業費の決算額は2,560万2,000円で、前年度に比べ731万8,000円の増となりました。これは主にデータヘルス計画策定支援業務に要した費用となっております。

⑥基金積立金の決算額は378万9,000円で、前年度と比べて336万7,000円の減となりました。この基金は、国民健康保険事業費納付金の不足額への充当など、国民健康保険事業の財政需要に充てるために設置しているものでございます。

⑦公債費の決算額は1,000円で、前年度と同額となりました。これは基金からの一時借入れに係る利子でございます。

⑧諸支出金の決算額は308万5,000円で、前年度と比べ76万4,000円の減となりました。これは主に国庫支出金、府支出金の精算返還金でございます。

以上、歳出総額は18億111万7,000円となります。

5ページをお願いいたします。5ページは歳入歳出決算額の構成比でございますので、後ほどご高覧ください。

次に、6ページをご覧ください。こちら上段でございますが、被保険者の加入状況となっております。年度の平均値でございますが、令和5年度の国民健康保険の世帯数は2,124世帯で、前年度と比べまして83世帯の減となっております。国民健康保険の被保険者数は3,214人で、前年度と比べまして174人の減となっております。

次に、収納の状況でございますが、年度別被保険者区分別の一覧表となっております。令和5年度の現年分でございますけれども、一般被保険者が93.95%、全被保険者で93.95%となり、現年分に滞納分も含めた全体では88.49%となりました。

本町の収納業務につきましては、コンビニ収納も行っていることに加え、令和3年度からスマホアプリやバーコードで読み取り、収納処理をするスマホ収納を開始し、コンビニや銀行まで行かなくても、被保険者の方がご自宅で納付できる環境を整備することができております。

一番下の段のすぐ上のところでございますが、令和4年度の大阪府の平均の市町村の収納率を参考に示させていただいております。

なお、収納業務につきましては、今年度、令和6年度より税務会計課が担当することになりました。保険課としましては、税務会計課と連携をし、収納対策を続けてまいります。また、口座振替率を上げる対策等を行い、預金調査や転居先調査も行い、さらなる収納率の向上に取り組んでまいります。

次に、7ページをご覧ください。1人当たりの診療諸費の推移でございます。こちら、10割分ということになってございます。一番下の行の、令和5年度の右端のほうをご覧ください。令和5年度の全被保険者1人当たりにかかる医療費は43万4,427円、対

前年で4.62%の増となっております。令和2年度からの4年間を見ると、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴う受診控えと患者減少を要因としまして大幅に減少しましたが、令和3年度以降は回復傾向となっております。

説明は、以上でございます。どうぞご審議のほどよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、2点質問させていただきます。

164ページ、健康啓発事業について、お伺いをいたします。

これ92ページの保健センター費の健康診査事業と兼ねているんですけども、健診の受診率を高めていかないといけないという中で、健康診断における診断内容のチェック項目の多角化を進めることは、受診意欲への働きかけの有効な材料になると考えております。

それにつきましては、それには機器の入れ替えや最新機器の購入を進める必要があるとありますが、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

特定検診や各種がん検診につきましては、集団健診においては、保健センターにて委託事業者、個別健診においては、各医療機関にて実施をしていただいております。各機関それぞれの計測機器が使用されています。

ただ、乳幼児健診につきましては、本町備品の身長計ですとか、体重計などを使用しています。

本町で実施する健康事業や保健事業で使用する備品の整備は、劣化に伴う更新はもちろんのこと、事業の充実や拡充のためには、一定の取り揃えも必要であると考えております。

なお、特定検診の財源は国保会計、その他の健診は一般会計であるため、備品の新規購入に係る財源の確保につきましては、その部品の目的ごとに優先順位をつけて、各財政部局と協議してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございます。計画的に予算をつけて、更新なんかをしていく必要があると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もう1点、令和6年度予算審議にて、健康診断受診をすることによるインセンティブについて、他の自治体を見て検討するとの回答がありましたが、来年度に向けてはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

健診受診に関するインセンティブにつきましては、他市町村においては、財源の確保状況により、実施、未実施はあるかと考えますが、本町といたしましては、令和6年度は健康づくり課に保健事業が集約されたことによりまして、まずは集団健診におけるインセンティブとして、官民連携の手法を基に、何かできないかという検討をいたしました。

しかしながら、5月から集団健診が始まることや相手企業とのタイミングが合わない等の課題も見えてきたことによりまして、現在のところ実現には至っておりませんが、官民連携の視点も含めたインセンティブにつきましては、引き続き令和7年度に向けて、経営戦略課とともに進めてまいりたいと考えております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

ありがとうございました。ぜひよろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

すみません、164ページに健幸祭りのことが載っているんですけども、健康祭りに住民ってどれぐらい参加されているのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

泉課長。

健康づくり課（泉 亜希課長）

令和5年度につきましては、ご覧いただいているかもしれませんが、健康啓発ブースというものを令和5年は9月20日の水曜日から22日の金曜日までということで、最終日だけお昼まででさせていただいたんですけども、9時30分から午後5時までという形で実施いたしました。

本町に手続に来られた方ですとか、あとはジムのほうにね、参加された方の行き道とか

帰り道とか、広く声かけをさせていただきまして、対象者は特に絞らず、町内、町外の方に対して、健診の重要性をお伝えさせていただいたりですとか、あとその場では血管年齢を計る計測をしたりですとか、脳年齢を計れるこう画面を触りながら、楽しんでご自身の体のチェックをしていただけるようなものを設置いたしまして、参加者は239名でございました。

もう1点、講演会ということで、今度は9月23日の土曜日に午後から実施したものになるんですけども、管理薬剤師にご講演をいただきました。第1部といたしましては、薬剤師が教えるフレイル予防対策、第2部としましては、理学療法士にお越しいただきまして、簡単な運動でかなえる元気アップ術ということで、2つ講演をいただきました。

その終了後には、体重、握力測定なども実施しまして、こちらのほうはどなたでも参加できるという形で体制整えておりました。参加者は21名でございました。

以上が令和5年度の健幸祭りを実施したものになっております。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。

今日、何か下でやっていたのは、また別の何か。あれが、あれ、これ。

委員長（二家本英生議員）

あれは献血。

委員（小島みゆき議員）

また違う。

委員長（二家本英生議員）

献血です。

委員（小島みゆき議員）

献血ですか。

委員長（二家本英生議員）

はい。

委員（小島みゆき議員）

何か通ってこなかった、違うほうから入ってきたので、何か置いてあるなというのがあったので、時期的に同じぐらいなのかなと思ってしまいました。すみません。

あと、その下にデータヘルス計画策定支援業務委託料というのがあるんですが、これもこう先ほど資料で読んでいただいて、金額が増になったっていうことだったんですが、これどういことをされているのか、教えていただきたいんですけど。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

データヘルス計画の件でございますが、こちらは健康や医療の情報を活用して、P D C Aサイクルに沿った効果的な、かつ効率的に健康、保健事業実施を図っていくための実施計画となっております。

この計画に基づいた健診結果を用いまして、これからの保健事業をどういうふうに忠岡町として進めていくかということを経済にわたって検討していくための材料というような位置づけのものとなっております。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。これはそしたらまた違うかもしれないんですけど、やっぱり高齢者の方の分とか、そういうことも全部ひっくるめた分になるんですよね。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

あくまでこれ国民健康保険の被保険者ということになりますので、年齢で言いますと、75歳までの方のそういった傾向、そういったものを分析をすることになってきますので、75歳までの社会保険に加入されている方であったりとか、75歳以上の後期高齢に該当するような方につきましては、またそれはこことはまた違うところになってきます。これはあくまで健康保険の被保険者に対する部分だということになりますので、よろしくお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

小島委員。

委員（小島みゆき議員）

ありがとうございます。よく分かりました。すみません、ありがとうございました。終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この令和5年度の保険料についてなんですけど、前年度ね、令和4年度より値上がりをしたということですが、実際これは国保の都道府県化がされて、忠岡町はもうさっさとね、府の統一保険料を適用して、大変な保険料の値上げになったということになります。

令和元年、統一保険料になって2年目でありましたけど、そのときの資料を見ると、所得200万円で40歳代の夫婦、子供2人、4人世帯の、よく言われるこれモデル世帯、これで保険料が41万2,400円。令和5年度は44万100円と。5年前と比較すると、2万7,700円の値上げになっているんです。

国保料は、これを見ても分かるように、所得のね、22%を占めているということで、かなり生活を圧迫しているということで、耐えがたい負担であると思います。

滞納世帯もあつたり、短期保険証であつたりとか、資格証明書ね、そういった方もいらっしやると思うんですけど、どれぐらいの世帯の方がいらっしやるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

滞納の世帯数でございますが、令和5年度末で112世帯、割合で言いますと、約5.4%となっております。

次に、短期証の発行世帯でございますが、同じく令和5年度末現在、93世帯、約4.5%となっております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今、短期保険証が93世帯ということで、おっしゃられましたけど、この発行の比率は府下で忠岡町はトップクラスだというふうに思うんですけど、そうですね。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

すみません、そのあたり、最新の府下の比較のデータ持っていないんですが、トップクラスかどうかというのは、もうそこはちょっと分からないんですけども、ただ短期証の世帯の方、もちろんやみくもにね、短期証にするというわけではございません。やはり負担していただくのが大前提ですので、一定のルール上、やむを得ない場合もございますが、やはり納めていただくということを前提に、こちらも交渉するための1つの手段として、短期証というものを活用しているようでございます。

これによりまして、それなりの収納の確保につながっているというふうには、我々のほうは認識してございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

忠岡町は府下でもトップクラスということは言わせといてもらいます。

先ほども言うたように、22%ね、所得の22%が占めていることということで、もう払うのに払えないという高い保険料、これが払えないで滞納すると、もう保険証送って来てくれないといった状態で、窓口からね、短期保険証なら3カ月に一遍取りに行かないともられないといった状況であります。

国保会計はね、ずっと黒字続きで、国保基金7,000万円超えています。

この基金を活用してね、国保料引き下げるというお考えはございませんか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

考えはもうございません。あくまで基金は財政調整にかかる分ということのために利用するというので、きちっと条例のほう、うたっている状況の中での利用に努めるというものでございますので、この点ご理解お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この黒字になったというのは、やっぱり住民の皆さんの国保ね、高い国保料金集めて、それでこの基金がたまってきているということなのに、大変なこの今、年々上がってきている国保料にこの基金は使えませんか。それはほんまに非情なことじゃないかなというふうに思うんです。この基金っていうのは、そもそも何でたまってきているんですか。住民の保険料で取ったお金でこれ、余ったお金がこう基金というふうになっているんでしょう。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

これは平成30年度の国保都道府県化の際に、国のほうからの国保財政を強化するという意味合いで、約3,400億円の追加公費が投入されております。その中で保険者として、健康づくりであったりとか、我々、保険者、何も保険料を取るだけではなく、いかに医療費を抑制するかといった、そういった取組も保険者としてやっていかなきゃいけないというふうな部分ございますので、そういった取組を一生懸命やった分に対して、インセンティブというものがもらえるという部分がございます。忠岡町も当時から腎重症化要望であったりとか、そういう特定検診の受診率向上とか、そういった事業に毎年そういうような尽力を尽くしてきておりますので、そういった評価の部分で獲得した部分が基金の財源になったということになっております。

なお、保険料につきましては、毎年徴収した分の保険料は、もうほぼほぼ全てそのまま大阪府のほうに事業費納付金の財源としまして、忠岡町にはもう残らず、大阪府のほう

に、もう納付をしているということになってございますので、決して保険料を取り過ぎた分が残っているというものではございません。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

たまった理由っていうのを今おっしゃいましたけど、やはり基金があるんですから、高い国保料金の引き下げ、払える料金にせんと、大変なことに、生活これ圧迫していると思いますよ。

ですので、この基金7,000万円超えているわけなんですから、使うべきだと。引き下げに使うべきだというふうなことは言うておきます。

能勢町なんかはね、基金を活用して、毎年、加入者1人当たり1万円のね、健康づくり給付金ということで出しています。

そやから、忠岡町でも、この基金、いつもね、府にお金が足らへんのやったら府に払う納付金に使うしかないから、これは使わんっていうふうにおっしゃってるけども、能勢町でやっているんですからね、忠岡町でも実施はできるというふうに思いますので、考え方の問題ね。そこで実施する考えはないかと、もう一遍答弁お願いします。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

保険料率につきましては、ご存じやと思うんですけども、もうこの令和6年度から、もう大阪府、もう統一保険料ということで、これまで平成30年度から6年間の暫定期間を終えて、完全統一したということになってございます。

その中で、大阪府の一定のルールのもと、基金の使用法につきましても、ルールづくりがございます。

確かに、これまでであれば、基金を活用して、保険料を下げたという団体もあろうかと思うんですけども、忠岡町は、やはりこの基金というものは、やはり財政需要の調整のために活用しなければいけないというのがもう大前提、大原則でございますので、これ、やみくもにこれを使ってしまうということ自体が今後のリスクに備える蓄えを失ってしまうということですので、将来にわたっての、もちろんこういう悪影響に及ぼすような部分でございますし、そもそも大阪府で1つの国保という、そういった運営の面でも、例外的なことは、もう今後一切できないというようになってございますので、ここはもう保険料の料率の面に関しましては、これは毎年言っていることではございますが、引き続きね、大阪府や国に対して、要望はきちんと挙げていくということで、我々も対処をしていきますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

能勢町でしていますので、忠岡町ではできないというふうに思いますので、基金を取り崩して保険料を引き下げるということは、検討していただきたい、やっていただきたいというふうに思います。

次に、これは資料のほうで、2ページのところやね、2ページのところで、繰入金のところね、書いてあるんですけど、これについて、お尋ねします。

ここに国保の基金を取り崩したと書いてあるんですけども、詳しい理由を説明してください。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

事業費納付金、歳出で言うところの事業費納付金がございます。令和5年度決算額で申し上げますと、4ページのところに、国民健康保険事業費納付金ということで、5億2,526万9,000円の金額を掲げさせております。

この事業費納付金を納めるための原資となるものが、上段の歳入で言いますところの国民健康保険料であったり、一部は府からの支出金であったりとか、この繰入金、これも低所得者に係る保険料の軽減に係る分の公費負担の分であったりとか、あと財政調整基金の国保の運用に賄う分であったりとか、そういったものが原資というふうになってございます。

実際、この決算の状況では、はっきりとした金額は出てはいないんですが、この事業費納付金を約5億2,500万円に対しまして、歳入で確保できた分が約5億円しか今年度は確保ができておりませんので、残りの2,500万円が不足ということになります。この不足の分は、これは基金を取り崩して、事業費納付金の原資の一部に充てたという形になってございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

2,500万円ね、足らへんかったということで、収支不足を賄うために国保基金を取り崩したということでありまして、どうして収支不足になったのかということとは。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

まず、この事業費納付金は令和5年度の予算を編成する際に、これは大阪府のほうから

の数字が各市町村に示されるんですが、そのときに、これも1年先の推計値ということにはなるんですが、令和5年度は忠岡町の場合、被保険者数がどんだけ上下するであつたりとか、あと忠岡町の国保の被保険者の所得がどれぐらい伸びるのかといったような、いろんな試算を行います。その試算に基づきまして、この金額が決定されます。

その際に、やはりあくまで将来見込みの推計値でございますのでね、実際、被保険者の数が大幅に下振れをしたりとか、あと見込みの所得がそこまで伸びなかったりとかというようなことがございます。

忠岡町の場合も、やはりその辺なかなか所得が、この推計どおり伸びなかったということ、また被保険者数の、また減少も予想よりかは減少したということがございますので、まず国民健康保険料として、当時、大阪府が推計した金額には、達していなかったという部分があったので、そういった部分が、今回の不足の原因になった主な要因だというふうに分析をしております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

いろいろと理由は言うていただいたんですけど、4ページのところでね、決算状況を書いていただいているんですが、府支出金のところで、マイナス、前年度と比べると、3,800万円減っていると。この理由は何なんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

これは医療費の見込みでございます。被保険者数が減少すれば、もちろんそんなけ医療かかる方が減るということもございますので、あくまでこれは医療費として、忠岡町が負担すべき部分、これは大阪府のほうから全額、府支出金としていただいておりますので、この辺の数字が減ったということでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員、ちょっとだけ待ってくださいね。

お諮りいたします。

本日の会議時間について、議事の都合により、あらかじめこれを延長してよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ご異議ないものと認め、議事の都合により、延長させていただきます。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

府の支出金、医療費の見込みとか、そういったことのお答えでありましたけれども、国保の統一化するとき、府のほうもね、激変緩和というところで、財政、こんなん出してたところがあったんですけど、このマイナスっていうのは、6年激変緩和の措置するところでありましたので、それがこれもうなくなったというところで、この府支出金がマイナス、減ってるけど、そういった理由ではないんでしょうか。激変緩和の。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

激変緩和につきましては、当初3年間措置されていた、確か3年間措置されていたと思うんです。なので、もう令和5年度に関しましては、そういった激変緩和措置というものはなかったというふうに認識してございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

6年ではなかったです、3年間の激変緩和措置でしたか。3年間でしたか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

最初の3年間は、市町村ごとに激変緩和措置が与えられていたんですけども、4年目以降は、もうそういう市町村ごとということをやめて、もうフラットにして、もう全市町村に激変緩和をあてがうような形に、改められたということになってございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

フラットにしたというところで、この府支出金は激変緩和の分がもうなくなったから、ここでやっぱり収支不足が発生したということの原因ではないですか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

あくまで、これは先ほどから私が言うていますとおり、医療費、通常、窓口、お医者さんかかったときには、窓口で3割負担を行いますけども、あと7割相当分が保険者である忠岡町が負担すると。そこの7割相当分の原資がこの府支出金ということにはなるんですけども、もちろんそれだけではございませんけども、大部分がこの府支出金ということがございます。医療にかかる方、金額が減ったと、総体的に減ったということの現象が一番大きな要因にはなってございます。

ただ、ほかにもやはり、インセンティブとか、このあたりもこれまでと比べましたら、かなり引き締められているという部分もございますので、そういったところも若干影響はあるのかなというふうには考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やっぱりね、忠岡町も早くに府の統一保険料にしちゃったわけなんですけど、その中で激変緩和をするということで入っていたお金がもう入ってこなくなったと。府はもうはしご外しちゃったと。国もですけど。

ということで、やっぱり2,500万円の不足が出てきたということであろうかというふうに思います。

ですので、先ほど国の、国保料が非常に料金が高いということも言わせていただきましたけれども、この国保料の滞納がね、増えていっているのかと言うと、そこは私も分析していませんけど、払える国保料に引き下げるところにすればよいというふうに思うんです。

滞納対策ということで、取り立て強化よりも、やっぱり保険料の引き下げやというふうに思うんです。

そこで、収入の少ない人からね、高額な保険料を取るから問題であって、コロナ禍のときに、国がね、全額措置で、収入はかなり減った人の世帯の保険料ね、大きく減免したというところもあって、滞納率も減ったと。そして収納率も上がったということもございました。

ですから、徴収した保険料でね、黒字会計でも、私はこれは取り過ぎた保険料だというふうに思いますよ。それでも、もう1円も返さんと、もう基金も使わんというやり方は、ひどいやり方だというふうに思います。やっぱり余った保険料を加入者に何らかの形で、能勢もやっているんですから、できんことありません。返すことを求めたいというふうに思いますが、いかがでしょう。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

必ずしも、先ほどからも言っていますように、保険料は、いただいた分につきましては、何も忠岡町には残ってございません。全て事業費納付金という形で、周り回って保険給付費の財源の一部に回っているというような状況でございます。国保料が年々高くなっていく要因といたしましては、社会的な要因によるところも大きい部分がございます。年々、少子高齢化、国保に加入される方も年々ね、減ってはいるんですけども、医療費につきましては、1人当たりにかかる分は、その分、高度な医療が年々充実していくという

こともございまして、なかなかその辺がこう反比例するようなものではございませんので、どうしても負担は増えていっているのは事実でございます。

ただ、やはり保険料はもちろん高いよりか低いほうがいいというのは、もちろんそれは分かってはいるんですが、ただ、やはり大阪府全体で支えていくというのが今の都道府県化の枠組みでございますので、忠岡町としては、もちろん大阪府の運営方針に沿って、もう府の、大阪府は1つの国保という部分で、もちろん事業運営は、行っていく分は行っていきつつ、もちろんそういった要望については、きちんとその声を府や国に届けていくというふうなことは、引き続き行ってまいりますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員、この質疑がまだ続きますか。もう2時間ちょっとたっているんで、一旦。

委員（河野隆子議員）

もうあとこれの続きと、あともう1点だけで終わります。

委員長（二家本英生議員）

この続きあります。

委員（河野隆子議員）

簡単なこと、もう簡単なことです。

委員長（二家本英生議員）

そしたら、一旦。

もう5時過ぎていますので、休憩を取りますので。

委員（河野隆子議員）

もう簡単で終わりますけど、いいですか。

委員長（二家本英生議員）

その後まだいらっしゃるんで。

委員（河野隆子議員）

その後いらっしゃるんやね。

委員長（二家本英生議員）

はい。

委員（河野隆子議員）

はい、分かりました。

委員長（二家本英生議員）

お諮りします。

本日は、議事進行上、後期高齢者医療保険会計まで進めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ご異議ございませんので、後期高齢者医療保険会計まで審議を行いますので、ご協力をお願いいたします。

あと、2時間、審議続いておりますので、少し休憩を取りたいと思います。

5時20分から再開いたしますので、よろしくをお願いいたします。

じゃあ、5時15分から再開で、5時15分から。

（「午後5時05分」休憩）

委員長（二家本英生議員）

休憩前に引き続き、審議を再開いたします。

（「午後5時15分」再開）

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

休憩取っちゃったので、私も、すみません。

さっきのね、国保のところの、大谷次長がいろいろとご説明いただいたんですけど、決算状況の4ページのところね、府支出金が減ったのは、今おっしゃったように、一般被保険者の保険給付ね、病院に通ったら、この保険給付が令和4年度に比べたら減っていますよね、前年度比、これは1,000円単位やから、2,800万円ね、減っていますわ。

これは、こっちの府支出金のほうに、イコールの金額ではないけどという説明だということですね。そういうことですね。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

はい、そのとおりです。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それでね、歳出のところの国民健康保険事業費納付金、保険給付が減っているのに、なのに何でこの前年度比と比べたら、991万8,000円ですか、これは何で増えているのかというところはいかがですか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

これも、先ほども説明はさせていただいた部分ではございますが、事業費納付金を出すタイミング、令和4年度の段階で忠岡町の令和5年度の被保険者数であったり、所得、どれぐらいの所得があるかと、そういったものの推計を出した上で、決める部分がございますので、その辺が実際の現実と若干乖離をして、下振れをしたということが1つの原因だということになります。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そしたら、逆に言うと、所得の低い人が国保に入っているというのもあるんでしょうけど、ただ、分からへんのは、保険給付が減っていて、なのに、この国保納付金、これは府に払うお金ですよ、これが何で増えるかと。っていうところが私よく分からない。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

あくまで事業費納付金もそうですが、この府支出金や保険給付費に要する金額も、あくまでこれも推計で、それなりの仮定の数字と言いましょか、それを予算の段階で出しておりますので、やはりあくまでも実際問題として、そのとおりにはないという部分もございます。

事業費納付金に関しましても、府の推計どおりには、もちろんなってございませんし、医療費の伸びにつきましても、実際ね、その年度が始まって、ふたあけてみないことには、どうなるか分からないという部分はございますので、そこはあくまでも見込みの数字と現実の数字の乖離だというふうにご認識をしていただきたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ほんなら、この決算状況については、最後にしますけれども、給付費が減っているのに、なおかつ納付金をね、こっだけ払えという、この府というのは、やっぱり国保の統一化っていうのは、本当にひどいもんやというふうに思います。

基金積み立てていっても、それも保険料に全然入れない、1円たりとも使わないとね。だからもう国保の統一化っていうのは、本当に非情なもんだということは、もう言わせていただきます。

最後に、1点だけ、減免制度のことを1点だけ、もうこれは簡単にお聞きしたいんですけど、保険料の市町村の独自減免制度っていうのがありますよね。

忠岡町が、これは令和5年度やね、これね。忠岡町が減免制度使った方が7名ということで、いつも泉大津市さん、私よく例に出していたんだけど、泉大津さんは71名ね、減

免制度受けた方がいらっしゃるんです。

それで、収入要件っていうところで、150万円以下とか、いろいろあるんですけど、忠岡町が120万円以下で、泉大津がね、160万円以下やねんけども、泉大津はいつも利用料も減免制度使っている方が多いというのは、人口も違いますけどね、やっぱり所得も低い方も多いのかなというふうに思うんですけど、収入要件で、150万円以下っていうところが結構あるのでね、せめて忠岡町も収入要件の120万円以下じゃなくって、この収入要件の金額を上げていただくと。そういうところで、すれすれ使えなかった方の減免が申請できると。そういったことも検討していただきたいというふうに思います。保険料高いですからね。それについて、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

減免制度につきましても、令和6年度から完全、府内統一実施ということで、もう大阪府の統一基準に忠岡町も合わせてございます。

令和5年度までは、確かに忠岡町独自の部分というのはございましたが、もうそこもやはり大阪府は1つの国保という理念のもと、よその市町村も同様に合わせてございますので、この面に関しましては、大阪府の一定のルールの中で、もう実施をしていくというふうに、今後も続けてまいります。ご理解お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

府内統一にして、保険料は高いわ、減免制度は統一でひどいもんだということで、7人しか使えていないというところもあって、やはり忠岡町はね、統一してなかって、独自でね、保険料を設定しているときは、値上げなんかもね、やっぱり今年度は大変やから見送るかとか、そういったことで、やっぱり非常に住民の目線で保険料の料率も決めていただいてきたというところもありますので、府内統一の、この保険料というのは、もうほんま大阪府はひどいということを言わせていただいて、終わります。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、こちら特別委員会資料の、黄色いファイルのところの6番、国保の。6ページです。収納状況について、お聞きしたいと思っております。

令和5年、令和4年に比べて、0.5%収納率がアップしております。

そして、また大阪府、ほかの市町村の平均に比べますと、約0.8%高いです。その理

由は、忠岡町のほうは何か、独自に何かされているのでしょうか。お教えてください。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

収納率のことをございますけども、まず令和2年から令和4年まで、要はコロナで収入が大幅に減ったっていう方につきましては、コロナ減免というのを実施しておりました。これは減免が大きければ収納率もよくなるというふうな、そういう効果と言いましょるか、そういうこともございますので、令和3年度に関しましては、そういったのが一番ピークだったときっていうことになります。

令和4年度は、一定そういったものも落ちつきましたので、一旦下がったというのが原因だと分析はしております。

令和5年度につきましては、忠岡町としましても、税の収納と同様、高額の滞納の方につきましては、徴収機構の力をかりたりとか、もちろん財産調査、差し押さえとか、そういったことにつきましても、力を入れて取り組んでおりますので、その辺は引き続き、今後も同様に続けていくわけをございますので、そういう、やっていることに関しましては、特に何か大きく変わったかというのは、特に大きなあれはないんですけど、ただ先ほども言いましたように、徴収機構のほうで保険料のほうも案件が持っているというふうになつてございますので、そういったことも、プラスのほうに働いているのかなというふうには考えております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。その原因もあるかと思うんですけど、コンビニとかスマホとで収納できているっていうのもあるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

おっしゃるとおりですね。もちろん払いやすいね、お支払いをしやすい環境づくりというのも非常に大事な部分でございますので、そういった支払うこともできるチャンネルを増やすということも、収納率の向上には、もちろんつながっているというふうに考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、それとすみません、一般会計のときにもありましたんですが、不納欠損と

いう、お支払いがもうできなくなったと言うんですか、もう収納ができないっていうのがあったと思うんですけれども、それが資料を見させていただいたときに、すみません、ごめんなさい。国保が304万円っていうこと、書いてあるんですが、前年度に比べて、263万円減少しているっていうことです。また何かそれは昨年と言うか、令和5年で何かあったのでしょうか。教えてください。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

まず、不納欠損につきましては、もちろん滞納されてる方、財産調査とか、そういったもの、こちら実施いたしまして、もちろん差し押さえが可能な方については、差し押さえをできる範囲内での差し押さえをするなり、そういったことでの徴収に努めているんですけども、最終的には、もうやはり、もう財産調査やいろいろこちら手を尽くしたんやけども、もう収納の見込みがないという者につきましては、最終的にはこういった不納欠損という形にはなってしまうんですけども、まず滞納の件数自体も、金額自体が年々減ってきてございますので、総体的にそういう件数や金額は減っているというところも、不納欠損の金額も減少してきているという一因になるかと思えます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

滞納の方が減っているということですね。また引き続きね、国保料高いのは、本当に私も身にしみて思っております。

でも、決まったことなので、従おうかなと思っております。できるところは考えていきたいと思っておりますけれども、頑張って支払ってまいります。すみません、終わらせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

私より、質疑を行いますので、進行を今奈良副委員長に交代いたします。

副委員長（今奈良幸子議員）

それでは、進行を交代させていただきます。

二家本委員長、質疑をお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

資料の2ページのほうなんですけども、歳入の繰入金と歳出の総務費、令和5年度から会計年度任用職員以外の人件費も国民健康保険事業勘定特別会計で持つっていうことにな

ったんで、今回こういう形でされていると思うんですけども、これは何か国からとか、府からの指示とかっては、あったんでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

予算編成をする時点で、財政担当部局のほうからの調整があったということで、こういうふうにさせていただいております。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

すみません、じゃあそれは別に国とか府とかの指示ではなくって、忠岡町内で担当する事業が、の人の職員がここにいるからっていう形で、回されてるっていうことですね。

副委員長（今奈良幸子議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

既に、もうほかのね、市町村でも国保や特別会計のほうで事務を携わる方の分の人件費を持つというふうなやり方は、もちろんされているところもございましたので、忠岡町もその形に倣ったということでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そこで1点確認したいんですけども、今回こういう形で、人件費のほうが保険勘定になっているっていうことで、言ったら、保険事業の会計で人件費が少し圧迫されているというところが思われるような感じがします。

やっぱりそれがお金をこちらで持つことによって、保険料の圧迫になるっていう、そういった可能性っていうのはないんでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

人件費に係る分につきましては、全て一般会計からの事務費繰入金と、すみません、一般会計で言うところの事務費繰出金で、国保会計で言うところの事務費繰入金という部分で、全額その分は一般会計のほうからも、お金でもって、賄えるということでございますので、保険料関係に直接影響するものではございません。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

そういうことでしたら、直接の保険料には関係がないってことが分かりました。

当然もともと一般会計で人件費見てた分が、今回そのまま保険会計に来たっていうことで、町の財政的にもプラスマイナスはゼロっていうことでよろしいんでしょうか。

副委員長（今奈良幸子議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

そのとおりでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

二家本委員長。

委員長（二家本英生議員）

私はやっぱり危惧したのは、今回の国民健康保険事業の納付金、こちらのほうも上がっているってことなので、先ほども上がっているって理由は、お伺いしたいんですけども、例えば国からとか、府からとかで、そういった職員に関しては、保険勘定で見てくれてなったときに、事業費そのものの、大阪府全体の事業費が上がってしまうんじゃないかと。

それによって、健康保険料が上積み、高くなってしまわないか。そういった、懸念があったんですけども、そういった懸念、先ほどの質問、答弁で言うことで、それで全部賄えるということよろしいですか。

副委員長（今奈良幸子議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

はい、そのとおりでございます。

副委員長（今奈良幸子議員）

では、二家本委員長に交代いたします。

委員長（二家本英生議員）

じゃあ、ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

続きまして。

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

午前中に保健、一般会計の保健センター費のところ、特定検診のご質問があったかと

思います。受診率のことだと思っんですけども、それは国保特会のほうでというふうなお話があったと思いますので、その辺、補足で、報告だけさせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

もう総括のほうの、総括始まる前に、修正、訂正をお願いしたいと思います。

じゃあ、続いて審議を行い、再開いたします。

169ページから190ページの介護保険特別会計歳入歳出決算につきまして、担当課より提出資料の説明を求めます。

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

令和5年度介護保険特別会計決算について、ご説明申し上げます。

ご説明につきましては、別途お配りしております資料に基づき、ご説明させていただきますので、ご用意をお願いいたします。

では、資料の1ページをお願いします。

まず、決算状況でございます。

1、決算規模は、歳入17億1,138万4,000円、歳出で16億5,946万4,000円となり、前年度と比べまして、歳入は3,507万円の増、歳出は3,376万1,000円の増となっております。

2番の決算収支につきましては、歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支は、5,192万円の黒字でございます。

次に、2ページをお願いいたします。

歳入でございます。

1、歳入の概要は、歳入総額は17億1,138万4,000円で、前年度に比べ、3,507万円、2.1%の増となっております。

その主な要因ですが、令和5年度より、介護保険事務担当職員の人件費を介護保険特別会計に組み入れたことによる事務費繰入金の増によるものでございます。

なお、平成27年度から繰入金で消費税増税を財源として、給付費の公費とは別枠で、第1号被保険者の低所得者の保険料を軽減するため、繰り入れを行っており、令和5年度は2,868万5,000円を繰り入れております。

その下の介護保険の財源は、第8期計画における介護給付費の財源構成を示したものでございます。

なお、下段米印のとおり、国費の調整交付金の交付割合は、令和5年度は7.16%でございました。

次に、3ページをお願いいたします。

歳入決算額の状況を令和4年度と比較した表で、各年度の構成比も掲載してございます。

まず、介護保険料です。決算額2億9,693万8,000円で、前年度に比べ、294万円、1%の減となっております。

次に、国庫支出金です。決算額4億3,839万9,000円で、前年度に比べ、690万4,000円、1.6%の減となっています。

次に、支払い基金交付金です。決算額4億2,308万2,000円で、前年度に比べ、471万2,000円、1.1%の増となっております。

次に、府支出金です。決算額2億1,695万2,000円で、前年度に比べ、8万8,000円の減となっております。こちら国庫支出金、府支出金の減につきましては介護給付費の、後ほどご説明させていただきますが、少し金額の移動ございましたので、それにつれて、負担金の増減があったものによるものでございます。

次に、繰入金です。決算額2億8,525万7,000円で、前年度に比べ、947万4,000円、3.4%の増となっています。

次に、繰越金です。決算額5,061万1,000円で、前年度に比べ、3,095万3,000円、157.5%となっております。

次に、その他でございます。決算額14万5,000円で、前年度に比べ、13万6,000円、48.4%の減となりました。

次に、4ページをお願いいたします。

保険料の収納状況でございます。現年度分調定額2億9,863万6,000円、収納額2億9,599万円、収納率99.1%となっております。その内訳は、特別徴収収納額が2億6,819万4,000円で、収納率は100%、普通徴収収納額が2,779万6,000円で、収納率は91%となっております。

次に、5ページをお願いします。

歳出でございます。

歳出の概要でございますが、歳出は総額16億5,946万4,000円で、前年度に比べ、3,376万1,000円、2.1%の増となりました。歳出決算額の状況を令和4年度と比較した表で、各年度の構成比も掲載してございます。

まず、保険給付費でございますが、決算額14億6,790万8,000円で、前年度に比べ、238万8,000円、0.2%の増となりました。この主な要因ですが、要介護者の給付額が増加したものでございます。

次に、地域支援事業費です。決算額9,363万9,000円で、前年度と比べ、715万円、7.1%の減となりました。主な要因は、総合事業におけるサービスの減少となったものでございます。

次に、基金積立金です。決算額0円で、前年度と同様でございます。

次に、総務費です。決算額5,214万4,000円で、前年度と比べ、1,868万2,000円の増となっています。この主な要因ですが、介護保険事務担当職員の人件費

を一般会計から介護保険特別会計に組み替えたことによるものでございます。

次に、その他です。決算額4,579万3,000円で、前年度と比べ、1,984万1,000円の増となりました。この主な要因ですが、前年度給付費確定に伴う償還金の増によるものでございます。

次に、6ページをお願いします。

給付等の状況でございます。

まず、一般状況でございますが、65歳以上の第1号被保険者のいる世帯数は、令和5年度末で3,420世帯となり、前年度末の3,430世帯よりも10世帯の減となりました。

次に、第1号被保険者数は、令和5年度末で4,642人となっております。うち65歳以上、75歳未満の前期高齢者は1,895人、75歳以上の後期高齢者は2,742人で、前年度末に比べ、第1号被保険者数は24人の減となっております。その内訳は、前期高齢者が109人の減、後期高齢者が85人の増となったものでございます。

次に、要介護、要支援認定者数でございますが、令和5年度末で963人となっております。うち65歳以上の第1号被保険者数は948人、40歳から64歳までの第2号被保険者は15人となっております。認定を受けた第1号被保険者のうち、前期高齢者は77人、後期高齢者は871人となり、後期高齢者が90.4%を占める結果となりました。

次に、7ページをお願いいたします。

認定者を要介護度別で見ますと、要支援1が222人、要支援2が172人、要介護1が135人、要介護2が155人、要介護3が110人、要介護4が111人、要介護5が58人となっております。

次に、第1号被保険者に占める認定者の割合でございますが、20.4%となっており、前年度からは0.1%増加しておりますが、例年これまでは20%台で推移をしております。

次に、居宅サービス受給者数でございます。令和5年度は累計8,137人で、1カ月当たり平均で見ますと、総数で678人となり、前年度と比べ、41人の減となりました。

次に、8ページをお願いいたします。

地域密着型サービスの受給者数でございますが、令和5年度は累計660人となりました。令和4年度と比べ、主に要支援1、要介護3が増加し、要介護1、2が減少しました。

次に、施設サービス受給者数ですが、令和5年度累計871人で、介護老人福祉施設525人、介護老人保健施設が309人、介護療養型医療施設0人、介護医療院37人で、前年度と比べ、総数11人の減となっております。

次に、9ページをお願いします。

保険給付でございます。給付件数ですが、令和5年度累計で3万365件となっております。その内訳は、居宅サービスで2万8,797件、地域密着型サービスで681件、施設サービス887件で、その割合は、居宅サービス94.8%、地域密着型サービスが2.3%、施設サービスが2.9%となっております。忠岡町の特徴としまして、近隣、またほかの市町村よりも居宅サービスが高い傾向がございます。給付件数の要介護度別につきましては、下記の表のとおりとなっておりますので、ご確認お願いいたします。

次に、10ページをお願いします。

給付額でございます。令和5年度累計の支給額は、14億364万1,000円となりました。その内訳は、居宅サービスで10億2,982万8,000円、地域密着型サービスで1億3,340万8,000円、施設サービスで2億4,040万5,000円となり、その割合は居宅サービスが73.4%、地域密着型サービスが9.5%、施設サービス17.1%となっております。給付額の要介護度別につきましても、下記7表のとおりとなっておりますので、ご確認お願いいたします。

次に、11ページをお願いします。

高額介護（予防）サービス費は、件数3,278件、支給額4,002万8,000円となっております。

また、高額介護、介護（予防）サービス費の年間上限に該当する方はございませんでした。

次に、高額医療合算介護、介護（予防）サービス費は、件数193件、支給額590万5,000円となりました。

次に、特定入所者介護、介護（予防）サービス費は、件数で、食費が677件、居住費667件で、支給額1,692万5,000円となっております。

次に、審査支払い手数料は、件数3万57件、支払い額140万9,000円となりました。

次に、12ページをお願いいたします。

12ページの中ほどの介護予防日常生活支援総合事業の欄をご覧ください。

介護予防日常生活支援総合事業の決算額は、7,751万3,000円で、前年度と比べ、529万9,000円の減となっております。これは総合事業実施に伴う訪問型サービス、通所型サービスの減によるものでございます。

続いて、包括的支援事業及び任意事業の決算額は、1,247万6,000円で、前年度と比べ、129万4,000円の減となりました。これは異動に伴う地域包括支援センター職員人件費の減によるものでございます。

続いて、包括的支援事業、社会保障充実分の決算額は、345万3,000円で、前年度と比べ、54万9,000円の減となっております。これは在宅医療、介護連携推進事業の人件費の減によるものでございます。その他諸費の決算額は、19万6,000円

で、これは介護予防日常生活支援総合事業実施に伴う審査支払い手数料によるものでございます。

13ページ以降は、資料としてつけておりますので、ご覧ください。

説明は、以上でございます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、1件質問させていただきます。

人材確保の観点から、質問をさせていただきたいと思っております。

東京の市区町村では始まっている5年ごとのケアマネの業務更新、免許更新なのか、業務更新なのか分かりませんが、における費用負担を忠岡町もすべきであると考えているんですが、いかがでありますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、介護人材の確保というところで、ケアマネジャーの人材としても、減少傾向は出ております。

そこで、更新の、免許の更新の費用ですけども、個人負担としては少しお高い、5万円から6万円するものでございまして、補助することは有益であると考えます。

ですので、東京等、実施しているところの事業の効果なども見ながら、また一方で、事業所として、更新費用を負担しているところもあるとお聞きしておりますので、そちらの実態なども確認しながら、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

松井委員。

委員（松井匡仁議員）

すみません、ぜひ検討のほうよろしく願いいたします。

以上です。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

これは、第8期の最終の決算でありましたんやけども、基準額がね、いつも高いという

ことは、言わせていただいています、この年の基準額は6,410円ということで、合
うてますかね、私、カタログを新しいのしか持ってきてなくて、6,410円で合
うてますかね。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、8期の期間の基準額は6,410円でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

この基準額というのは、いつもね、この料金表を見て、言うているんですけど、基準
額、これが一番、決めるところで、こっからね、1.13とか掛けたりするんだけど、
この基準額が世帯の誰かに町民税が課税されているけれども、本人はね、町民税非課税で
前年度の課税年金収入額と合計所得金額の合計が80万円、超えた人ってということで、そ
れぐらいの収入しか、所得がない方が基準額ということで、月6,410円というのは負
担ですわ。

ほんで、年金から引くと、2カ月分ね、引かれちゃうので、この倍ということで、かな
り負担にはなるというふうには思うんです。

それで、今回さっきの資料のところでもいろいろと説明いただいたんですが、この最終年
度5,192万円の黒字というご説明が1ページのところであったんですけどね、これは
前年度繰り越し財源0、0と、どう見たらよろしいんですかね、私が見方が分からないん
ですけど。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

1ページの表というところでよろしいですか。

委員（河野隆子議員）

はい、そうです。

福祉課（武藤 優子課長）

こちらは、年度終わりました、会計締めさせていただきます、単純に歳入から歳出を差し
引いた額でございます。

差し引いたところで、5,000万円ほど黒字が出て、令和5年度締めさせていただ
いたんですが、こちらのほうが、まだ給付費が確定した後の精算が終わってないまま、一
度、翌年に繰り越させていただいているものでございまして、令和6年度に入って補正予
算もさせていただいたんですが、こちらの繰り越した5,000円から給付費を基に、

国、府、町ですとか、そちらの負担割合を加味させていただいて、多過ぎた分はお返しさせていただきます。

最終、黒字として残る分につきましては、1,000万円程度となっております、こちら基金に積むという形でご説明させていただいた結果でございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしましたら、残り1,000万円の基金ということで、これはこの今年から3年間、9期が始まるわけなんです、もちろんこの基金というのは、料金と言うか、この基金はどういった使い道しますか。

また、3年間で介護保険料というのは変わらないんだけど、この1,000万円基金ができたということは、この使い道というのは、どういうふうにお考えなんですか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

こちら基金に積ませていただいて、何か急に介護サービスの需要が伸びてしまったときに、その費用として充てるように置いておるものでございます。

ただ、これまでも介護の保険料を3年ごとの期別で考えていく中で、切り替えの際に、一定、基金がたまっておりましたら、その次の期の保険料の軽減に使わせていただいておりますので、8期から9期に切り替える際にも、9期の保険料については、これまでたまっていた基金を使って、軽減させていただいておりますので、基本的には、年度内はきちっと予算をさせていただいて、過不足ないように努めておりますので、もしたまった場合には、保険料軽減として、使わせていただいているものでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

はい、分かりました。

国費の分ね、今度新しいこのパンフレットは、この円形グラフのところはね、この公費のところはもうまとめて50%って書いているので、非常に見にくいんですけども、これは忠岡町が作ったと言うよりか、もう何かもう基になるもんがあってということだというふうに思うんですけど、これは何でこんなグラフになったのかというところは。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

恐れ入ります、忠岡町のほうで作っているものですが、基本的に、行政ごとのサンプル

がございまして、ほかのページの見やすさも加味して、選ばせていただいたんですけども、そちらのご指摘は次のパンフレット作成のときに生かさせていただきたいと思いますので、ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

それでね、2ページのところで、国費の5%、基本分ね、調整交付金という形で、5%入らない年もあると思うんですけどね、この令和5年度については、7.16%といって、余計目に入ったということでもありますけど、それは、ここに理由は書いてあるけれども、もう一度この理由って言うんですかね、増えた理由というのを教えていただけますか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、こちらにも書かせていただいているんですが、この調整交付金、基本的には国庫から入るのは給付費に対する25%が国から、国の負担金としてあるんですけども、その25%の負担金の中で、20%の定率で必ずもらえる部分と調整交付金という形でいただける5%の部分で一旦分かれます。

その5%なんですけども、そこに市町村格差を埋めるために、後期高齢者の割合ですか、所得水準に合わせて、この5%が増えたり減ったりというところを市町村ごとに国が調整してくださっております。

本町につきましては、後期高齢者が多く、所得が低いという判定になりますので、5%を本来のところ、7.16%いただくことができました。

その差分の2.16%で3,000万円ほど多くいただいておりますので、町としてはありがたい算段だったと考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

調整交付金がね、多目に入ってきたということは、よかったなというふうに思うんですけど、その反面、所得の低いということと高齢者の人数が多いということの町のね、今の現状だというふうに思います。

令和4年度も7.21%入っているわけなんですけど、今回この令和5年度、3,000万円ほど、その余分が、5%から7.16%ということで、3,000万円ぐらい入ってきたということで、この3,000万円は第9期のこの保険料を算出するときに、反映されているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

こちらは、令和5年度会計の中で使わせていただいたんですが、保険料自体が令和5年度については、軽減させていただいたところもあるんですが、実際の必要額よりも3,000万円程度少なく収入、少ない収入となりましたので、その補てんとして使わせていただいております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうしましたら、料金、保険料のほうには反映できなかつたと。新しい9期のところでね、できなかつたというご説明だったかというふうに思います。

介護認定の、大変、今厳しいと、思ったようなね、認定がおりないということは、よく相談あるんですけどもね、例えば要介護1の方が認定のときにね、半年の、半年内で悪化がしなければ要支援1に落とすということがあるということでもありますけれども、悪化がしないと言うか、要介護1のときの現状のままいてるんだけど、変わらなかつたら落とされるということで、返って介護が受けられなくなって、状態が悪くなるといった事例があるというふうに聞いていますけど、実情はどうでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

要支援1と要介護1のはざまにあるところなんですけども、認知症があるかどうかと状態が悪化するかどうかではなくて、不安定かどうかになります。退院後であったりとか、何かご事情あったときに、やはり症状固定してない状態ですと、状況が、ご自身も体調悪いでしょうし、どちらかに振れる、よくなる場合もありますし、悪くなる場合もあるんですけども、そういった不安定な状態のときは、サポートも多く必要かというところで、要介護1になります。

ただ、それが落ちついてきて、サポートの部分がどのくらいの量かというところが見えてきたときに、要支援になる場合も、やはりございますので、個々の状況に応じて、決めさせていただいているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

例えばの話、これは例ですけどもね、要介護5の方が4に落とされると。そんなこともあったりで、1人の方は、もう寝たきりで1人では歩けないといった状態なんですけれど

も、ご夫婦で住んでられますのでね、何か用事があれば、おーい、おーいって呼ばれて、奥さん来られるわけですけども、家の改装で二重扉にしたというところで、これが今まではご近所にね、もれてた声もれなくなった。扉、窓を二重サッシにしたことでね。と
いったことで、ご近所からもそういった声がないということで、状態がよくなったんではないかということで、落とされた。そういった事例もあるんですね。

ですので、武藤さん、どうぞ。お答えしますか、先。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

近所の方から聞こえなくなって、それが原因で要介護を落とされると。

委員（河野隆子議員）

そう。

福祉課（武藤 優子課長）

それはないです。

委員（河野隆子議員）

でも、実情あったということも聞いていますのでね。

ですから、要介護、もう先に戻りますけど、例えば1の方ね、今、武藤課長が不安定であるかというところが基準とおっしゃったけれども、同じ要介護1の状態であるけれども、悪化しなければ、もうそのまま要介護1の状態ですと変わらなかったら落とされるということがあるというふうには聞いています。その点についてはいかがでしょうか。多分これはあった、前のね、何か資料にはね、私持ってたんですけどね、確か変わらなかったら落とすということは何かに載っていたというふうに思うんですけど。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

変わらないとなると、基本、更新の申請になると思うんですけども、基本的には同じ介護度がつくことが多いです。

ただ、本人の状態ですとか、それまでに、基本的にはどれだけのサポートが何分この人には必要かという分数換算で介護度が決まってくるんですけども、状態が変わらずに落ちついたことで、手間が少し、少なく済んでしまっているという場合になれば、介護度が落ちる可能性はございます。

ただ、同じだけの手間が必要な方というのであれば、基本的には変わらないことが多いと存じております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

要介護1と要支援1であったら、受けるサービスっていうの、内容はそんなに変わらないと思うんだけど、使える時間というのもね、いろいろと制限されるというふうに思うんです。

ですので、受けたいと思っている人がちゃんと介護が受けられるといった状態でなければ、やっぱり介護保険料払っているのですね、なかなか自分が思っているが、家族がやね、例えば要介護1とか2だろうなというふうに思っているけど、認定審査のときに、なかなか高齢者の人って頑張っちゃうんですね。

ですので、そこで軽い認定しかおきなかったということで、やはり受けたいサービスが受けられないといったこと、苦情もありますのでね、その点については、どうお考えでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

すみません、認定調査を受けていただくとき、やはり頑張ってしまう方、人が来たら気丈にふるまってしまう方あられると思います。そういったときは、少し、やはりできるような調査票になってしまうので、それを防ぐために、特記事項というところがございまして、フリーに記述できるところございまして、こちらのほうで、できるだけチェック項目にはないところを拾わせていただくのと、できるだけケアマネジャーであったりとか、ご家族の方に同席をいただいて、本人こう言ってるけども、本当はどうですかというお話をさせていただいておりますので、そういったところで、一緒に調査を受けていただく方も、できる限りお手間、こういったところがかかっていると、困っているというところをできる限りお聞かせいただけましたら、調査のほうには、そこは踏まえさせていただきますので、ぜひそこは受けていただく方にもお願いしたいところでございます。

あと、使いたいサービスっていうところですけども、やはり本人が思う使いたいサービスっていうところと本人にサポートしてあげて、できるようにしていくという部分では、乖離がやっぱり出てくるところはあると思います。

ただ、介護保険の本質、自立をサポートするというところが本質の理念にございますので、大変な方たくさんいらっしゃると思うんですけども、やはりやり過ぎるとできなくなってしまうというところを防ぐために、全てを入れるわけではなくて、あくまでサポートというところのサービスであると思っております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

自立は、向けてというのは、それは本人にとっても、ご家族にとっても、いいことだと

思うので、その点については、私もそう思いますけどね。やはり保険ですので、サポートすると言うよりかは、保険ですから、これは住民サービスですよ。

ですので、やっぱりなかなか思ったような認定がおりないという方には、ぜひ相談にも乗っていただきたいというのと、あとね、随分前に介護保険、どんどん毎年、毎回改悪されているんですけど、3年ごとに。要介護2からしか、例えばベッドね、使えないということで、要介護1の方でたくさん使っていらっしゃる方がもう取り上げられたということがありました。

それで、もちろん病院の先生の何か意見書があれば、要介護1の方であっても借りれるというのは、私も聞いているんですけどね。

そういったことで、福祉用具もなかなか使えないということと、あと要介護3しか特別養護老人ホームがもう入れないといった、そういった改悪もされました。

それで、やはり収入の低い方は、特養に入りたいという方もいらっしゃると思うんですけど、忠岡で言うたら、もうピープルしかないんだけどね、そこら辺の今あきがあるのかとか、待機者がいるのかと。そこら辺の実態は把握されていますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

ピープルハウスですけども、少し聞いたのが1カ月ぐらい前にはなってしまうんですが、今は満床ではないと聞いております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そしたら、満床でないということは、部屋があいてるということなので、希望者は入れるといった状況と考えてよろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、空きがあればというところになります。

今日時点で埋まってるかもしれないっていうところもありますので、そこはやはり入りたい場合は、一度、直接施設のほうに確認を入れていただきたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

日に日にね、入所者もいらっしゃるし、お亡くなりになる方もいらっしゃるということで、増減っていうのは、日に日に変わってくると思うんですけど、一時聞いたのは、部屋

は余っているんだけど、ヘルパーがね、足りないというところで、受け入れができないといったことも聞いたことあるんですけど、そこはクリア、今できているんですかね。把握できています。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうです、なかなか100%の状態に従業者の方が充実、充足しているというわけではなっていないんですけども、以前よりは増やして、入れる努力はされているとお聞きしております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

やはりヘルパー不足というのがね、よくよく新聞でも言われているんですけど、きれいなお仕事ではね、やっぱりおむつ交換とか、いろいろあったり、重労働ですわ。

そやけど、それにね、同じ労働対価が支払われないというところは、やっぱりこれは国がね、もっとお金出してやればいいんですけど、それについても、やっぱりヘルパー不足で、居宅介護の事業所、そういったところがもうつぶれていってるということも聞くんですけど、忠岡町内のほうはどうでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

直近で、町内の事業所がつぶれたっていうところはお聞きしておりません。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

あとね、障害者の方の65歳問題っていうところを聞きたいんですけどね、障害があつて、サービスを使われていらっしゃるんだけど、65歳になると、介護保険のほうにね、移行されると。そっちのほうに優先されるということで、利用料がね、発生してしまうということで、大変これは困っている方いらっしゃるんじゃないかなというふうに思うんですけど、そこら辺の実情はいかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、65歳に、障害の方なされると、介護保険サービス優先ということになりますので、同等のサービスを受ける場合は、介護保険の給付のほうから出るという形にな

りまして、1割負担か個人負担は出てまいります。少しそういったお声もお聞きすること
はあるんですけども、法に準じまして、優先でさせていただいておりますので、そのと
こはご理解いただきたいんですけども、介護保険はあくまで優先でありまして、ご本人の
特性でありますとか、やはりそのサービスでないといけない、ヘルパーの技術、目の見え
ない、また耳の聞こえない、両方ある方は、こういった指文字で会話をするんですけど
も、そういったことができるヘルパーがいる事業所でないといけないとか、制限がある方
については、引き続き障害のサービスを使っただけでも可能となっておりますので、
まずはご相談いただきたいと考えております。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

国のね、法律は介護保険優先になっちゃうけれども、そこはその人、その人の実情に合
ったことで、相談にも乗っていただけるということでありました。

もちろん利用料の1割負担というのも発生するし、それから例えば通所でサービス使っ
ていらっしゃった方が使えなくなって、場所が変わるといふところもあって、不便をかけ
るといふところもありますので、そこは相談に乗っていただきたいというふうに思うん
ですが、利用料の1割負担ね、もちろん今、武藤課長言われたように、法律では介護保険が
優先になっているんだけど、1割負担が発生してしまうと、65歳になるとね。

ですので、やはりこの1割負担の利用料のね、助成というのも、ぜひ検討していただ
きたいというふうに思いますが。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

1割負担の助成というところは、なかなかやはり、すると、たくさんの方使われないと
いうところは分かるんですけども、やはり本人負担、費用負担というところが介護サー
ビスは1割と皆さんしていただいているところの公平性も兼ねまして、負担はお願いしたい
んですけども、それでやはり生活のほうが悪くなるというのであれば、生活困窮の相談
のほうで、何かほかに手だてができないかというところは、生活保護等も含めて、考えて
いきたいと思っておりますので、そちらについてもご相談くださいというところで、お願いした
いです。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

いろいろと福祉の制度にもつなげていただくということもあるかというふうに思いま
すので、丁寧な対応でお願いしたいというふうに思います。

それと、総合事業なんですけど、窓口に来た人が要介護認定を受けたいと、受け付けをしてほしいというたときに、総合事業、安上がりなサービスがありますよね、それについては、強制はしていないということによろしいですか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、総合事業にある緩和したサービスのことかと思うんですけども、本町は今、現行相当サービスと緩和型ありますが、緩和のほう強制するということはしておりません。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

そうですね、本人がね、緩和サービスやったら利用料も安くなるので、そっちのほうがいいと、望まれる方は別として、そこの強制はされていないということで、分かりました。

あと、地域密着型サービスなんですけどね、定期循環随時対応型訪問介護看護、それから夜間対応型とか、いろいろ載っているんですけども、実際、忠岡町内でこういったサービスを受けられるところの、病院になるのか、事業所になるのか、私そこは分かりませんが、実際受けられるサービスのところあるんですか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

町内に事業所はないんですけども、近隣の事業所が使えますので、使われたい方はこちらでお願いしているところでございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

はい、分かりました。

それで、最後になるんですけどもね、やはり利用料も発生して、保険料が高いということで、第5期、これ最後ですけどもね、第6期に向けて、若干、月十何円か安くなったみたいなんですけど、やはり基準額が高いのでね、一般会計からも繰り入れて、この介護保険料は引き下げていただきたいということをいつも、毎回言わせていただいておりますが、この点については、いかがでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、8期と比べますと、少し下がったというような形に見えます。

ただ、本来、9期の保険料として必要な額、月額にしまして、基準額6,896円、本来でしたら必要でございます。そちらを基金のほうを取り崩して使わせていただいて、お一人、月499円引き下げという形でさせていただいております。

なので、8期と9期の比較だけだと、微々たるものかと思いますが、本来の必要額から見たら、年間と言いますと、6,000円ぐらい、お一人下げてるというところはお認識いただきたいところでございます。

引き下げについてなんですけども、やはり一般会計から入れるとなりますと、以前にも答えさせていただいたとおりになってしまうんですが、課税の方の負担がそこで伸びてしまう、基本的には、負担割合はそれぞれきちっと法で決められておりますので、それに準じてさせていただくことから、一般会計からの追加の繰り入れは考えておりませんので、お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

最後にしますけれども、このね、資料のところの7ページでも、認定者の割合が、第1号被保険者が、65歳以上のね、認定者の割合が20.4%というところで、2割の方しかね、認定受けてなくて、認定受けてても、サービス受けてない方もいらっしゃいますけども、ざくっと見たら、2割の方が認定を受けているということで、あと8割の方はね、介護保険使われてないということなんで、やはり一般会計から繰り入れてということで今、保険料がね、ほかの方に上がってしまうことでもありますけれども、そうじゃなくって、やはり忠岡町の財調とか、いろいろありますよね、そういったところを入れて、引き上げに使うと。そういったことはぜひ検討していただきたいと思うんです。本当、使っていない方には、本当こんな無駄な保険ないわって言うふうに言うていますのでね、そこら辺は、この前やらずぶったくりと言うてしまいましたけど、その点について、いかがでしょう。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、介護保険20%ぐらいの方が受けられています。

20%の方の利用だけでサービスの費用としましては、本人負担を除いて、毎月1億3,000万円ほど支出しているものでございまして、やはりこちらについては、事業所への費用というところになるので、それはひいてはヘルパー、従事者のお給料になってくるものでございますので、そこの引き下げというところは、むしろもう少し、ヘルパーや

従事者の方のお給料としてあげたいと思うところですので、そこが保険料に跳ね返ってしまうところにはなるんですけども、やはり支え合いの制度というところで、いつ自分が介護サービスを受けても、たくさんの方に支えられて、安心してサービスを使うことができるという考えからは、保険料負担として、一定、皆様にはお願いしたいところでございます。

また、財政調整交付金のところですけども、私が一存でお答えできるところではございませんので、申し訳ございません。差し控えさせていただきます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

支え合うというところですけども、やはり住民サービスの向上というところと、非常に高いということは、ずっと言うていますのでね、ぜひ引き下げに、基金も使って引き下げをしていただきたいということは要望しておきます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

先ほど国民健康保険でも聞かせていただいたんですけども、保険料の収納状況について、教えていただきたいんですが、資料を頂いていた物を、こちらの意見書のほうを見させていただいた際に、特別徴収が100%、これはもう国民健康保険と一緒にペアで引き落とされるということですか。100%というのが、私も、ごめんなさい、分かっていないのと、それで普通徴収っていうのは利用された方からもらうお金なんですかね。違いますかね。すみません、分かってなくて申し訳……。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

こちら特別徴収、普通徴収というのは、保険料の納付の仕方のごとくございまして、特別徴収というのが年金から天引きで徴収させていただいているものになっております。

64歳以下の、40歳から64歳の方は、健康保険の中でいただいておりますので、こちらは健康保険と一緒にいただいておりますので、65歳以上の方は、切り離されて、単体で介護保険料が個人にかかってまいりますので、年金から引ける方については、年金からいただいております。

ただ、年額18万円以下であったりとか、いろいろなご事情で年金から天引きできない場合もございまして、そちらの方は普通徴収という形で、納付書であったりとか、口座引き落としという形でご納付いただいております。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

すみません、分かってなくて申し訳ないです。初歩的なことを聞いて、申し訳なかったです。

普通徴収は91.0%ということで、1ポイント下がっているみたいなんですけど、何かそういう要因は、何かありますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、こちら滞納繰り越し分ということで、滞納の方の保険料になるんですけども、こちらとしましても、督促状であったりとか、催告状をお送りして、促させていただいて、お会いできたり、お電話等々で連絡がつかましたら、いろいろ分納のお約束であったりとか、納付の勧奨であったりはさせていただいているんですけども、なかなかそれに応じていただけなかったり、期限が過ぎてしまう、督促を送った次の日から2年たつと時効が来てしまって、保険料取れなくなるんですけども、そういったところもございまして、少しこのあたり、残念ながら0.1ポイント下がってしまったんですが、個人の状況であったりとか、やはり高齢者なので、年金しかない方が多いので、なかなか無理に取るということはでき兼ねる状況もございしますので、そういったところを少し加味させていただいたところと考えていただければ幸いです。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。年金で生活されている方から取って、そうですね、引き落とししているということ。

こちらにも、最後に、収納のところで、不納、すみません、もうついでに初歩的なことを聞いてもよろしいでしょうか。

こちらの居宅サービス、8,137人の方が使われているんですけども、この居宅というのは、デイサービスや、あるいは訪問看護、介護のことでよろしいのでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、基本的に、ご自宅を拠点として生活されている方が使っているサービスになります。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

では、すみません、今、最近よくあるんですけど、サービスつき高齢者住居っていうのは、地域密着型になるんでしょうか。どれに当てはまるんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そちらが少し取扱いが違うもので、あちらがサービスがついている高齢者住宅ですので、介護保険の施設という扱いではなくて、あちらは在宅扱いになります。

なので、あちらの見守りつきのようなサービスがついているマンションのようなものに入っていて、ヘルパーであったりとか、いろんな在宅サービスを入れて生活しているところがございます。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。全然分かってなくて、教えていただいて、すごく助かります。ありがとうございます。

申し訳ないです、時間がもうないところ、申し訳ないんですけども、ここだけお聞きしたい。収納率と言うか、不納欠損、先ほどから国民健康保険でも聞いているんですけども、介護保険料は151万2,000円となっていたみたいなんですけども、これから不納欠損の部分、頑張っていただけをお願いしたいと思います。

委員長（二家本英生議員）

武藤課長。

福祉課（武藤 優子課長）

そうですね、また納付相談等にも力入れさせていただいて、不納が減るように努力してまいりたいと思いますので、お願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

尾崎委員。

委員（尾崎孝子議員）

ありがとうございます。もうこれで終わらせていただきます。ありがとうございます。

委員長（二家本英生議員）

ほかにご質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

次に、193ページから199ページの後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算につきまして、担当課より提出資料の説明を求めます。

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

こちらの資料で説明させていただきます。

令和5年度後期高齢者医療特別会計決算についてのご説明をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

(1)番、決算規模でございます。歳入5億4,216万3,000円、歳出では5億3,273万4,000円となり、前年度と比べまして、歳入は3,832万5,000円、7.6%の増、歳出は3,946万1,000円、8.0%の増となり、差し引き942万9,000円の黒字となりました。

3ページをご覧ください。

後期高齢者会計の決算状況でございます。令和5年度決算額の欄をご覧ください。

歳入では、後期高齢者保険料、使用料及び手数料、一般会計繰入金、繰越金、延滞金が増となりました。歳出では、総務費、後期高齢者医療広域連合納付金、諸支出金が増となっております。

歳入のほうから説明をさせていただきます。

1ページに戻っていただきまして、(2)の歳入の概要をお願いいたします。

①後期高齢者保険料の決算額は、保険料全体で1億9,978万4,000円で、前年度に比べまして306万7,000円、1.6%の増となっております。年金からの特別徴収が1億220万9,000円、普通徴収で9,662万5,000円、滞納繰り越し分が95万円となってございます。歳入に占める割合は36.8%となっております。

②の繰入金の決算状況でございますが、3億3,174万8,000円で、前年に比べまして、3,008万4,000円、10.0%の増となっております。これは主に事務費の繰入金、こちらも後期高齢の担当の正規職員の人件費を持つようになったためによる増によるものでございます。

繰入金のうちの医療費分につきましては、2億4,055万7,000円となっております。

③の繰越金の決算額は、1,056万5,000円で、これは前年度の繰越金でございます。

以上、歳入の合計、5億4,216万3,000円となっております。

2ページをお願いいたします。

次に、歳出の概要をご説明申し上げます。

①の総務費の決算額は、2億6,591万3,000円で、前年度と比べまして、2,986万円、12.6%の増となっており、総務費のうち、広域連合の負担金が2億5,

289万5,000円となっておりまして、前年度と比べ、2,264万3,000円、9.8%の増となっております。

②の広域連合納付金の決算額は、2億6,113万4,000円、前年度に比べ、677万円、2.7%の増となっております。これは保険料の納付金となっております。

③の諸支出金の決算額は、568万7,000円で、過年度分の保険料の払戻金となっております。内訳は、償還金利子及び割引料が22万8,000円、一般会計の返還金が545万9,000円となっております。

以上、歳出合計、5億3,273万4,000円でございます。

歳入歳出の差し引き額といたしましては、942万9,000円の黒字となりました。

続きまして、3ページの保険料の収納率のページでございますけれども、こちらの下段の保険料収納率のすぐ上のところに、被保険者数という欄がございます。こちら令和5年度末が2,658人となっておりまして、前年に比べ、87人が増となっております。

3ページの下段が、これが保険料の収納率ということになってございまして、令和5年度の現年分の保険料の収納率が99.47%となっております。

続きまして、その1つ右隣でございます。滞納繰り越し分でございますが、こちらは72.76%となっております。

資料の4ページは、歳入歳出決算額の構成比でございますので、後ほどご高覧ください。

説明は、以上でございます。どうぞよろしくご審議のほどお願いいたします。

委員長（二家本英生議員）

説明は、以上のとおりです。

ご質疑をお受けいたします。

河野委員。

委員（河野隆子議員）

後期高齢は2年に一遍の保険料改定ということで、この年度、これは令和4年、令和5年、2年間の保険料、同じということでもあります。

均等割が5万4,461円で、所得割が11.12%で限度額が66万円ということで、世帯割、平等割、これはもうなくて、この後期高齢者の医療保険って、もう1人が支払うといったことになっていまして、国保に比べてもね、全然安くないと。ほぼ同額であるということでもあります。

後期高齢者医療保険、広域連合への納付金が増えていると書かれておりますが、個別の会計になっていないのでね、どこにも出ないので、分からないんですが、忠岡町の後期高齢者の方の保険給付費っていうのは増えているんでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

被保険者数が年間約、今100人近く伸びておりますので、医療費全体としては増えてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

府下の後期高齢者が統一保険料という形で取られているんですけども、やっぱり医療費のね、地域間格差というものはあります。

1人当たりの医療費が高い地域も低い地域もね、病院が多いとか、そういうなんもあるんでしょけども、同じ保険料を取られるというのは、非常に納得いかないところです。

忠岡町の方の医療給付費の推移と1人当たりの医療給付費ね、を一度出していただきたいというふうに思います。

これ今日出なければ、明日でもいただきたいんですけども、やはり地域間格差、こういったのはやっぱり考慮されなければいけないというふうに思うんですけど、高い保険料には納得はいかないというところは言わせていただきます。

今言いました資料というのは、出ますでしょうか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

もう一度確認させてほしいんですけども、年度ごとの1人当たりの医療費の推移ということでございますか。

委員（河野隆子議員）

はい。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

今、数字は持ち合わせておりませんので、また明日にでも。

委員（河野隆子議員）

はい、お願いします。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ここにも出ていますけども、保険料を滞納されているという方がいるということで、非常に心配なんですけど、何人の方が滞納されているのかということと、それから保険証ね、その方に保険証がちゃんと手元に届いているのかということです。届いてなければいけません。それは国の通達にもあるんですけどね、後期高齢者には滞納していても保険証を発行しなければいけない。それはもちろん担当課の方、ご存じだというふうに思います

けど、保健課に留め置きは許されへんということで、ちゃんと手元には届いていますか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

滞納されている方の保険証につきましては、国保と同様、短期証というものがございませぬ。短期証の方につきましては、通常のものであれば、簡易書留で郵送をするんですが、短期証の方につきましては、役所のほうに取りに来ていただくというような対応をしております。

短期証は単純に、通常1年間の有効期限が半年間だけということになってございませぬので、これが留め置きというものになるのかどうかは、そこは判断分かれるところだと思っておりますけれども、こちらといたしましては、もう確実に、もう保険証はその方に渡しているということには、間違いございませぬ。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

今、国の通達も言いました。滞納してても保険証を発行しなければならないということで、発行はしているけれども、やっぱり後期高齢者も短期保険証ね、3カ月あるようで、やはりその方は窓口に取りに行かないといけないということです。もう高齢の方もいらっしゃるというふうに思いますので、やはり窓口に来ていただくのではなくって、きっちりとね、やっぱり郵送して手元に届くといったことが必要ではないかと思いますが、いかがでしょう。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

もちろん基本的には国保と同様、納付交渉ということも伴いますので、そこはまずできるだけ接触させていただくというのが大前提になってきてございます。やはり個別事情といたしまして、どうしても難しいというふうなことがあった場合は、そこは別の対応、郵送を含めての別の対応というの、ケースとして、今あるのかどうかは別といたしまして、今後そういったことがあれば、柔軟な対応は取っていきたいというふうに考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

発行はしているけれども、短期保険証で取りに行かなあかんということは、留め置きと一緒にやというふうに思いますのでね、ぜひ後期高齢者の方に対しては、短期保険証であつ

でも、きっちりと郵送をしていただくと。そういったことはもうしていただきたいと思います。もう一度、答弁お願いできますか。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

繰り返しの答弁になるんですけども、短期証というのはあくまで保険料、これは公平に納めていただかなければいけないこととございますので、そういった1つの手段としまして、短期証という制度もございますので、基本は、そういった方に関しましては、基本的にはそういう納税交渉ということを前提にしながら、あとはその方の生活状況であったりとか、個別のケースに応じて、そこはまた柔軟な対応で、対応をしていきたいというふうに考えてございます。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

ぜひ、送ってください。お願いします。

あと、所得ゼロの方ね、ひとり暮らしで所得ゼロという方の法定軽減はもちろんありますけれども、そういった方の保険料は幾らなのかということと、それから事務に係る経費ね、人件費が増えたというふうに説明ありましたけど、人件費の財源は高齢者のこの保険料に上乗せはされていないかという、この2点、お願いします。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

まず、所得ゼロの方の年間保険料でございますが、令和6年、令和7年度、まず均等割しかかからないケースでございますが、本来であれば、年間5万7,172円でございますが、これが70%軽減されますので、年間1万7,151円という金額になります。

それと、もう1つの質問でございますが、今年度、令和5年度から人件費を後期特会のほうで繰り入れたということでございますけども、その分の人件費が後期の保険料に影響を及ぼすということはございません。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

分かりました。所得ゼロでひとり暮らしの方で、70%の法定軽減がかかっているにもかかわらず年間1万7,151円払わなあかんということで、後期高齢者医療保険は非常に高いということが分かりました。

ですので、やはり後期高齢者医療、この保険料に関しても、先ほどから介護保険にし

ろ、国保にしる、言うていますが、やはりいろんなね、軽減策がもっと忠岡町独自で要るかというふうに思いますので、ぜひそれは検討していただきたいということは要望しておきます。

もう最後の質問です。医療機関の受診時の自己負担割合について、聞きます。

令和4年10月1日から課税所得が28万円以上、かつ年金収入プラスその他の合計所得が単身世帯で200万円以上、複数世帯は合計320万円以上の方は、窓口割合負担が2割負担になったんですね。

月3,000円を超えると、月内は1割負担になるということですが、被保険者の約2割の方が負担増になったということが言われていました。

本町で1割負担の方、それから2割負担の方、3割負担の方の人数をそれぞれの全体ね、全体に占める割合、それを教えてもらいたいというのと、令和4年10月1日から新たに1割から2割負担になった人数も教えていただきたいというふうに思いますが、これは出ますか、すぐ。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

すみません、令和4年10月に新たに2割負担になったという分に関しましては、今回、令和4年の決算ということの内容になるかと思うので、今のところ、数字は持っては今いないんですが。

委員（河野隆子議員）

そしたら、令和5年度ね。

委員長（二家本英生議員）

河野委員。

委員（河野隆子議員）

令和4年、令和5年、保険料は2年間一緒ですので、これ令和5年決算ということで、令和4年もね、これ改悪されたのが令和4年10月1日からですので、年度途中でありますので、今日出なくても、明日でも結構ですので、やっぱり資料はいただきたいと。決算委員会ですのでね、資料は要求したいというふうに思います。明日で結構ですので。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

令和4年10月の時点で、新たに2割負担になった方の数を調べておけばよろしいということでしょうか。

委員（河野隆子議員）

そうですね。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

それは明日また総括のタイミングで報告をさせてもらうというような形でよろしいでしょうか。

委員（河野隆子議員）

はい。

委員長（二家本英生議員）

大谷次長、今の資料請求について、お諮りしたいと思います。

委員会として、理事者に対して、この資料の要求をしてもよろしいでしょうか。いいですか。資料の請求。令和4年と、あと令和5年の。いや、資料請求があったら、一応、委員会で、はい。了解を。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ご異議ないものと認めます。

委員会として、資料を要求いたします。

理事者は、この資料について、提出できますか。

大谷次長。

健康福祉部（大谷貴利次長兼保険課長）

明日までには、数を調べて、分かりました。

委員長（二家本英生議員）

はい、分かりました。

それでは、明日、ご提出をよろしくお願いいたします。

河野委員、続けてください。

委員（河野隆子議員）

はい、分かりました。お願いします。

委員長（二家本英生議員）

もう質疑はよろしいですか。

ほかにご質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

ないようですので、質疑を終結いたします。

以上で、各特別会計の決算の審査を終結いたします。

お諮りいたします。

議事の都合により、本日の委員会はこれまでとし、延会いたしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

委員長（二家本英生議員）

異議なしと認め、延会することに決定しました。

なお、明日10時より再開いたします。

明日は、下水道会計から始めますので、よろしくお願いいたします。

委員また理事者の皆さん、大変お疲れさまでございました。

本日は、これで延会いたします。お疲れさまでした。

（「午後6時46分」延会）